

静岡県立大学

看護学部・研究科報

2024 年度

目次

I. はじめに	1
II. 看護学部 of 歴史	1
1. 歴史	1
III. 看護学部・大学院看護研究科 of 教員構成	3
1. 学部 of 教員構成	3
2. 研究科 of 教員構成	4
3. 年度途中退任 of 教員	5
4. 令和 6 年度全学委員会一覧	5
5. 学部委員会	6
6. 学部・研究科合同委員会	6
7. 研究科委員会	6
IV. 看護学部・看護学研究科 of 教育課程	7
1. 学部	7
1) 学部 of 理念	7
2) 教育目標	7
3) ディプロマ・ポリシー	7
4) カリキュラム・ポリシー	8
5) アドミッション・ポリシー	9
6) 学部カリキュラム	10
2. 研究科	19
1) 教育理念	19
2) 教育目標	19
3) 博士前期課程	20
4) 博士後期課程	20
5) 研究科カリキュラム	22
3. 臨地実習表	25
1) 基礎看護学実習 I	25
2) 基礎看護学実習 II	26
3) 3 年次後期臨地実習配置表	27
4) 臨床シミュレーション EBN 実習	28
5) 公衆衛生看護学実習 I (R4 カリ)	30
6) 公衆衛生看護学実習 I	31
7) 公衆衛生看護学実習 II (行政・学校・産業)	31
8) 国際保健・看護実習	32

9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習	32
4. 学生の研究	35
1) 学部の指導体制と研究テーマ	35
2) 研究科の指導体制と研究テーマ	42
V. 学生生活	44
1. 学生定員および在学生数	44
1) 学部	44
2) 研究科	45
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	46
1) 学部	46
2) 研究科	47
3. 卒業・修了者の進路状況	48
1) 学部	48
2) 研究科	49
4. 免許・資格などの取得状況	50
VI. 国際交流	51
1. 令和6年度国際交流等事業	51
2. 国際保健・看護実習	53
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	55
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	55
1) 専門基礎領域の活動	55
2) 環境看護学領域の活動	56
3) 基礎看護学領域の活動	58
4) 成人看護学領域の活動	60
5) 老年看護学領域の活動	63
6) 小児看護学領域の活動	65
7) 母性看護学・助産学領域の活動	70
8) 精神看護学領域の活動	78
9) 公衆衛生看護学領域の活動	80
10) 在宅看護学領域の活動	83
11) 国際看護学領域の活動	85
2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動	87
1) 研究活動	87
2) 外部資金受け入れ	105
3) 令和6年度学部研究推進費等	112
4) 海外研修活動	117

5) その他特記事項	118
VII.学部・研究科としての社会貢献	120
1. 国・地方自治体における活動	120
2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動	123
3. 学会・シンポジウム等の主催	126
4. 雑誌編集関連委員	128
5. 雑誌の査読	128
6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等	130
7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等	136
8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説	138
9. 新聞等メディアへの掲載・出演	139
10. その他活動	140
11. 県民の日	149
12. 高大連携による講師派遣	150
13. 公開講座等の開催状況	151
VIII.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について	152
1. 看護実践家に対するリカレント教育プログラムの提供	152
2. 看護学教育研究に関する国際交流の推進拠点としての活動	153
3. 特定行為研修について	153
4. 静岡県立大学 BLS 資格取得強化プロジェクトの発足	155
5. その他、センターの運営事業実績	156

I. はじめに

看護学教育を行うにあたり「大学教育の質保証」は大変重要な課題と考え、卒業前の4年生を対象にディプロマ・ポリシー（DP）達成度評価を行いました。いずれのDPにおいても学修成果として身につけて欲しいレベルに9割以上の学生が到達しており、大学教育の質を保証できるカリキュラム運営ができているという結果でした。さらに令和6年度は、科目の順次性およびDPとの関連性を可視化したカリキュラムツリーを作成しました。令和7年度には、カリキュラムツリーを履修要項と看護学部HP上で学生や進学を考える高校生に公開していく予定です。看護学部では看護師と保健師を養成していますが、国家試験合格率は、看護師100.0%（新卒者全国90.1%）、保健師98.0%（新卒者全国94.0%）でした。

令和2年12月に開設した看護実践教育研究センターでは、特定行為研修事業の他、看護研究や看護倫理、看護管理に関するセミナーなどを開講し、地域の看護職を対象に様々なリカレント教育を行っています。令和6年度は新たに、在校生に向けたリカレント教育「BLSプロジェクト」を始めました。学生に、医療職者の一員としての自覚を促すだけでなく、看護学実習時や就職後に緊急対応できる能力の育成になっていると考えます。このプログラムリーダーは急性・重症患者専門看護師の教員で、看護学部の助教会が中心となって運営し、臨床により近い教員たちがトレーナーとしてこの講習を支えてくれました。

大学院看護学研究科において2024年度当初に取り上げた重点課題は、①博士課程における入学定員の確保、②内部質保証の改善に向けた取り組み、③研究の実践力の向上の3項目でした。これらのすべては、本研究科委員会、各委員会の積極的な活動により順調に達成へと進んでいます。博士後期課程では募集定員3名のところ1名、博士前期課程では募集定員16名のところ7名の入学予定者がありました。定員充足は満たしていないため、今後も広報活動などに取り組んでいく予定です。さらに、内部質保証においては、看護学研究科における研究指導担当教員の資格基準について大きく見直しを図り、講師や助教も博士前期課程の副指導に携われるように内規の変更を行い、大学院の学則改訂に向けた議論を行っているところです。なお助産師の国家試験の合格率は100%を維持しています。研究の実践力の向上については、2回のFD開催によって教員の意識向上を行ったところです。これらの活動には、本研究科教員だけでなく、他部局の先生方、事務の皆様にも多大なご支援、ご協力をいただきました。ここに心より御礼申し上げます。今後も、継続して課題達成に取り組む、大学・大学院教育の質の担保とさらなる充実を目指していきます。

最後に、学部・研究科報作成にあたりご協力いただいた教員の皆様に御礼申し上げます。

静岡県立大学 看護学部長 山下早苗
大学院 看護学研究科長 篁宗一

Ⅱ．看護学部 of 歴史

1. 歴史

主な出来事

昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	看護学部看護学科が設置される。 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。 (セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加。
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。

平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。
		第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。
平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。
		第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。
		第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。
		第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。
		看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。
		第 8 代研究科長に渡邊順子が就任する。
平成 30 年	4 月	編入学定員を 25 人に増員する。
平成 31 年	4 月	第 10 代学部長に太田尚子が就任する。
		第 9 代研究科長に山田紋子が就任する。
令和 2 年	4 月	看護学研究科博士後期課程が設置される。
令和 2 年	12 月	看護学部附属看護実践教育研究センターが設置される。 （初代センター長に荒井孝子教授が就任する）
令和 3 年	2 月	看護師の特定行為に係る「特定行為研修指定研修機関」に指定される。（厚生労働省医政局 指定研修機関番号 2122010）
令和 3 年	4 月	第 7 代学長に尾池和夫が就任する。
		第 11 代学部長に太田尚子が就任する。（再任）
		第 10 代研究科長に山田紋子が就任する。（再任）
令和 5 年	4 月	第 12 代学部長に山下早苗が就任する。
		第 11 代研究科長に篁宗一が就任する。
令和 6 年	4 月	第 6 代理事長及び第 8 代学長に今井康之が就任する。

Ⅲ. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1. 学部の教員構成

表 3-1-1 令和 6 年度 学部の教員構成

※（令和 7 年 3 月 31 日現在）

領 域	担当教員			
	教授	准教授	講師	助教
専門基礎	井上健一郎 (呼吸器病学)	堀 芽久美	濱井妙子 (特任講師) (薬学、国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学)
環境看護学	荒井孝子			
感染看護学	操 華子			
基礎看護学		加藤京里	管原清子	三沢萌伽 浅原久恵 小原陽子
成人看護学	山田紋子 林みよ子		前野真由美	鈴木郁美 中岡正昭 星 有紀 長谷部美紀 植田春美 中村卓樹
老年看護学		成瀬早苗	野津美香子	宮澤典子 佐藤理乃
精神看護学	篁 宗一			近藤美保 小泉祐貴 佐藤浩一
小児看護学	山下早苗	鈴木和香子		池田麻左子 丸山始美 梁川 明
母性看護・助産学	太田尚子 藤田景子	中川有加 永谷実穂	福島恭子	大和田裕美 長屋和美 池田美音 高橋明味
公衆衛生看護学	畑中純子	鈴木千智	佐藤瑠美	栗田真由美 伊藤純子 藤田登志美
在宅看護学	富安真理		加納江理	榊みのり 森 洋子 山本祐子
国際保健・看護学	竹熊カツマタ麻子		根岸まゆみ	

2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 令和 6 年度 研究科の教員構成

※（令和 7 年 3 月 31 日現在）

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	必修	操 華子 富安眞理 山田紋子 林 みよ子	堀 芽久美	
	看護学共通科目	井上健一郎 操 華子 篁 宗一 山下早苗 富安眞理 竹熊カツマタ麻子		
専門科目	基盤看護学	☆荒井孝子 ☆操 華子 ☆竹熊カツマタ麻子	加藤京里	
	実践看護学	☆山田紋子 ☆林 みよ子 ☆山下早苗 ☆太田尚子 ☆藤田景子	中川有加 永谷実穂 鈴木和香子	
	広域看護学	☆富安眞理 ☆篁 宗一 ☆畑中純子 ☆竹熊カツマタ麻子	☆成瀬早苗 ☆堀 芽久美 鈴木千智	
	助産学課程	☆太田尚子 ☆藤田景子	☆中川有加 ☆永谷実穂	福島恭子 (助教) 大和田裕美 (助教) 長屋和美 (助教) 池田美音 (助教) 高橋明味

☆主指導教員

3. 年度途中退任の教員

表 3-3-1 令和 6 年度途中退任教員

※（令和 7 年 3 月 31 日現在）

区分	職名	退任月日	氏名
—	助教	令和 6 年 4 月 30 日	ヘムストック・ウェン ディ・リアン

4. 令和 6 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	感染症管理対策委員会
留学生委員会	感染症流行検討部会
入学者選抜委員会	中期・年度計画推進委員会
入学者選抜実施委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
個別学力検査問題検討委員会	FD 委員会
質保証委員会	情報センター運営委員会
共同利用機器運営委員会	情報セキュリティ管理責任者
キャリア支援センター委員会	情報セキュリティ管理者
学生委員会	利益相反委員会
教務委員会	男女共同参画推進会議
教務管理部各部会組織	防災委員（草薙・小鹿）
図書館情報委員会	COC センター運営委員
障害学生修学支援部会	地域貢献・産学官連携推進会議委員
保健衛生委員会	SDGs イニシアティブ推進委員会
教職課程委員会	「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」に基づく学内選考委員会
研究倫理委員会	教育研究組織将来計画委員会
公開講座委員会	大学院協議会
国際交流委員会	教員人事委員会
環境安全委員会	教員活動評価委員会
RI 取り扱い管理委員会 (放射線安全委員会)	危機管理委員会

全学委員会名	
動物実験センター運営委員会	公的研究費等適正管理推進委員会
ハラスメント防止・対策委員会	臨床研究施設運営委員会
ハラスメント事実調査部会候補者	麻薬・向精神薬管理委員会
ハラスメント相談員	新学部設置構想検討委員
はばたき 寄金運営委員会	国際交流会館（仮称）構想検討委員会
発明委員会	学務情報システム選定委員会
開学記念行事実行委員会	—
施設の有効利用に関する委員会	—

5. 学部委員会

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
学部入学者選抜実施委員会	学部 FD 委員会
学部質保証委員会	学部カリキュラム検討委員会

6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	教育情報環境整備委員会
広報・企画委員会	研究倫理審査委員会
実習委員会	

7. 研究科委員会

研究科委員会	
研究科教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
FD 委員会	研究科入学者選抜実施委員会
研究科質保証委員会	—

IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

1. 学部

1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

3) ディプロマ・ポリシー

看護学部（以下、本学部という）は、126単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、学則に定める少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目的とします。

その実現のために下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与します。

1. 幅広い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する知識を有している。
 - 1-1 幅広い一般教養を身につけている。
 - 1-2 「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境に関する基礎的知識を身につけている。
2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた思考・判断を説明できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考え看護を実践できる。
4. チームの一員として、健康の課題や地域社会の課題に対する解決策を表現できる。
5. 社会の動向及び保健医療福祉の課題や政策に関心を持つことができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心と主体性を身につけている。

4) カリキュラム・ポリシー

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1. 基礎分野Ⅰ、2. 基礎分野Ⅱ、3. 専門基礎分野、4. 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。幅広く、偏りの無いように選択し、「数理・データサイエンス・AI入門」は必ず修得する。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解および看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

1) 専門分野Ⅰ：

看護学の理念的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

2) 専門分野Ⅱ：

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

3) 統合分野：

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

5) アドミッション・ポリシー

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援します。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求めます。

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

6) 学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	国際安全保障入門Ⅰ
	フランス語入門		国際安全保障入門Ⅱ
	スペイン語入門		くらしと化学 A
	中国語入門		くらしと化学 B
	日本語作文 A		実用科学英語基礎編
	日本語作文 B		実用科学英語応用編
	中級日本語Ⅰ		基礎生命科学Ⅰ 【英語による科目】
	中級日本語Ⅱ		基礎生命科学Ⅱ 【英語による科目】
	情報検索実習		現代日本文化入門 A 【英語による科目】
	数理・データサイエンス・AI 入門 【遠隔授業】 【必修科目】		現代日本文化入門 B 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		経営分析入門 A 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅰ		経営分析入門 B 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学Ⅰ A 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学Ⅰ B 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語Ⅰ		英語で学ぶ日本語学Ⅱ A 【英語による科目】
第2部門 (概論)	TOEIC ビジネス英語Ⅱ		英語で学ぶ日本語学Ⅱ B 【英語による科目】
	自然科学概論		財務会計入門 A 【英語による科目】
	化学入門		財務会計入門 B 【英語による科目】
	生物学入門		言語の学習・習得Ⅰ A 【英語による科目】
	薬剤発達史入門		言語の学習・習得Ⅰ B 【英語による科目】
	物理学入門		言語の学習・習得Ⅱ A 【英語による科目】
	環境科学入門		言語の学習・習得Ⅱ B 【英語による科目】
	哲学入門		静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】
	社会思想史入門		静岡の防災と医療 【しずおか学】
	歴史学入門		静岡地域食材学 A 【しずおか学】
	宗教学入門		静岡地域食材学 B 【しずおか学】
	社会学入門		茶学入門 【しずおか学】
	国際関係学入門		ムセイオン静岡 ― MUSEUM と文化 A 【しずおか学】
	文化人類学入門		ムセイオン静岡 ― MUSEUM と文化 B 【しずおか学】
	公共政策入門		ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産 A 【しずおか学】
	心理学入門		ムセイオン静岡 ― 世界の文化遺産 B 【しずおか学】
	生涯発達心理入門		ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 A 【しずおか学】

知的財産管理入門	ムセイオン静岡 ― 舞台芸術 B	【しずおか学】
	静岡の市民活動	【しずおか学】
	歴史からみるしずおか学	【しずおか学】
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】
	SDGs 概論	【しずおか学】
	ふじのくにガストロノミーツーリズム：観る・食べる・学ぶ	【しずおか学】
	静岡「知」各論―食品環境科学と地域企業の視点から―	【しずおか学】
	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	【しずおか学】
	ふじのくに学(お茶)	【しずおか学】
	ふじのくに学(観光学)	【しずおか学】
	ふじのくに学(演劇論)	【しずおか学】
	ふじのくに学(南アルプスの自然)	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション) II	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション) III	【しずおか学】
	ふじのくに学(農林業)	【しずおか学】
	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	【しずおか学】
	ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)	【しずおか学】
	ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)	【しずおか学】
	ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)	【しずおか学】
	健康イノベーション教育プログラム	【しずおか学】
	キャリアデザイン概論	
	男女共同参画社会とジェンダー	
	人権が支える社会	
	ジャーナリズム論	
	キャリアと社会	
	高野山で学ぶキャリアとわたし	

授業科目一覧
(平成 30 年度以降の入学生用)

授業科目の概要	授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位	
			必修			選択				
	(全学共通科目)	基礎分野Ⅰ		1・2・3・4	前・後		各 2 5 1	38 5 135	10 単位 以上 選択	
第1部門										
第2部門										
第3部門										
総合科目										
基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	137			
	研修	海外英語研修	1・2・3・4			2				
	教育	日本国憲法	1	後		2	139			
		教育学	2	後		2	140			
基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		141	必修 7 単位		
		基礎セミナーⅡ	2	前		1	142			
	英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		143			
		フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		144			
		フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		145			
		フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		147			
		英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		148			
		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		149			
	専門基礎分野	人間と生活の理解	人間関係論	1	前	2			151	2単位選択
			臨床心理学	2	後		1		152	
健康行動論			2	前		1	153			
運動と健康の生理学			1	前		1	154			
健康環境論			1	前		1	155			
医療・看護経済論			2	前		1	156			
国際看護論			2	後		1	157			
機能と人体の構造		機能形態学Ⅰ	1	前	2		158	必修 28 単位 + 選択 4 単位		
		機能形態学Ⅱ	1	後	2		159			
		生物化学	1	前	1		160			
		基礎健康科学演習	1	後	2		161			
疾病の成り立ちと回復の促進		症候論	1	後	2		163			
		微生物学	1	後	1		164			
		臨床薬理学	2	前	2		165			
		臨床栄養学	2	前	2		166			
		病態学	2	前	2		167			
社会保健制度と		公衆衛生学	1	前	2		169			
		社会福祉論	1	後	1		170			
		保健福祉行政論	2	前	2		171			
		保健医療統計学	1	前	2		172			
		情報処理演習	1	後	1		173			
		疫学	2	後	2		174			
基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野 単位数計									49(選択4含む)	

		授業科目の名称	配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位
					必修	選択		
授業の概要	専門分野Ⅰ	看護学原論	1	前	2		175	必修 51 単位
		基礎看護技術論Ⅰ	1	前	2		176	
		基礎看護技術論Ⅱ	1	後	2		177	
		基礎看護技術演習Ⅰ	1	後	1		178	
		看護コミュニケーション演習	1	前	1		179	
		基礎看護技術演習Ⅱ	1	後	1		180	
		看護アセスメント演習	2	前	1		181	
		看護と倫理	2	後	1		183	
		看護コミュニケーション実習	1	前	1		184	
		看護アセスメント実習	2	前	2		185	
	専門分野Ⅱ	慢性看護学概論	2	後	2		186	
		慢性看護援助論演習	2	後	1		187	
		急性期看護学概論	3	前	2		188	
		急性期看護援助論演習	3	前	1		189	
		慢性看護学実習	3	後	2		190	
		急性期看護学実習	3	後	2		191	
		臨床シミュレーションEBN実習	4	前	2		192	
		老年看護学概論	2	後	2		193	
		老年看護援助論	2	後	1		194	
		老年看護学演習	3	前	1		195	
		老年看護学実習Ⅰ	3	後	2		196	
		老年看護学実習Ⅱ	3	後	1		197	
		母性看護学概論	2	前	1		198	
		母性看護援助論Ⅰ	2	後	1		199	
		母性看護援助論Ⅱ	3	前	1		200	
		母性看護学演習	3	前	1		201	
		母性看護学実習	3	後	2		202	
		小児看護学概論	2	後	2		203	
		小児看護援助論	3	前	1		204	
		小児看護学演習	3	前	1		205	
		小児看護学実習	3	後	2		206	
		精神看護学概論	2	後	2		207	
		精神看護援助論	3	前	1		208	
		精神看護学演習	3	前	1		209	
		精神看護学実習	3	後	2		210	

授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	取得必要単位				
					必修	選択						
授業科目の概要	専門分野	統合分野	地域包括ケア	1	後	1		211	必修 25 単位 ※保健師国家試験受験資格要件			
			災害看護セミナー	2	後	1		212				
			地域家族支援論	2	後	2		213				
			在宅看護学概論	3	前	2		214				
			在宅看護学演習	3	前	1		215				
			在宅看護学実習	3	後	2		216				
			看護コミュニケーション演習アドバンス	3	後		1	217				
			看護アセスメント演習アドバンス	4	前		1	218				
			公衆衛生看護学概論	1	後	2		219				
			ヘルスプロモーション	2	前	2		220				
			国際保健・災害看護論	2	前	2		221				
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2	後	2		222				
			公衆衛生看護基礎実習	2	後	1		223				
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前		2	224				
			公衆衛生看護管理論	3	前		2	225				
			公衆衛生看護方法論	3	前		2	226				
			公衆衛生看護学演習	3	後		1	227				
			公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	前		2	228				
			公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	229				
			看護研究	3	前	1		230				
			卒業研究A	3	通		2	231				
			卒業研究B	4	通	2		232				
			国際保健・看護演習	4	前		1	233				
			国際保健・看護実習	4	通		2	234				
			発展看護実習	4	通	2		235				
			看護管理論	4	後	1		236				
			看護政策論	4	後	1		237				
			看護キャリアデザイン論	4	後		2	238				
			専門分野 単位数計								76	
			卒業要件(最低単位数)								125	

※ 卒業に必要な最低修得単位数は 125 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された 11 単位——公衆衛生看護活動論Ⅱ(2 単位)、公衆衛生看護管理論(2 単位)、公衆衛生看護方法論(2 単位)、公衆衛生看護学演習(1 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅰ(2 単位)、公衆衛生看護学実習Ⅱ(2 単位)を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

※基礎分野Ⅰ（全学共通科目）の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。
本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

- イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー
- ウ 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、
オリジナルとそのコピー
- ※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

授業科目一覧									
(令和4年度以降 入学生用)									
	授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位
						必修	選択		
授業科目の概要	(全学共通科目)	第1部門		1・2・3・4	前・後			37 5 133	10 単位 以上 選択
		第2部門							
		第3部門							
		総合科目							
	基礎分野Ⅱ	運動	身体運動科学	1	通		2	134	
		研修	海外英語研修	1・2・3・4			2		
		教育	日本国憲法	1	後		2	136	
			教育学	2	後		2	137	
	基礎分野Ⅱ	主体性と判断力の育成	基礎セミナーⅠ	1	前	1		138	必修 7 単位
			基礎セミナーⅡ	2	前		1	139	
		英語コミュニケーション	フレッシュマンイングリッシュⅠ	1	前	1		140	
			フレッシュマンイングリッシュⅡ	1	前	1		141	
			フレッシュマンイングリッシュⅢ	1	後	1		142	
			フレッシュマンイングリッシュⅣ	1	後	1		144	
			英語コミュニケーションⅠ	2	前	1		145	
			英語コミュニケーションⅡ	2	後	1		147	
	専門基礎分野	人間と人間の生活の理解	身体と心のセクシュアリティ	1	前	1		148	2単位選択必修
			人間関係論Ⅰ	1	前	1		149	
			人間関係論Ⅱ	1	前		1	150	
			臨床心理学	2	後		1	151	
			健康行動論	2	前		1	152	
			運動と健康の生理学	1	前		1	153	
			健康環境論	1	前		1	154	
			医療・看護経済論	2	前		1	155	
		機能と人体の構造と回復の促進	国際看護論	2	後		1	156	2単位選択必修
			機能形態学Ⅰ	1	前	2		157	
			機能形態学Ⅱ	1	後	2		158	
			生物化学	1	前	1		159	
基礎健康科学演習			1	後	2		160		
症候論			1	後	2		162		
微生物学			1	後	1		163		
臨床薬理学			2	前	2		164		
社会健康支援と保障制度		臨床栄養学	2	前	2		165	必修 28 単位 + 選択 4 単位	
		病態学	2	前	2		166		
		公衆衛生学	1	前	2		168		
		社会福祉論	1	後	1		169		
	保健福祉行政論	2	前	2		170			
	保健医療統計学	1	前	2		171			
	情報処理演習	1	後	1		172			
	疫学	2	後	2		173			
基礎分野Ⅰ＋基礎分野Ⅱ＋専門基礎分野 単位数計								49(選択4含む)	

		授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		頁	修得必要単位	
					必修	選択			
授業の概要	専門分野Ⅰ	看護学概論	1	前	2		174	必修 48 単位	
		基礎看護技術Ⅰ	1	前	1		175		
		看護コミュニケーション論	1	前	1		176		
		基礎看護技術Ⅱ	1	後	2		177		
		基礎看護技術Ⅲ	1	後	1		178		
		看護アセスメント演習	2	前	1		179		
		看護アセスメント方法論	2	前	1		180		
		基礎看護技術Ⅳ	2	後	1		181		
		看護と倫理※	2	後	1		182		
		基礎看護学実習Ⅰ	1	前	1		183		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	通	2		184		
	専門分野Ⅱ	慢性看護学概論	2	後	2		185		
		慢性看護援助論演習	2	後	1		186		
		慢性看護学実習	3	後	2		187		
		急性期看護学概論	3	前	2		188		
		急性期看護援助論演習	3	前	1		189		
		急性期看護学実習	3	後	2		190		
		老年看護学概論	2	後	2		191		
		老年看護援助論	2	後	1		192		
		老年看護学演習	3	前	1		193		
		老年看護学実習	3	後	2		194		
		母性看護学概論	2	前	1		195		
		母性看護援助論Ⅰ	2	後	1		196		
		母性看護援助論Ⅱ	3	前	1		197		
		母性看護学演習	3	前	1		198		
		母性看護学実習	3	後	2		199		
		小児看護学概論	2	後	2		200		
		小児看護援助論	3	前	1		201		
		小児看護学演習	3	前	1		202		
		小児看護学実習	3	後	2		203		
		精神看護学概論	2	後	2		204		
		精神看護援助論	3	前	1		205		
		精神看護学演習	3	前	1		206		
		精神看護学実習	3	後	2		207		
		統合分野	地域包括ケア	1	後	1			208
			災害看護セミナー	2	後	1			209
			地域家族支援論	2	後	2			210
			在宅看護学概論	3	前	2			211
			在宅看護学演習	3	前	1			212
			在宅看護学実習	3	後	2			213

授業科目の名称			配当 年次	開講 学期	単位数		頁	修得必要単位	
					必修	選択			
授業科目の概要	専門分野	統合分野	公衆衛生看護学概論	1	後	2		214	必修 27 単位 + 選択 2 単位 ※保健師国家試験受験 資格要件 指定7科目11単位 <

※卒業に必要な最低修得単位数は 126 単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※さらに「保健師国家試験受験資格要件」で指定された 11 単位を修得することで「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

保健師国家試験受験資格取得を希望する場合は、3 年前期に公衆衛生看護活動論Ⅱ（2 単位）、公衆衛生看護管理論Ⅰ（1 単位）、公衆衛生看護方法論（2 単位）を修得すること。

保健師国家試験受験資格取得の科目履修者として選抜された場合は、3 年後期に公衆衛生看護学演習（1 単位）、4 年前期に公衆衛生看護学実習Ⅱ（2 単位）、公衆衛生看護学実習Ⅲ（2 単位）、4 年後期に公衆衛生看護管理論Ⅱ（1 単位）を修得することで、保健師国家試験受験資格取得を得られる。

※基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の「しずおか学」科目群については、卒業までに 2 単位以上修得すること。

※基礎分野Ⅰ(全学共通科目)の必修科目「数理・データサイエンス・AI 入門」は、必ず修得すること

【海外英語研修の履修・認定方法】

(1) 本学部が認定した 3 週間あるいは 4 週間のコースを修了した学生に 2 単位を認定する。

本学部授業期間中の履修については、原則として単位を認定しない。

(2) 成績は本学で認定する。

(3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

ア 「海外英語研修単位認定申請書」

イ 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

ウ 担当教員より **Student Report** 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。

また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

2. 研究科

1) 教育理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し、最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の育成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究及び実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2) 教育目標

博士前期課程

本研究科博士前期課程における教育目標は、以下のとおりである。

1. 看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人材を養成する。
2. 看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組める人材を養成する。

博士後期課程

本研究科博士後期課程における教育目標は、以下のとおりである。

1. 看護高等教育機関における研究者・教育者として、新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組み、専門的知識と指導力に基づいた質の高い教育・研究を実践できる人材を養成する。
2. 看護・保健・医療・福祉の場において有効な看護サービスを開発し、多様な課題に取り組める人材を養成する。

3) 博士前期課程

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士前期課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 研究能力と専門性を修得するため、看護の専門分野における理論と知識の基礎を学び、健康課題とその解決に向けて、看護研究を計画・実施できる教育課程を編成する。
2. 専門的で高度な実践能力を修得し、リーダーシップを発揮するために、各領域に特論、演習等を配置し、看護・保健・医療・福祉のニーズに取り組む基盤形成となる教育を行う。
3. 研究活動を通じて様々な領域における活躍を目指すために、各領域に研究科目を配置し、課題解決に向けた研究プロセスを修得できる教育課程を編成する。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士前期課程では、看護サービスの質向上を目指して実践看護分野においてリーダーとなる人、看護・保健・医療・福祉の場における教育や研究課題に取り組む意思を有する人を求める。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

4) 博士後期課程

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、所定の単位を修め、博士論文審査及び最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして博士（看護学）の学位を授与する。

1. 各自の実践看護分野を基軸として、自律的に、研究計画を立案し、計画的、継続的に研究を実施できる能力を修得している。
2. 現在の社会背景、地域における健康課題、ケア対象者や地域住民のニーズを的確に察知でき、自らの研究の意義や自己の果たすべき役割を論理的に述べる能力を身につけている。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に積極的に取り組み、多様な課題を解決しようとする姿勢を身につけている。
4. 看護研究者・教育者として必要な倫理的・探求的態度、人間性、教育的姿勢を身につけている。

教育方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科博士後期課程では、学位授与の方針に揚げる能力の獲得を達成するために、以下のカリキュラム・ポリシーに基づき科目を編成する。

1. 専門領域における実践の基盤となる理論と知識を学び、健康課題を発見し、その解決に向けて、学際的に、自律して看護研究を計画・実施できるための教育課程を編成する。
2. 生体に影響を及ぼす関連学問領域の諸理論や概念、およびわが国の社会保障制度や保健医療福祉政策を学び、広く社会のニーズに対応できる、柔軟な適応力を醸成する教育を行う。
3. 国内外の研究者との交流、国内外の学会での発表が行えるような体制をつくり、看護研究者としての基盤を形成できるような教育を行う。

入学時に期待する学生像（アドミッション・ポリシー）

本研究科博士後期課程の重要な目的は、看護研究を主導できる研究者、看護サービスの質の向上や看護学の教育の改善に寄与する研究を担うことができる人材を養成することである。そのために、学生は、入学時点で以下の能力を有していることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を持ち、これまでの看護実践活動と研究成果から取り込むべき研究課題を見出し、研究を通して、看護学の発展や地域・社会に貢献しようとする意思を有している。
2. 看護専門職として必要な教養と倫理観、語学力や看護学に関する高度な知識・技術を持ち、これまでの看護研究の経験を通して培った基礎的研究能力を有している。
3. 論理的思考と柔軟な発想をもち、様々な課題を解決して真理を探究し、継続的に、自律して研究を実践する強い意思を有している。

5) 研究科カリキュラム

博士前期課程

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	研究法Ⅰ	1 前	2	
		研究法Ⅱ	1 前	2	
	選択	看護理論	1 前・2 前		2
		看護倫理特論	1 前・2 前		2
		看護教育学特論	1 前・2 前		2
		看護管理学特論	1 前・2 前		2
		家族看護特論	1 後・2 後		2
		基礎科学特論	1 後・2 後		2
		国際保健医療特論	1 前・2 前		2
		英語科学論文クリティーク	1 前・2 前		2
専門科目	選択必修	基盤看護学特論Ⅰ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅱ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅲ	1 前		2
		基盤看護学特論Ⅳ	1 前		2
		基盤看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		基盤看護学応用演習Ⅳ	1 通		4
		基盤看護学特別研究	2 通		6
		実践看護学特論Ⅰ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅱ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅲ*	1 前		2
		実践看護学特論Ⅳ	1 前		2
		実践看護学特論Ⅴ	1 前		2
		実践看護学応用演習Ⅰ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅲ*	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅳ	1 通		4
		実践看護学応用演習Ⅴ	1 通		4
		実践看護学特別研究	2 通		6
		広域看護学特論Ⅰ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅱ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅲ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅳ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅴ	1 前		2
		広域看護学特論Ⅵ	1 前		2
		広域看護学応用演習Ⅰ	1 通		4

		広域看護学応用演習Ⅱ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅲ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅳ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅴ	1 通		4
		広域看護学応用演習Ⅵ	1 通		4
		広域看護学特別研究	2 通		6
	助産学課程選択必修	助産学特論	1 前		2
		助産学応用演習	1 後－2 前		4
		妊娠期助産診断技術学	1 前		2
		統合ヘルスケア論	1 通		2
		妊娠期助産診断技術学演習	1 前		3
		助産学基礎演習	1 通		3
		地域助産学実習	1 通		2
		助産学課題研究	2 通		4
	助産師養成選択科目	助産学概論	1 通		2
		助産管理論	1 後		2
		母子保健包括支援論	1 通		2
		周産期学	1 前		2
		リプロダクティブ・ヘルス演習	1 後		2
		周産期助産学演習	1 前		1
		周産期助産学実習	1 通		1
		助産診断学演習Ⅰ	1 前		2
		助産診断学演習Ⅱ	1 前		3
		助産技術学演習	1 通		3
		助産学実習	1 後		9
		助産学統合実習	2 前		2

*印：2024 年度は開講せず

博士後期課程

		授業科目	開講年次	単位数	
				必修	選択
共通科目	必修	看護学研究特講	1 前	2	
	選択	生体環境科学特講	1 前・2 前		2
		保健福祉政策特講	1 前・2 前		2
専門科目	選択	看護技術開発特講	1 前		2
		感染看護学特講	1 前		2
		小児看護実践開発特講	1 前		2
		助産学特講	1 前		2
		がん看護理論特講	1 前		2

		周手術期看護学特講	1 前		2
		精神保健看護学特講	1 前		2
		地域・在宅看護システム特講	1 前		2
		国際看護学・看護管理学特講	1 前		2
		公衆衛生情報学特講	1 前		2
		老年看護学特講	1 前		2
演習・研究科目	必修	看護学特別演習	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅰ	1 通	2	
		看護学特別研究Ⅱ	2 通	2	
		看護学特別研究Ⅲ	3 通	4	

1) 基礎看護学実習 I

25

2) 基礎看護学実習Ⅱ

グループ	A 59人	Aグループ		前半実習						後半実習			
		月		8月						2月			
		日		26	27	28	29	30		17	19	20	21
		学籍番号	学生氏名	月	火	水	木	金		月	水	木	金
1	5			静岡県立総合病院 3E						静岡県立総合病院 3E			
2	6			静岡県立総合病院 4A						静岡県立総合病院 4A			
3	6			静岡県立総合病院 4B						静岡県立総合病院 4B			
4	6			静岡県立総合病院 4G						静岡県立総合病院 4G			
5	6			静岡県立総合病院 4E						静岡県立総合病院 4E			
6	6			静岡県立総合病院 5A						静岡県立総合病院 5A			
7	6			静岡県立総合病院 5B						静岡県立総合病院 5B			
8	6			静岡県立総合病院 5G						静岡県立総合病院 5G			
9	6			静岡県立総合病院 6C						静岡県立総合病院 6C			
10	6			静岡県立総合病院 6D						静岡県立総合病院 6D			
グループ	B 57人	Bグループ		前半実習						後半実習			
		月		9月						2月			
		日		2	3	4	5	6	10	12	13	14	
		学籍番号	学生氏名	月	火	水	木	金	月	水	木	金	
11	6			静岡県立総合病院 3E						静岡県立総合病院 3E			
12	6			静岡県立総合病院 4A						静岡県立総合病院 4A			
13	6			静岡県立総合病院 4B						静岡県立総合病院 4B			
14	6			静岡県立総合病院 4G						静岡県立総合病院 4G			
15	5			静岡県立総合病院 4E						静岡県立総合病院 4E			
16	6			静岡県立総合病院 5A						静岡県立総合病院 5A			
17	6			静岡県立総合病院 5B						静岡県立総合病院 5B			
18	5			静岡県立総合病院 5G						静岡県立総合病院 5G			
19	5			静岡県立総合病院 6C						静岡県立総合病院 6C			
20	6			静岡県立総合病院 6D						静岡県立総合病院 6D			

3) 3 年次後期臨地実習配置表

G	人数		9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
			1クール		2クール		3クール		4クール		5クール		6クール		7クール		8クール		9クール		10クール		11クール		12クール		13クール		14クール																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			9	14	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	2	9	16	23	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
1	6	急性期 済生会59 橋・中村					在宅／富安 日赤2-7 前野		慢性 日赤2-7 前野		小児 こども 西3A 西3B・西6 丸山・池田		母性 藤枝 大和田		小児 こども 西3A 西3B・西6 丸山・池田																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</

4) 臨床シミュレーション EBN 実習

	日程	G	チーム	人数	担当教員
病棟実習・看護過程の展開 & EBNプロジェクト	6月3日～6月7日	1	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		2	A	3名	山田紋子 中村卓樹
			B	3名	
		3	A	3名	植田春美
			B	3名	
		4	A	3名	長谷部美紀
			B	3名	
		5	A	3名	前野真由美
			B	3名	
	6月10日～6月14日	6	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		7	A	3名	山田紋子
			B	3名	
		8	A	3名	植田春美
			B	3名	
		9	A	3名	長谷部美紀
			B	3名	
		10	A	3名	前野真由美
			B	3名	
	6月24日～6月28日	11	A	3名	林みよ子
			B	3名	
		12	A	3名	中村卓樹
			B	3名	
		13	A	3名	植田春美
			B	3名	
		14	A	3名	長谷部美紀
			B	3名	
	7月1日～7月5日	15	A	3名	前野真由美
			B	3名	
		16	A	4名	林みよ子
			B	3名	
		17	A	3名	中村卓樹
			B	3名	
		18	A	3名	植田春美
			B	3名	
		19	A	3名	長谷部美紀
			B	3名	
		20	A	3名	前野真由美
			B	3名	

	日程	G	チーム	人数	担当教員
シ ミ ュ レ ー シ ヨ ン 実 習	6月3日～6月7日	1	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		2	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		3	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		4	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		5	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
	6月10日～6月14日	6	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		7	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		8	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		9	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		10	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
	6月24日～6月28日	11	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
		12	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		13	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		14	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		15	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	
	7月1日～7月5日	16	A	4名	鈴木郁美
		17	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		18	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		19	A	3名	中岡正昭
			B	3名	
		20	A	3名	鈴木郁美
			B	3名	

5) 公衆衛生看護学実習Ⅰ (R4カリ)

令和6年度 公衆衛生看護学Ⅰ Aグループ 60人 <R7.2.7 (金)～R7.2.14 (金)>

2月7日（金）	2月10日（月）	2月12日（水）	2月13日（木）	2月14日（金）
富士宮市 10人 （杉山）	地区視診（個人）	富士保健所	富士フィルム	学内実習まとめ （AM） 255 （PM） 204・205
富士市 15人 （佐藤）		25人 （佐藤 杉山）	25人 （畑中 栗田）	
吉田町 10人 （栗田）	ジャトコ① 35人 （畑中 伊藤）	地区視診（個人）	中部保健所 35人 （鈴木 藤田）	
島田市 10人 （藤田）				
牧之原市 8人 （鈴木）		焼津市 7人 （藤田）		
地区視診（個人）				

令和6年度 公衆衛生看護学Ⅰ Bグループ 59人 <R7.2.17 (月)～R7.2.21 (金)>

2月17日(月)	2月18日(火)	2月19日(水)	2月20日(木)	2月21日(金)
三菱電機 38人 (伊藤 栗田)	御前崎市 5人(藤田)	地区視診(個人)	西部保健所 21人 (伊藤 藤田)	学内実習まとめ 253・254
	袋井市 16人 (伊藤)		静岡市保健所 38人 (畑中 杉山)	
	静岡市東部A 6人(栗田)			
	地区視診(個人)	静岡市長田A 6人(鈴木)		
	静岡市東部B 5人(栗田)			
ジャトコ② 21人 (佐藤 杉山)	静岡市長田B 6人(鈴木)	地区視診(個人)		
	静岡市北部 5人(佐藤)			
	静岡市清水 6人(畑中)			
	地区視診(個人)	静岡市蒲原 4人(杉山)		

※  に白文字は県・静岡市保健所実習、 は市町保健センター実習、 は事業場での産業保健実習

※ 人数は学生人数、名前は担当教員名

6) 公衆衛生看護学実習 I

公衆衛生看護学実習 I

施 設	実習期間	学生数	担当教員
御前崎市役所	5/6～5/17	4 名	栗田真由美
静岡市北部保健福祉センター	5/13～5/24	7 名	佐藤瑠美
富士市保健センター	5/13～5/24	10 名	藤田登志美・杉山眞澄
静岡市大里保健福祉センター	5/13～5/24	7 名	鈴木千智
吉田町保健センター	5/13～5/24	4 名	伊藤純子
静岡市清水保健福祉センター	6/17～6/28	8 名	鈴木千智
静岡市蒲原保健福祉センター	6/17～6/28	7 名	栗田真由美
焼津市保健センター	6/24～7/5	6 名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	6/24～7/5	10 名	藤田登志美・杉山眞澄
島田市保健センター	8/26～9/6	10 名	鈴木千智
牧之原市保健センター	8/26～9/6	9 名	栗田真由美・畑中純子
静岡市藁科保健福祉センター	8/26～9/6	8 名	佐藤瑠美
静岡市長田保健福祉センター	8/26～9/6	8 名	藤田登志美・杉山眞澄
袋井市保健センター	9/2～9/13	4 名	伊藤純子
静岡県富士健康福祉センター	5/14	20 名	藤田登志美・杉山眞澄
静岡県西部健康福祉センター	5/14	8 名	栗田真由美
静岡県中部健康福祉センター	5/9	29 名	鈴木千智・伊藤純子
静岡市保健所	5/10	45 名	鈴木千智・伊藤純子

計 102 名

7) 公衆衛生看護学実習 II (行政・学校・産業)

公衆衛生看護学実習 II (行政)

施 設	実習期間	学生数	担当教員
富士市保健センター	6/3～6/14	6 名	藤田登志美、杉山眞澄
静岡市北部保健福祉センター	6/3～6/14	5 名	佐藤瑠美
静岡市大里保健福祉センター	6/3～6/14	5 名	鈴木千智
静岡市清水保健福祉センター	7/8～7/19	5 名	鈴木千智
静岡市蒲原保健福祉センター	7/8～7/19	4 名	栗田真由美
焼津市保健センター	7/15～7/26	6 名	佐藤瑠美
富士宮市保健センター	7/15～7/26	5 名	杉山眞澄
静岡市藁科保健福祉センター	9/16～9/27	5 名	佐藤瑠美
静岡市長田保健福祉センター	9/16～9/27	5 名	杉山眞澄
牧之原市保健センター	9/16～9/27	6 名	栗田真由美

島田市保健センター	9/16～9/27	6名	鈴木千智
袋井市保健センター	9/16～9/27	4名	伊藤純子

学生数：62名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）

施設	実習期間	学生数	担当教員
ジャトコ株式会社	7/15～7/26	5名	藤田登志美
富士第1地区健康サポート室	9/16～9/27	5名	藤田登志美
三菱電機(株)静岡製作所	7/8～7/19	6名	伊藤純子
JR 東海健康管理センター 静岡健康管理室	9/9～9/20	6名	畑中純子
東芝テック	7/15～7/26	2名	畑中純子

学生数：24名

公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校）

施設	実習期間	学生数	担当教員
静岡市立清水浜田小学校	5/27～5/31	4名	杉山眞澄
静岡市立森下小学校	5/27～5/31	4名	栗田真由美
静岡市立新通小学校	6/10～6/14	4名	伊藤純子
静岡市立高松中学校	6/24～6/28	4名	畑中純子
静岡県立清水特別支援学校	6/3～6/7	4名	杉山眞澄
静岡県立南部特別支援学校	6/17～6/21	4名	伊藤純子
静岡県立北特別支援学校	6/17～6/21	4名	畑中純子
静岡県立中央特別支援学校	6/10～6/14	4名	栗田真由美
静岡県立吉原林間学園	7/12	16名	畑中純子、藤田登志美

学生数(実数)：16名

総責任者：畑中純子

8) 国際保健・看護実習

P.52～53を参照

9) 大学院博士前期課程助産学課程 助産学関連実習

実習総責任者 太田尚子

科目	学年	実習期間	実習施設	学生数	担当教員
妊娠期助産診断 技術学演習	1	6/6～7/25 (1回/週 8週間)	静岡県立総合病院	2名	長屋和美 太田尚子

(妊婦健康診査 実習)			静岡赤十字病院	2名	金田千衣
			静岡済生会総合病院	2名	永谷実穂
助産学基礎演習 (助産準備実習)	1	9/24～10/4 (2週間)	静岡県立総合病院	2名	長屋和美
			静岡赤十字病院	2名	金田千依
			静岡済生会総合病院	2名	太田尚子
助産学実習	1	第1期 10/7～11/8 (5週間) 第2期 11/18～12/13 (4週間)	静岡県立総合病院 (第1期、第2期)	2名	長屋和美
			静岡赤十字病院 (第1期、第2期)	2名	金田千依
			静岡済生会総合病院 (第1期)	2名	太田尚子
			静岡済生会総合病院 (第2期)	1名	太田尚子
			しのはら産婦人科医 院 (第2期)	1名	福島恭子
周産期助産学実習 (NICU 実習)	1	2/17～20 (4日間)	聖隷浜松病院	2名	永谷実穂
		2/17、18、20、21 (4日間)	静岡済生会総合病院	2名	太田尚子
			静岡県立こども病院	2名	長屋和美
地域助産学実習	1	① 助産院 9/3～9/7 (5日間)	くさの助産院	2名	長屋和美
		① 助産院 9/2～9/6 (5日間)	渡辺助産院	2名	太田尚子
			いぶきの助産院	2名	永谷実穂
		② 地域 12/16～3/31 のうち2日間	各学生の実習目的に 沿った施設・団体等	6名	太田尚子 永谷実穂 長屋和美
助産学統合実習	2	4月～9月 (うち22日、20日)	渡辺助産院	2名	太田尚子
		4月～7月 (うち17日)	おはな助産院	1名	金田千依
		4月～8月 (うち14日)	いぶきの助産院	1名	永谷実穂
		4月～6月 (うち20日)	くさの助産院	1名	長屋和美

		4 月～6 月 (うち 15 日)	助産院こうのとりの	1 名	永谷実穂
--	--	----------------------	-----------	-----	------

4. 学生の研究

1) 学部指導体制と研究テーマ

教員の学生担当数は、専門基礎・保健医療領域、環境看護学、基礎看護学領域、成人看護学領域、国際看護学は教員ごと、それ以外の看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-4-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「令和6年度（2024）卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-4-1 令和6年度（2024）看護学部卒業研究題目一覧

令和6年度 看護学部「卒業研究」論文タイトル

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1915065	坪井 あかね	森のようちえんにおける保育者のウェルビーイング :現状と課題	根岸 まゆみ
2015005	秋澤 俊希	国内文献にみる AYA 世代がんサバイバーが がんと向き合いながら抱える思い	山田 紋子
2015007	荒川 枝理子	パートナーが出産後の男性の産後うつ病に 影響を与える要因	畑中 純子
2015010	五十嵐 友花	児童思春期病棟における家族支援の看護実践についての文献検討 —退院支援・多職種連携に注目して—	小泉 祐貴
2015011	石黒 涼香	市区町村別 ADI と疾患の標準化死亡比の関連 ～生態学的研究～	堀 芽久美
2015016	江塚 小華	看護学部1年生の臨地実習前後の表情認知に関する 自信度の変化と表情認知能力の実態	管原 清子
2015020	大西 郁音	静岡県における歯科診療所までの移動距離と 歯周病検診受診率との関連	堀 芽久美
2015025	小野 瑞季	行政保健師による精神障がい者への地域生活支援内容と 支援を行う上での課題についての文献検討	藤田 登志美
2015034	川崎 聖琉	心理的効果が期待される園芸療法に関する文献検討	佐藤 浩一
2015049	佐久間 風菜	発達上気になる子を育てる保護者に対する保健師の 支援に関する文献検討	栗田 真由美

2015051	佐藤 匠	看護学生へのシミュレーション教育の効果についての文献検討	中岡 正昭
2015059	清水 彩佳	加熱式たばこ喫煙者に対する禁煙支援 ～加熱式たばこ喫煙者の考えについての文献検討より～	前野真由美
2015063	杉本 夏光	小児看護領域における病棟看護師の葛藤に関する文献研究	山下 早苗
2015069	鈴木ナタリー紗 美	永住権取得または帰化した在留コロンビア人の 医療機関受診時の困難	根岸 まゆみ
2015094	濱畑 欧介	地域で暮らす統合失調症患者を支える家族の苦悩と 苦悩からの回復要因についての文献検討	小泉 祐貴
2015095	日口 誠都	乳がん患者の病気から立ち直る心理についての文献研究	前野 真由美
2015104	松本 亜依奈	他職種の支援から考える聴覚障害児家族への看護支援	鈴木 和香子
2115002	渥美 優佳	看護学生と看護師の身体拘束に対する認識に焦点を当てた 文献検討 －看護学生と看護師の認識の違いを比較して－	佐藤 理乃
2115003	有蘭 明李	日本における糖尿病有病率推移に対する要因分解	堀 芽久美
2115005	池ヶ谷 若菜	高年初産婦の産後 1 ヶ月までの特徴と必要な支援	福島 恭子
2115006	池沼 杏珠	高校生に対する性感染症予防のための効果的な 性教育プログラムの検討	鈴木 千智
2115007	石川 碧衣	国内看護文献にみる診断告知時から治療方法選択までにおける 高齢がん患者の意思決定時の思いのプロセスと看護支援	山田 紋子
2115008	石川 友真	思春期に大地震を経験した子供達の精神的回復過程について	竹熊 カツマタ 麻子
2115010	市河 藍花	温電法に使用する蒸しタオルの貼用時間、タオルの 表面温度に関する文献レビュー	三沢 萌伽 加藤 京里
2115011	市川 綾乃	天然の香り成分が人体に与える影響に関する文献調査研究	三崎 健太郎
2115012	伊藤 智弘	薬物・アルコール依存症患者の看護実践を通して生じる 看護師の思いに関する文献検討	近藤 美保
2115013	伊藤 芽生	乳幼児をもつ母親の育児に関するヘルスリテラシーの現状と 向上のための支援に関する文献検討	佐藤 瑠美
2115015	今田 杏実	静岡県内の看護学部 4 年生における防災意識と防災対策の実態	根岸 まゆみ

2115016	今本 もも香	子どもの適切なネット利用を促す教育プログラムの実施と評価	篁 宗一
2115017	岩本 真奈	産後１年以内の母親は産後ドゥーラにどのような支援を求めているのか	荒井 孝子
2115018	宇井 志音里	局所麻酔手術中の患者の心理的体験に関する文献検討	林 みよ子 中村 卓樹
2115019	植田 愛理	看護学生の臨床実習における倫理的ジレンマについて ～看護師が行う清潔・排泄ケアを通して～	荒井 孝子
2115020	植田 莉帆	集中治療室入室中の患者の体験に関する文献検討	林 みよ子 中村 卓樹
2115021	内田 優衣	認知症高齢者のやる気を引き出す医療者の姿勢についての 文献レビュー	成瀬 早苗
2115022	梅村 天使	Claudin-15 欠損ラットにおける内臓脂肪の検討	堀 芽久美
2115023	大嶋 菜月	梅毒の現状と性感染症の教育に関する看護系大学生の認識調査	操 華子
2115024	大須賀 彩音	働く女性の月経随伴症状とその対策に関連する文献検討	畑中 純子
2115025	大橋 美咲	地域で暮らす独居認知症高齢者の孤立化予防につながる看護支援 についての文献検討	富安 真理
2115026	大畑 菜摘	看護師による高齢患者への非薬物的せん妄ケアに関する文献検討	長谷部 美紀
2115027	大見 梨乃	静岡市における若者の自殺者の動向と今後の対策の検討	篁 宗一
2115028	小野田 碧	アートセラピー及び色彩環境の患者への影響・効果に関する 文献調査研究	三崎 健太郎
2115029	影目 桃羽	乳幼児をもつ母親の育児に対する否定的な感情と夫の育児協力の 関連と支援	佐藤 瑠美
2115031	河西 彩愛	若年妊婦における妊娠継続の要因についての分析	福島 恭子
2115033	風間 美咲	終末期患者の最期の療養場所に関する意思決定の要因:文献調査	操 華子
2115035	勝間田 風希	自宅退院を希望する高齢患者に対して必要な退院支援における 看護師の役割	榊 みのり
2115036	加藤 希歩	臨地実習における「環境整備」に関する実態調査	三沢 萌伽 加藤 京里
2115037	兼高 彩葉	病気を持つ入院中の子どもに付き添う家族の心理状況に関する 文献レビュー	山下 早苗

2115038	神谷 梨歩	新聞記事から見たヤングケアラーの経験と求めている支援に関する検討	栗田 真由美
2115040	金原 穂果	母親が育児困難感を感じる要因に関する文献検討	福島 恭子
2115041	久保田 航右	スぺルミジンが肺がん細胞に及ぼす生存能力と物質輸送への影響	三崎 健太郎
2115042	熊倉 寿音	双子の育児をする家族の困難とピアサポートの効果	太田 尚子
2115043	栗原 未有	父親意識を促進する要因と促進する支援および支援する団体についての文献検討	中川 有加
2115044	栗林 玲奈	手術を必要とする先天性心疾患の子どもをもつ母親の思いに関する文献検討	丸山 始美
2115046	小塚 麻央莉	看護職者が行う地域で生活する認知症高齢者の家族支援に関する文献検討	富安 真理
2115047	小林 華奈	脳卒中失語症患者に対する看護師のコミュニケーションの工夫に関する文献検討	鈴木 郁美
2115048	近藤 琴音	子どもが先天性心疾患であることについての両親の思い	長屋 和美
2115050	近藤 真海	終末期がん患者の看取りに向き合う家族の対処に関する文献検討	長谷部 美紀
2115051	後藤 百音	行政保健師が行う特定妊婦に対する支援に関する文献レビュー	伊藤 純子
2115053	齋藤 凜花	無侵襲的出生前遺伝学的検査を受ける妊婦とパートナーの思いと支援	中川 有加
2115054	酒井 香穂	児童虐待予防のために行政保健師が行うアセスメントプロセス～母親の孤立に着目して～	鈴木 千智
2115055	櫻井 健人	自宅で最期を迎えるがん高齢者を支える家族介護者の体験に関する文献検討	富安 真理
2115057	栗田 のりか	PM _{2.5} 曝露による膀胱がん死亡の人口寄与危険割合	井上 健一郎
2115058	鈴木 花歩	看護学生の手荒れに対する意識とハンドケアにおける実態調査	加藤 京里
2115059	鈴木 ひより	手指の冷えを自覚する看護学生に対する後頸部温電法の効果	加藤 京里
2115060	鈴木 美怜	助産院で出産した女性の満足感に影響を及ぼした要因の検討	池田 美音
2115061	鈴木 唯那	妊娠初期にマイナートラブルを抱えた初産婦の精神的負担とその影響	永谷 実穂 福島 恭子

2115063	高木 明日香	看護実践前の看護学生の手指の冷たさに関する実態調査 ～患者に冷たさを感じさせないための看護学生の対策～	加藤 京里
2115064	瀧本 夏子	自己管理が必要な学童期の慢性疾患患児の学校生活における 困りごとに関する文献検討 ー子ども・家族・就学先の教師の視点から考えるー	梁川 明
2115065	竹村 安珠香	看護職による愛着形成支援に関する研究動向の文献レビュー	伊藤 純子
2115066	田中 彩理	救急搬送された重症患者の初療時における家族の体験に 関する文献検討	林 みよ子 中村 卓樹
2115067	田中 千優	在日外国人の母親が抱える育児困難感とその支援について	佐藤 瑠美
2115068	田中 宏実	認知症の高齢者を在宅で介護する男性介護者の困難に 関する文献レビュー	佐藤 理乃
2115069	谷川 桃萌	入院が幼児期の患児に及ぼすストレス要因の検討 ～幼児のストレス反応と対処行動から考える～	梁川 明
2115070	田宮 倭奈	国内看護文献にみる終末期がん患者のスピリチュアルペインを 軽減するための看護ケア	山田 紋子
2115071	中 彩美	攻撃的 BPSD を示す認知症高齢者への医療従事者の関わり ーテキストマイニングと質的統合法による考察ー	成瀬 早苗
2115072	中川 莉里花	訪問看護師が提供する在宅パーキンソン病療養者の 家族介護者への看護支援に関する文献検討	加納 江理
2115073	中島 彩結	災害支援に携わった看護師たちの経験とその意味付け	竹熊 カツマタ 麻子
2115074	中野 美紅	在宅療養を行っている重症心身障害児の母親の介護・養育への 思いに関連する文献検討	池田 麻左子
2115075	中森 柚那	第2子を妊娠・出産した母親の第1子に対する感情の変化に ついての文献検討	永谷 実穂 中川 有加
2115076	中山 菜摘	介護分野における外国人技能実習生への支援と課題	竹熊 カツマタ 麻子
2115077	長島 羽咲	在宅療養する高齢者を介護する配偶者の介護肯定感の形成に 対する訪問看護師の支援	加納 江理
2115078	永田 光来	認知症の親を在宅で介護する家族の介護負担感についての 文献検討	宮澤 典子
2115079	長屋 帆乃花	認知症高齢者へのバリデーションの効果に関する文献検討	管原 清子
2115080	西村 佳乃	妊産婦の孤立を防ぐ支援に関する文献検討	高橋 明味

2115081	沼田 すず花	高齢の在宅がん療養者の「食べたい」という思いを叶えるための訪問看護師の食支援における役割	榑 みのり
2115083	萩原 渚	運動障害を有する急性期脳卒中患者の体験に関する文献検討	林 みよ子 中村 卓樹
2115084	橋野 莉子	若年性乳がん患者のケアニーズと看護師による支援の実際	中川 有加
2115085	橋本 琴	60 歳以上の全身麻酔の手術を受けた患者が POCD を発症する危険因子についての文献検討	中岡 正昭
2115086	長谷川生麻里	国内文献に見る 20 歳代女性の子宮頸がん検診の受診行動を促進する要因	山田 紋子
2115087	原 菜々子	高齢者の誤嚥性肺炎予防に効果的な口腔ケアに関する文献調査	操 華子
2115089	日野 衣理	病院に勤務する看護職の食生活の実態と健康的な食生活リテラシー(HEL)の関連について	荒井 孝子
2115090	平井 勇太	ナノプラスチック粒子の肺気腫病態への影響評価	井上 健一郎
2115091	平野 凜	糖尿病患者の療養生活における体験に関する文献研究	前野 真由美
2115092	廣瀬 遥菜	本人が望む最期を迎えるための看護師による意思決定支援を阻害している要因についての文献検討	植田 春美
2115093	深沢 愛央	乳がん患者の妊孕性温存の意思決定における困難と支援の現状	池田 美音
2115094	福本 有希	特定保健指導対象者に対する行動変容ステージ別の具体的な関わりに関する文献検討	畑中 純子
2115095	伏見 唯	同胞の慢性期疾患や障害別のきょうだい児への影響に関する文献検討	丸山 始美
2115096	藤城 欣虎	内服を嫌がる患児の反応に関する文献検討	山下 早苗
2115097	藤村 真登	NICU 入院児の父親の心理と父親支援に関する文献検討	大和田 裕美
2115098	星 理沙	精神疾患によって休職した労働者を対象とした集団認知行動療法による復職支援プログラムに関する文献検討	近藤 美保
2115099	堀田 愉奏	粒子状物質がマウス肺気腫に及ぼす影響	井上 健一郎
2115100	前田 帆乃香	手術を控える子どもを持つ家族の看護に関する文献検討	鈴木 和香子
2115101	松井 佳穂	帝王切開術で出産した女性の心理状態と出産体験	長屋 和美

2115102	水口 実咲	頭部外傷患者の外傷後健忘への非薬物療法に関する文献検討	鈴木 郁美
2115103	宮城 斉揮	我が国のこども食堂の現状と課題	鈴木 和香子
2115104	村山 佳華子	第2子妊娠・出産による第1子と母親への影響	永谷 実穂 大和田 裕美
2115105	室伏 瑛奈	入院している子どものきょうだいへの支援に関する文献検討	池田 麻左子
2115106	森 心葉	筋萎縮性側索硬化症療養者の侵襲的人工呼吸療法における意思決定の様相に関する文献検討	加納 江理
2115108	八木 沙織	看護職者における職場の人間関係とワーク・エンゲイジメントの関連—経験年数別比較—	篁 宗一
2115109	山岸 優衣	特定健康診査における未受診行動の要因に関する文献検討	鈴木 千智
2115110	山瀬 愛華	認知症高齢者の家族介護者におけるレスパイトケアの利用効果に関する文献検討	宮澤 典子
2115111	山田 千晃	病院におけるろう者の社会的障壁と看護職の関わり方についての文献レビュー ～ろう者が遭遇する困難とろう文化に焦点を当てて～	成瀬 早苗
2115114	山本 佳凜	緊急帝王切開で出産した女性の心理状態	太田 尚子
2115115	横尾 千尋	終末期癌患者に対する病棟での看護支援における看護師の困難についての文献検討	植田 春美
2115117	横山 実咲	看護学部的女子大学1年生を対象にした体型認識に関するアンケート調査	管原 清子
2115118	吉村 明優	産後1ヵ月の高齢初産婦のメンタルヘルスの現状とメンタルヘルスに影響する要因	太田 尚子
2115119	依田 奈都美	在宅がん患者の看護で訪問看護師が感じる困難に関する文献調査	操 華子
2115120	渡邊 佑晟	地震が妊産婦に及ぼす影響に関する文献検討	大和田 裕美

2) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、博士後期課程2名が博士論文審査および最終試験に合格、博士前期課程では9名が修士論文審査および最終試験に合格し修了した。

指導教員を中心に、副指導教員とともに指導が行われた。研究の実施にあたっては、多くの病院等の施設の支援・協力を得た。博士論文および修士論文発表会を令和7年3月6日（木）に対面で開催した。博士論文発表会は看護学研究科委員会委員を対象に、修士論文発表会は大学院生、学部生、教員、そして研究協力施設の関係者などを対象に開催し、多数の参加があった。

博士後期課程、博士前期課程の修了生の氏名、専門分野および論文題目、指導教員・副指導教員は下表のとおりである。

表 4-4-2 令和6年度看護学研究科博士後期課程修了生および博士論文題目等一覧

氏名	専門分野	論文題目	指導教員 副指導教員
今西 亮	看護学	SARS-CoV-2 ワクチン接種後の抗体価の経時的推移と影響要因に関する研究	篁 宗一 堀 芽久美
光延 智美	看護学	新生児集中治療室の患児ゾーンの可視化とメシチリン耐性黄色ブドウ球菌検出に関する研究	操 華子 堀 芽久美

*学籍番号順

表 4-4-2 令和6年度看護学研究科博士前期課程修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	論文題目	指導教員 副指導教員
磯野 たえ子	老年看護学	A 県内の認知症の母親を介護する息子介護者の意識の変容	成瀬早苗 竹熊カツマタ麻子
大川 佳穂	成人看護学	一般病棟における療養環境の色彩に関する患者の主観的評価	山田 紋子 堀 芽久美
梶原 聡子	成人看護学	初発軽症脳梗塞患者が再発予防行動を継続するための外来における脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の看護実践	林 みよ子 山田 紋子
相原 朱里	助産学課程	助産師が出産後地域で生活する在日外国人母子を家庭訪問するときの困難とその対応	中川 有加 山田 紋子
岡田 幸花	助産学課程	経産婦が出産場所として初めて助産院を選択した選択理由	太田 尚子 鈴木 千智
片山 歩美	助産学課程	双胎出産経験者がピアの立場で双胎出産後の母親を支援する際の考え	中川 有加 太田 尚子

中田 花奈	助産学課程	熟練助産師による妊婦のメンタルヘルスに対し 「気になる」と感じる観察の視点	中川 有加 篁 宗一
藤本 弥佳	助産学課程	妊娠期における父親の「父親同士の交流」に 対するニーズの研究	太田 尚子 篁 宗一
吉村 愛梨	助産学課程	月経教育における既婚男性の認識	太田 尚子 鈴木 和香子

*学籍番号順

V. 学生生活

1. 学生定員および在学生数

1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学25名であり、収容定員は計530名である。

表 5-1-1 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年 編入生	4年生	4年 編入生	合計
学部定員	120	120	120	25	120	25	530
在籍者数	120	131	126	0	118	0	495
休学者数	0	1	0	0	0	0	1
退学者数	0	4	1	0	0	0	5

※在籍者数はR6年度当初、休学者はR6年度末、退学者数はR6年度内の数字

2) 研究科

看護学研究科博士前期課程の入学定員は 16 名、収容定員は 32 名、博士後期課程の入学定員は 3 名、収容定員は 9 名である。R6 年度の博士前期課程在籍者数は、表 5-1-2 示すとおり、1 年 11 名、2 年 13 名であり、博士後期課程在籍者数は、表 5-1-3 に示すとおり、1 年 4 名、2 年 2 名、3 年生 6 名である。

表 5-1-2 博士前期課程 定員および在学生数

	1 年生	2 年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	11	13	24
休学者数	0	1	1
退学者数	0	1	1

表 5-1-3 博士後期課程 定員および在学生数

	1 年生	2 年生	3 年生	合計
入学定員	3	3	3	9
在籍者数	4	2	6	12
休学者数	0	0	2	2
退学者数	0	0	1	1

※在籍者数は R6 年度当初、休学者は R6 年度末、退学者数は R65 年度内の数字

2.入学志願者数および入学者数とその背景

1) 学部

各入学試験志願者数（受験者数）を令和5年度→令和6年度で示すと、一般選抜 前期 212(200) →127(125)、一般選抜後期 182(59) →108(21)、社会人選抜 0(0)→1(1)、学校推薦型選抜 59(59) →60(59)、編入学 0(0) →2(0)であった。一般選抜の志願倍率は、前期は 1.5 倍と昨年（2.5 倍）より低下した。これは前年度の高倍率に対する各高校の揺り戻し反応と考えられる。しかし、県内外での看護系学校の乱立による将来的な倍率の低値持続も予想される。選抜方法や各種選抜試験での募集人数の検討を慎重に行う必要がある。

表 5-2-1 令和6年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	127	125	85	83
一般後期	5	108	21	7	7
推薦	30	60	59	30	30
社会人	若干名	1	1	0	0
編入学	25	2	0	0	0
合計	145	298	206	122	120

※県内出身の入学者は 108 名（編入生を除いて）

表 5-2-2 令和5年度実施（令和6年度入学）入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	85	212	200	86	84
一般後期	5	182	59	6	6
推薦	30	59	59	30	30
社会人	若干名	0	0	0	0
編入学	25	0	0	0	0
合計	145	453	318	122	120

※県内出身の入学者は 100 名（編入生を除いて）

2) 研究科

令和7年度入試の入学志願者数（博士前期）は看護学研究科の一次募集において13名、二次募集において0名であった（延べ13名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が13名で、社会人特別選抜での出願が0名であった。一次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は7名であった。研究科全体として、志願者は助産学課程のみであった。また、なお博士課程の志願者は定員3名のところ出願者1名、合格者1名であった。選抜区分としては一般選抜での出願者が1名であった。合格者はいずれも入学手続きを行った。

表 5-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景(上：博士前期、下：博士後期)

	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
入学志願者	21	16	15	16	14	16	11	11	13
入学者数	13	10	12	13	10	12	11	11	7
(うち社会人 特別入学)	(4)	(1)	(2)	(1)	(3)	(4)	(1)	(3)	(0)
	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度		
入学志願者	3	5	4	2	4	4	1		
入学者数	2	4	3	2	4	4	1		
(うち社会人 特別入学)	(2)	(3)	(1)	(0)	(3)	(3)	(0)		

3. 卒業・修了者の進路状況

1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(令和7年3月31日現在)

表 5-3-1 学部卒業生進路

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

年度	性別	卒業生数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
令和4年度	男	7	7	—	0	7	0	0	7	0	—
	女	116	107	—	2	102	4	1	82	25	7
	計	123	114	—	2	109	4	1	89	25	7
令和5年度	男	1	1	—	0	1	0	0	1	0	0
	女	103	95	—	1	84	11	0	73	22	7
	計	104	96	—	1	85	11	0	74	22	7
令和6年度	男	14	14		0	14	0	0	12	2	0
	女	104	98		1	87	11	0	61	24	5
	計	118	112		1	101	11	0	73	26	5

2) 研究科

博士後期課程修了生は2名である。修了後の進路状況は、2名とも現職の継続である。
博士前期課程修了生は、助産学課程6名、成人看護学2名、老年看護学1名の合計9名である。修了後の進路状況は、助産学課程修了生6名は助産師として就職、成人看護学2名は1名が看護師、1名が保健師として就職、老年看護学修了生は就職予定なしである。

表 5-3-2 博士前期課程 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
平成 26 年度	12	1	0	5	3	3	0
平成 27 年度	11	3	0	7	1	0	0
平成 28 年度	7	3	1	3	0	0	0
平成 29 年度	4	1	1	1	0	1	0
平成 30 年度	13	2	0	8	3	0	0
平成 31 年度 (令和元年度)	12	3	2	7	0	0	0
令和 2 年度	8	0	1	5	1	0	1
令和 3 年度	11	1	1	7	0	0	2
令和 4 年度	15	6	0	5	3	1	0
令和 5 年度	12	3	2	7	0	0	0
令和 6 年度	9	1	1	6	0	1	0

表 5-3-3 博士後期課程 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学 ・ 留学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	
令和 4 年度	2	0	0	0	2	0	0
令和 5 年度	1	0	0	0	1	0	0
令和 6 年度	2	1	0	0	1	0	0

4. 免許・資格などの取得状況

過去3年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表5-4-1に示した。令和6年度の全国合格率は、看護師90.1%（95.9%）、保健師94.0%（96.4%）、助産師98.9%（99.3%）であった。※（ ）は新卒者。

表5-4-1 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
令和4年度	120/122	90/95	5/6
	(98.4)	(94.7)	(83.3)
令和5年度	103/104	86/86	6/6
	(99.0)	(100.0)	(100.0)
令和6年度	118/118	100/102	6/6
	(100.0)	(98.0)	(100.0)

（ ）内は合格者数/受験者数の百分率

VI. 国際交流

1. 令和6年度国際交流等事業

今年度は5月以降渡航制限（海外実習、研修、視察など）が緩和されたこともあり、海外協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との交換留学が実現した。そして、4月からは国際看護演習8月にはタイのコンケン大学看護学部での国際看護実習を実施することができた。また、例年同様にオンラインによる国際交流活動も活発に実施した。5月には本学部の山下学部長、篁研究科長、竹熊教授が韓国の慶熙大学看護学部を訪問、慶熙大学看護学部と静岡県立大学看護学部との部局間協定の締結がなされた。12月には本学部の林教授と鈴木助教が慶熙大学看護学部を訪問、シミュレーション教育についての研修と意見交換などを行った。また、今年度は9月にモンゴル国医科大学での荒井教授とモンゴル国立医科大学の基礎看護領域の教員たちによる合同授業の試みが行われ、教育方法についての活発な意見交換も行われた。また、同研究科において開催された看護研究カンファレンスでの招聘研究発表なども行なわれ、さらに両大学の教育・研究における協力と交流が深まった。今年度は欧州ベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学ヘルスケア学部との学部間協定締結を経て、1月には本学短期大学部も含めた大学間協定締結など、国際交流がさらに発展した年となった。

【交換留学・臨地実習（タイ）】

2024年5月12日～24日にかけて、本領域が主体となって、協定校であるコンケン大学看護学部（タイ）より3年次学生3名を交換留学生として受け入れた。実習指導および評価は、同大学の担当教員と連携を図りながら実施した（詳細は別資料「R6国際保健看護実習」に記載）。

【COIL授業開催】

Collaborative Online International Learning（COIL）型授業も例年通り継続し、計5回の国際協働型授業を実施した。（本学のウェブサイトに記載：「COILの授業」
<https://www.us-coil.jp/jyugyou/>）

【さくらサイエンスプログラムの計画および実施】

2024年12月16日から20日にかけて、静岡県庁スポーツ・文化観光部総合教育局大学課が主催し、科学技術振興機構が推進する「さくらサイエンスプログラム」の受け入れを行った。本プログラムには計画段階から参画し、受講生（インドネシア人の看護学部生・大学院生・若手教員、計8名）に対してオンライン授業も実施した。

また、2025年3月2日から7日にかけては、本領域において計画した、タイ国立コンケン大学看護学部所属の若手研究者8名を対象とする「さくらサイエンスプログラム」を実施した。

【国際学術教育協定締結と教員の教育活動（モンゴル国）】

2024年9月に荒井教授、竹熊教授がモンゴル国医科大学を訪問、荒井教授とモンゴル国立医科大学の基礎看護領域の教員たちによる合同授業の試みが行われ、教育方法についての活発な意見交換も行われた。また、同研究科において開催された看護研究カンファレンスでの招聘研究発表なども行なわれ、さらに両大学の教育・研究における協力と交流が深まった。また、本学部からモンゴル国の協定校であるドルノゴビメディカルスクールに医療・看護教育のための医療機器・物品を寄付した。静岡県経済団モンゴル訪問団のご協力により現地まで搬送、ウランバートル市において同大学のオットンチメグ学長に物品を直接届けることができた。モンゴル国との交流においては、学生と教員の往来だけではなく、教育の発展のために教育機材の提供も行われた。

【国際学術教育協定締結に向けての活動（ベルギー王国）】

2023年の6月には令和4年度から国際交流を行ってきたベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学を竹熊教授が正式に訪問し、学部間協定締結について提案、協定締結に向けた準備が始まった。2024年5月に竹熊教授がアルテベルデお応用科学大学を訪問、ヘルスケア学部との部局間協定締結が行われた。その折に、アルテベルデ大学から歯科衛生学科も国際交流を望んでいるという要望が寄せられ、その後本学短期大学部へ国際交流の可能性について提案がなされた。短期大学部歯科衛生学科、短期大学部からもアルテベルデ応用科学大学との交流に合意がえられ、アルテベルデ応用科学大学との協定を部局間協定から大学間協定に格上げすることが全学の国際交流委員会により承認された。2025年1月に短期大学部歯科衛生学科の野口教授、松原准教授と竹熊教授がアルテベルデ応用科学大学を訪問、大学間協定が締結された。今後活発なアルテベルデ応用科学大学との国際交流が期待される。

【国際学術教育協定締結に向けての活動（大韓民国）】

令和6年1月には韓国の慶熙大学看護学部からヨンヒー・ジョン学部長、ヨジン・イム副学部長が静岡県立大学看護学部を表敬訪問され、学部間協定への提案がなされた。令和6年2月の教授会で学部間協定についての承認が得られ、5月には本学部の山下学部長、篁研究科長、竹熊教授が韓国の慶熙大学看護学部を訪問、慶熙大学看護学部と静岡県立大学看護学部との部局間協定の締結がなされた。12月には本学部の林教授と鈴木助教が慶熙大学看護学部を訪問、シミュレーション教育についての研修と意見交換などを行った。

来年度も更なる相互交流が期待される。

2. 国際保健・看護実習

本科目は、学部間協定校であるタイ国立コンケン大学看護学部との短期交換留学プログラムの一環として設置されたものである。2019年度までは公衆衛生看護学領域が担当していたが、2020年度より本領域の担当科目となった。しかし、2020年初頭に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックの影響により、2022年度まで本実習は閉講となった。なお、本学における海外実習の再開に関する教職員および学生の渡航許可が出されたのは2022年6月であり、2023年度より本領域にて初めて本科目を再開する運びとなった。

2024年度の実習は、9月1日から16日までの約2週間にわたって実施され、教員1名が引率し、本学看護学部4年次学生3名が履修した。加えて、他領域から小児看護学領域の助教1名および大学院修士課程の学生1名が、前半1週間の実習に研修目的で参加した。実習プログラムは、コンケン大学看護学部のほぼすべての専門領域（小児、母性、成人、老年、精神、地域・家族、国際など）の協力により構成され、講義、病院・地域医療機関の視察、地域の健康イベント参加、農村地域における地域実習など、多様な学習機会が提供された。

① 【主な実習施設】

1. Srinagarind Hospital（コンケン大学附属病院）
2. Khon Kaen Hospital（地域中核病院）
3. Thunyararak Hospital（地域病院）
4. PCU Samliam（依存症治療専門医療機関）
5. Health Promotion Center（母子保健センター・助産院）
6. Community Center（地域保健センター）
7. Me Aura（タイ伝統医療施設）

各施設では、以下のような内容を中心に学習を行った。

- 1) ～3) の病院では、それぞれの看護部による歓迎および施設概要のオリエンテーションを受け、急性期・慢性期の病棟や外来部門の視察を行った。
- 4) では、アルコールや薬物依存症患者への外来・入院治療のプロセス、ならびに退院後の就労支援等に関する取り組みを学んだ。
- 5) では、母子を対象とした予防的支援や助産院の活動内容について理解を深めた。
- 6) では、地域住民に対する予防接種、初期医療の提供、感染症対策等について学び、保健スタッフと共に地域を巡回して健康アセスメント活動にも参加した。

7) では、マッサージやハーブを活用したタイ伝統医療の施術を体験した。

また、実習中のポストカンファレンスでは、参加した他領域の教員および大学院生との意見交換を通じて、履修生は小児看護学的・公衆衛生看護学的視点からの多角的な学びを深めることができた。さらに、2024年5月に本学へ短期交換留学として来日していたコンケン大学の学生3名が、市内視察（寺院、美術館、ナイトマーケット等）において本実習履修生を案内するなど、学生同士の交流を通じてタイ文化や生活への理解を深める機会も提供された。

実習の最終日には、履修生3名による文化紹介と成果発表会を開催した。文化紹介では、浴衣を着用し盆踊りを披露した後、折り紙を通じた文化交流を行った。成果発表では、個人の学びをもとに、日・タイにおける医療制度や看護職の役割の共通点・相違点、医療格差の是正に向けた考察などをまとめて発表し、コンケン大学の教員や学生から高い評価と質問を受けた。

実習期間を通して、履修生は英語を含むコミュニケーション能力を大きく向上させ、自主的な課題設定と学びを継続する姿勢を見せた。また、日々のディブリーフィングを通じて臨床的思考力も顕著に伸長した。このような成果を踏まえ、当該科目の目的である「多様な地域環境に暮らす人々の健康な生活を支えるための保健医療福祉の実践を学び、グローバルな視点で看護職としての活動の在り方を理解する」は十分に達成されたと判断できる。なお、2024年11月16日には、本実習に参加した履修生が本学部同窓会の助成を受け、同会合において実習成果の発表を行った。

VII.看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

1) 専門基礎領域の活動

(1) 医学系教員の活動

<教育活動>

専門基礎分野は「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「人間と人間生活の理解」領域の科目で構成されている。「機能形態学」「生物化学」「症候論」「病態学」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、臨床所見から臓器・組織病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を実施している。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明・観察する実習（「基礎健康科学演習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「基礎セミナーII」）を実施した。「基礎健康科学演習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの要因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得することを目標に実験実習の指導を行なっている。組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞の標本作製と観察などの解剖学と、心電図測定、呼吸機能検査、血液・尿検査、経口ブドウ糖負荷試験（OGTT）などの生理学・検査法、放射線の種類と防護方法（距離、遮蔽、時間の三原則）などの環境科学実験、微生物の染色検査や鼻腔中ならびに手指中の微生物の検出などの微生物学に関する実験を対面で、また抗微生物薬の効果判定などの実習項目についてはオンデマンド形式で実施した。実験ノートの書き方について詳細に指導し、また評価方法を事前学習、実験結果、スケッチ・図表・計算、考察に分けてルーブリック表を用いたものを採用し、学生がより主体的に学び、測定・観察を進めていき、それを客観的に評価できるように工夫した。「基礎セミナーI」では、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、論理的文章の書き方、文章表現やレポート作成方法、スライド発表に関する基礎教育を講義およびグループワーク演習により実施した。また、「基礎セミナーII」では、臨床で得られる情報を看護職者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。

＜地域貢献活動＞

堀、濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。

(2) 保健学系教員の活動

＜教育活動＞

保健学分野は『健康支援と社会保障制度』の「公衆衛生学」「社会福祉論」「保健福祉行政論」「保健医療統計学」「情報処理演習」「疫学」の科目で構成されている。学生が興味を持ち、モチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、自然災害、インフルエンザや COVID-19 の流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義に導入している。今年度の講義・演習は基本的には対面形式で実施した。講義終了後のリフレクションや演習問題を提出することによって授業内容の理解を深めてもらう工夫をしている。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

堀は、袋井市と共同で実施する静岡多目的コホート事業の住民健康診断において、咀嚼力検査を行い、住民の健康情報を把握し、地域の健康づくりに取り組んでいる。また、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、公共公益施設の建築等について審査した。

濱井は、静岡県医療通訳者養成講座の講師ならびにコーディネーターを務め、静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。さらに、外国人患者受入れ拠点病院である磐田市立総合病院で医療通訳に関する調査を実施し、情報を提供している。

2) 環境看護学領域の活動

＜教育活動＞

看護学部

①担当した授業の特徴

環境看護学は、看護学と基礎医学をつなぐ位置づけで配置された部門である。教員は、教授1名であるが、専門基礎医学領域の教員と連携して授業運営を行った。

具体的には、機能形態学Ⅰ・Ⅱ、病態学、基礎セミナー、基礎健康科学演習、病態学等の科目を担当している。大学に入学した学生が看護を目指す上で習得しなければならない専門基礎医学が看護学にどのように繋がっていくかを示しながら授業を構築している。病態学においては各非常勤講師がどのような内容の講義でどのような部門を学習しているか

実態を把握し、非常勤講師を派遣していただいている静岡県立病院機構静岡県立総合病院との調整を行い、専門医を派遣していただいた。学生の授業評価からも満足度が高い評価が得られた。

②実習について

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、発展看護実習Ⅰは、「看護師の臨床判断とアセスメント」、発展看護実習Ⅱは、「地域連携を軸にした看護師の臨床判断とアセスメント」をテーマとして実習した。静岡赤十字病院およびしずおか日赤訪問看護ステーションの協力により、病院と在宅を中心に実習を展開する中で看護師の臨床判断について学習することができた。実習日程を余すことなく調整していただき、どの部署においても熱心に実習指導を行っていただいた。また、事前学習を踏まえた組織・地域全体をアセスメントする体験や看護師へのインタビューによって、学生は各テーマにおいて看護の専門性を探求する場となり、将来の看護師像への展望を持つことができた。環境看護学が担当する発展看護実習は今年度をもって終了となった。

令和4年度に始まった新カリキュラムの多職種連携実習（3年次科目）について、今年度より3グループ18名の学生が榛原総合病院で実習を行った。当該施設では本学が行う臨地実習で初めて実習を展開することとなり、1年かけて看護部との調整を行って準備した。病院の概要、医療連携室からの多職種連携ガイダンス、職種別実習（薬剤師、栄養士、PT・OT）、退院支援調整および褥瘡回診、NST回診に同行し、多職種連携の実際を学んだ。これまでの専門領域実習とは異なる視点から看護師を視ることで、新しい視座が得られたと学生が述べることができた。

大学院看護学研究科

基盤看護学領域では基盤看護学分野を担当したが学生の受け入れはなかった。博士後期課程においては、共通科目の生体環境科学特講の担当であるが、履修者がいなかったため今年度は未開講であった。

<地域貢献活動>

平成27年より看護師特定行為研修の指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として継続して活動している。平成29年より静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員を継続して担当した。

看護実践教育研究センターにおいては、センター運営、特定行為研修運営、特定一般教育訓練講座の運営、センターにおけるリカレント教育運営に寄与している。中でも年間を通じた特定行為研修全体のマネジメントを行い、研修を円滑に進め、外部講師との調整を行い、今年度も無事に4名の研修生が修了した。また、令和7年度入講生の募集については、各

所の受講の働きかけを行い、入講試験の準備、実施、相談対応を行い、4名の入講生を迎える予定となった。

また、令和5年度から国際看護交流活動にも参画し、令和6年度についても協定校であるモンゴル国立医科大学看護学部（ウランバートル）との教員間での教育・研究活動を推進する一貫として研究のプレゼンテーションを行い意見交換ができた。また、教員特別研究費で獲得した研究テーマの基づき現地でのドゥーラの活動に関する研究活動を行った。

3) 基礎看護学領域の活動

基礎看護学領域

<教育活動>

① 授業運営について

令和6年度は令和4年カリキュラムが開始して3年目である。1年次は看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰを、2年次は看護アセスメント方法論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅱを開講した。食事介助・口腔ケア、口腔内のフィジカルイグザミネーションなどの技術演習では、これまでに引き続き、感染に留意しつつ、学修内容と展開方法を検討しながら運営した。

授業資料は事前配布を行い、学生が主体的に事前学修に取り組めるように学修環境を整えた。演習科目では、基礎看護学教員が演習内容の模範となるオリジナルの看護技術動画を作成した。ナースングスキルなどのe-learningの活用と演習要項の事前配布によって、学生の技術の修得を目指し、授業計画を工夫した。

② 実習について

基礎看護学領域における実習は、1年次「基礎看護学実習Ⅰ」（1単位）、2年次「基礎看護学実習Ⅱ」（2単位）、4年次「発展看護実習」（1単位）である。

「基礎看護学実習Ⅰ」

1年生121名が履修した。

臨地実習前の学内実習では、実習施設（3施設）の看護部による講義を受けた。また、感染対策として衛生的手洗いならびに個人防護用具（マスク、手袋、エプロン）の着脱の技術演習を実施した。

臨地実習は、静岡市立静岡病院は1病棟4名×7病棟×2クラス（計56名）、静岡赤十字病院は4名×4病棟×2クラス（計32名）の配置とした。また、令和6年度から新たに静岡県立総合病院を実習施設として追加し、1病棟4～5名×4病棟×2クラス（計33名）が実習を行った。学生は週1回、隔週で臨地実習を行った。

学生は看護師と一緒に行動して看護援助に参加、または見学し、看護援助の意味を考えることができた。また、患者とコミュニケーションを図り、患者の思いを知ることや患者を観

察することが看護において重要であることが理解できた。最終日の成果発表会は実習した施設で実施した。実習目標は概ね達成できた。次年度も同様に臨地実習を計画する。

「基礎看護学実習Ⅱ」

2年生116名が履修した。

全学生が静岡県立総合病院で臨地実習を実施した。実習は8月の1週間、2月の1週間の前半・後半に分けて実施した。前半実習では昨年同様に、看護技術体験を強化し、看護援助の根拠を考えることに焦点化した。臨床の協力のもと、多くの看護技術を体験することができ、学生は体験した技術の意味を考えることができた。後半実習では、学生は原則一人の患者を受けもち、看護過程の展開、フィジカルイグザミネーションを行った。学生は初めて受け持ち患者を持ち、対象理解の方法や看護の思考過程を学修した。予定通りの日程・内容で臨地実習を行うことができ、実習目標は概ね達成することができた。

「発展看護実習」

4年生9名が履修した。今年度は、実習目的を「急性期病院に入院中の患者および、地域で生活している高齢者を対象に、健康の増進（フレイル予防）から健康障害のある患者の看護という看護の継続性に関して体験的に学びを深める」に変更した。静岡赤十字病院の実習では、入院患者の退院指導に焦点をあて、退院後に患者が自分らしく生き生きと生活するための看護について学修した。さらに、今年度から、地域で生活する高齢者の健康増進、特にフレイル予防に関して理解を深めることを目標に、静岡県民の日の健康増進事業の中で、高齢者を対象にしたフレイル予防の講義や地域住民のフレイルの計測を実施した。地域住民との関わりの中で、地域における健康増進やフレイル予防の重要性を学修することができた。

<地域貢献活動>

加藤京里

静岡県看護協会学術研究推進委員会委員として会議への参加、研修の企画を行った。また、第13回静岡県看護学会の企画、運営に携わり、演題の査読、教育講演の座長を務めた。生涯健康科学ジャーナルの編集委員を務め、査読を行った。静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に企画から当日運営までの分担者として参加した。

管原清子

静岡市立静岡病院および静岡市立清水病院の地域医療支援委員として委嘱を受け、会議に参加し、地域医療や病院運営、感染対策に関する意見交換を行った。また、静岡市立清水看護専門学校の教育課程編成委員として会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」を主催した。女性健康相談室主催、看護学部附属看護実践教育研究センター共催の講座「これからの女性の健康を考えよう」に企画から当日運営までの分担者として参加

した。一般社団法人日本精神科看護協会からの委嘱を受け、精神科認定看護師教育課程の研修会アシスタントを行った。

浅原久恵

9月より助教に着任した。

小原陽子

6月より非常勤職員として領域の学務に従事し、9月より助教に着任した。

三沢萌伽

静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催の地域貢献事業講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」に企画から当日運営までの分担者として参加した。

4) 成人看護学領域の活動

<教育活動>

成人看護学領域(学部)

① 教育目的および目標

成人看護学領域における教育目的は、成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する人々とその家族を対象者とし、根拠に基づいた系統的な知識、技術を適用して、対象者の健康障害の悪化予防・回復促進・緩和に働きかけ、可能な限りその人らしい生活と人生(life)が送れるよう援助できる能力を持った人材の育成を行うこととしている。

そのような教育目的の達成を目指して、以下の教育目標を挙げている。

1. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者を、解剖・病態生理学的知識や諸理論・概念に基づき身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 成人期を中心に、治療を受けながら闘病し療養する対象者に対して、自ら判断して主体的に行動することにより、根拠に基づいた知識・技術を適用した援助ができる能力を養う。
3. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、他専門職と協働できるための基礎的能力を養う。

② 講義および演習

本領域では、2年次配当科目である慢性看護学概論(2単位)と慢性看護援助論演習(1単位)、3年次配当科目である急性期看護学概論(2単位)、急性期看護援助論演習(1単位)の計4科目(6単位)を教授している。

慢性看護学とは、がん、生活習慣病、難病などを含む慢性疾患を有する人びととその家族を対象とし、診断・治療導入期から終末期までのさまざまな健康レベルに対する看護である。概論および演習を通して、対象者を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解

し、看護を実践するために必要な諸理論や概念・技術を理解し、その実際を学ぶ。

急性期看護学とは、緊急度・重症度の高い健康問題によって短時間に健康レベルが低下した人びととその家族を対象とし、身体侵襲や心理的危機からの早期回復を目的に行う看護である。概論および演習を通して、対象者の健康問題の特性、看護の基盤となる理論、科学的根拠に基づいた看護援助に必要な系統的な知識・技術を理解し、その実際を学ぶ。

③ 実習

「慢性看護学実習」、「急性期看護学実習」、「臨床シミュレーション EBN 実習」の3つの実習を行っている。各実習は2単位であり、1クールを2週間としている。

「慢性看護学実習」と「急性期看護学実習」は3年次後期に配当されている科目である。今年度の履修生はそれぞれ125名、124名であり、計22グループ、44クールの実習を行った。実習施設は静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの5ヶ所とした。新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの感染拡大の最中での実習であることを鑑み、各施設の看護部および実習部署と密に連携しつつ行い、学生全員が臨地にて実習できた。

「臨床シミュレーション EBN 実習」は4年次前期に配当されている科目であり、実習施設は静岡赤十字病院である。今年度の履修生は118名であり、20グループ編成とした。実習内容としては1グループを1～2チームに分け、チーム毎に、受け持ち患者に対するEBN(Evidence-Based Nursing)に基づく看護過程の展開と臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションを行った。

成人看護学分野(研究科)

成人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と学生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。学生自身の看護実践と向き合ったうえで独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、応用演習(各現象への基本的理論の適用と評価、基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士論文としてまとめる。

今年度、本分野には博士前期課程1年1名、2年3名(内、長期履修者3名)の学生が在籍した。

<領域で行っている地域貢献活動>

山田 紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員を務めた。日本看護診断学会の評議員・編集委員・専任査読委員として活動した。また、静岡県看護協会が主催する令和6年度看護職員実習指導者等講習会において「実習指導方法論：領域別実習指導(成人看護学)」に関する講義を行った。研修「効果的なプレゼンテーション技法」の講師を務めた。さらに、看護診断研究会主催の第25回公開セミナーにおいて統括ファシリテータを務めた。

林 みよ子

日本救急看護学会および日本看護研究学会の評議員、日本クリティカルケア看護学会の編集委員および専任査読委員、日本看護研究学会・実践研究活動推進ワーキング委員、日本救急看護学会・日本看護研究学会・日本赤十字看護学会・日本看護診断学会の専任査読委員、として活動した。

静岡県看護協会主催の令和6年度認定看護管理者ファーストレベル教育課程において「看護チームのマネジメント」の講師、静岡県立総合病院の看護部主催の看護師の研究活動の年間個別指導の講師を務めた。

看護実践教育研究センターにおいて、リカレント講座では担当者として全セミナーの運営に携わりつつ、「看護職のための看護研究セミナー1」の講師を務め、看護師特定行為研修では「疾病・臨床病態概論」、「地域在宅療養支援論」、「課題研究」の講義・演習とOSCEの一部を担当、臨地実習の事前実習・実習の記録、課題研究のまとめの指導を行なった。

前野 真由美

令和6年度生涯活躍のまち静岡事業（静岡市 CCRC）における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康、外国人住民参加」のうちの1つ、「外国人の暮らしの中のケア ライフと健康」（12月22日、於：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」）の開催の主研究者を担った。

「外国人のための無料健康相談と検診会」のチャリティーコンサート、検診会の準備、当日の運営（10月20日、於：静岡済生会総合病院）にボランティアとして参加した。

中岡 正昭

看護実践教育研究センターにおいて、リカレント講座では全セミナーの運営・広報業務に携わり、看護師特定行為研修では、急性・重症患者看護専門看護師として「臨床病態生理」、「臨床推論」、「疾病病態」、「医療安全特定行為」、「フィジカルアセスメント」、「シミュレーション演習」の講義を担当し、「縫合演習」、「超音波演習」、「気管カニューレ交換演習」、OSCEの一部を担当した。また今年度よりスタートした、American Heart Association 主催のBLS（一次救命処置）プロバイダーコース取得プロジェクトを立ち上げ、今年度217名の学生が受講し、プロジェクトの代表として活動した。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県三島南高等学校で出張講義を行った。

第29回日本難病看護学会学術集会の実行委員として活動し、学会の運営に携わった。

鈴木 郁美

令和 6 年度静岡県立大学公開講座 看護学部テーマ「誰でも健やかに暮らせるコミュニティを目指して」のうち「生活習慣を見直そう」(11 月 2 日開催)の講師を担当した。

令和 6 年度生涯活躍のまち静岡事業(静岡市 CCRC)における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康:外国人住民参加」のうち「外国人の暮らしの中のケアライフと健康」(12 月 22 日、於:静岡市地域福祉共生センター「みなくる」)の開催に研究分担者として協力した。

看護実践教育センターのセンター研究員として、BLS(一次救命処置)プロバイダーコースの受講生の実技試験を一部担当した。

長谷部 美紀

看護実践教育研究センターのセンター研究員として、BLS(一次救命処置)プロバイダーコース受講生(看護学部生 217 名)のうち、一部の受講生の実技試験を担当した。

「第 26 回外国人のための無料健康相談と検診会」の当日運営(10 月 20 日、於:静岡済生会総合病院)にボランティアとして参加した。

静岡県立大学の高大連携事業で、静岡県立掛川高等学校で出張講義(9 月 5 日)を行った。

植田 春美

令和 6 年度生涯活躍のまち静岡事業(静岡市 CCRC)における「地域を志向した研究」テーマ「地域づくりと健康:外国人住民参加」のうちの「外国人の暮らしの中のケアライフと健康」(12 月 22 日、於:静岡市地域福祉共生センター「みなくる」)の開催に研究分担者として協力した。

「外国人のための無料健康相談と検診会」のチャリティーコンサート、検診会の準備、当日の運営(10 月 20 日、於:静岡済生会総合病院)にボランティアとして参加した。

中村 卓樹

看護実践教育研究センターのセンター研究員として、BLS(一次救命処置)プロバイダーコース受講生(看護学部生 217 名)のうち、一部の受講生の実技試験を担当した。

10 月 22・24 日、本学部の国際交流活動にてタイ国コンケン大学の教員が視察に訪れた際、領域紹介のサポート教員として協力した。

5) 老年看護学領域の活動

<教育活動>

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、高齢者を生活者として包括的にとらえ、加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化を理解し、その人なりの最適な健康状態を生み出すための基礎的知識を修得する。その上で実習では、高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化や老年期に生じやすい健康問題を持ちながら生活する高齢者を理解し、対象に応じた看護実

践能力を養う、また、あらゆる生活の場や高齢者の理解を深め、望む生活を継続するための看護のあり方、高齢者を中心とした多職種連携および看護の役割について学び、高齢者観を養うことを目標にしている。

本年度の科目は、R4 カリキュラム：「老年看護学概論」、「老年看護援助論」、「老年看護学演習」で構成されている。

内容としては各科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する必要性を強調するとともに、高齢者看護を実践する上で必要となる基本的知識として、加齢現象や高齢者特有の症状の現れ方、認知症等の理解ができるようなものとした。老年看護学概論では、実際に高齢者にライフヒストリーのインタビューを実施し、高齢者に対する理解を深めるようにした。また、認知症高齢者の理解を深めるため、「認知症とせん妄、うつ病を見分ける」というテーマで、国立がん研究センター東病院の小川朝生先生の特別講義、認知症看護認定看護師の磯野たえ子氏の講義を取り入れた。老年看護学演習では、実践の知を教授してもらうため、老人看護専門看護師の宗像倫子氏の講義を取り入れた。老年看護学演習では高齢者の健康問題を抽出し、強みを活かし生活の質（Quality of Life）の確保と向上に資するような看護過程展開及び高齢者の倫理的課題についての討議、高齢者疑似体験、口腔ケア、排泄ケアを中心とした看護技術を教授した。また、実習や国家試験対策に活用できるように、講義や演習で学んだことを学習ノートによる自己学習を推奨した。

① 実習について

R4 カリキュラムの老年看護学実習（2単位）は、3年次110名とH30カリキュラムの老年看護学実習Ⅰ（2単位）の15名が履修した。老年看護学実習Ⅱ（1単位）15名は、多職種連携実習を読み替えの実習とした。

今年度は、回復期リハビリテーション病院と療養型病院の3施設（静岡リハビリテーション病院、山の上病院、小鹿病院）と介護老人保健施設7施設（エスコートタウン静岡、ケアセンター池田の街、アリス草薙、あみ、星のしずく、ケアセンター瀬名、こみに）にて実施した。いずれかの施設で5日間、受け持ち高齢者の看護展開を実施した。また、2日間は、介護老人保健施設のデイケア部門にて実習を行った。

介護老人保健施設の通所リハビリテーション部門では、在宅での高齢者支援として、要介護状態の悪化防止や介護予防をめざした支援のあり方について学修した。

臨地実習を行った学生は、受け持ち高齢者や実習指導者と積極的に関わることができ、看護過程の展開を行うことで高齢者の強みや高齢者に対する看護について学ぶことができたと考える。また、最終日の学内での学びの発表を通して、健康障害をもつ高齢者が望む生活支援、多職種の連携のあり方、看護職の役割について考察を深め、高齢者観を養うことができた。

<領域で行っている地域貢献活動>

老年看護学領域

1) 健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、7月31日に「県大生と！学んで、動いて、今日から楽しくフレイル予防！」というテーマで地域在住の高齢者を対象に「来・て・こ」にて健康講座を実施した。

成瀬早苗

- 1) 看護実践教育研究センター主催 地域貢献事業「イキイキと高齢期を過ごそう！」というイベントで企画と当日運営を行った。
- 2) 静岡社会健康医学大学院大学の客員研究員、静岡県立大学コホート研究支援ワーキンググループとして、静岡コホート研究「ふくけん！事業」に参加し、調査を実施した。
- 3) 社会福祉法人駿府葵会特別養護老人ホーム久能の里の第三者評議員を務めた。
- 4) 静岡市介護認定審査委員を務めた。

佐藤理乃

- 1) 認定 NPO 法人愛知排泄ケア研究会主催、第 21 期排泄機能指導士養成講座にて、講師を務め、5月26日に「排泄ケアとスキンケア」「ポジショニング」の講義を行った。
- 2) 認定 NPO 法人愛知排泄ケア研究会主催、第 21 期排泄機能指導士養成講座の追加講習である「下部尿路機能障害の排尿自立支援講習」にて、講師を務め、排尿自立支援加算の診療報酬における専任看護師を養成するため「課題解決方法」の講義とグループワークを実施した。
- 3) オープンキャンパスの模擬講義にて「排泄ケアってなあに？」と題した授業と、超音波画像診断装置における残尿測定の実験を行った。
- 4) 令和 6 年度県民の日地域貢献事業、県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ～毎日をイキイキと過ごすために～講座 2『孫育てカフェ～語ろうじーじ・ばーばの孫育て～』事業において、当日の運営補助、助言を行った。
- 5) 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター主催の、排尿の自立を促すために必要な基本的な知識と技術を学ぶための研修会「介護と看護に役立つ高齢者排尿障害研修－排尿の自立を促すためにできること－」に講師として参加し、研修参加者へ超音波画像診断装置における残尿測定の実技指導を行った。
- 6) 第 16 回下部尿路症状の排尿ケア講習会において、診療報酬「排尿自立支援」における排尿ケアチームの専任看護師となるための研修が行われ、超音波画像診断装置を用いた残尿測定・骨盤底筋訓練のバイオフィードバックの実技指導を行った。

6) 小児看護学領域の活動

<教育活動>

学部における教育活動（講義）

2年生の「小児看護学概論」、3年生前期の「小児看護援助論」の対面講義（一部オンライン）を行った。講義では毎回リフレクションペーパーを用い、学生の感想や理解度、質問内容からなどわかりにくいポイント等の把握に努めた。「小児看護援助論」では本年度から授業での学びを用いたアセスメントのグループワーク・講義を取り入れることで学生のアセスメント力の向上に努めた。4年生の「卒業研究」では、学生自らが持つ看護への課題を明確化し、個別の指導の時間をかけ、リサーチクエストにつなげられるように導いた。研究計画の段階、研究の中間の段階、卒業研究発表会の直前の3段階においてゼミを行い、小児看護学領域の教員全員で研究指導した。

学部における教育活動（演習）

3年生の「小児看護学演習」は、参集型演習とし、講義、グループワーク、発表会、技術演習を実施した。前年度と同様に短期大学部との学部間協力員である松平千佳教授の協力を得て、小児看護に重要なプレパレーションについて学習する機会を設けた。

動画による模擬事例を活用した看護過程の検討を行い、実際の小児患者の反応や行動をイメージできるように介入した。成果発表として6・7名のグループ毎にプレゼンテーション資料を用いて発表できるよう指導した。また、技術演習では技術チェックシートを用いて学生自身による自己評価を行った。技術として、子どものVS測定、身体計測、安全な移送、ベッド柵の管理、小児のBLS、KYT（危険予知訓練）について指導した。なお、技術チェックシートは実習時に活用できるように学生にフィードバックした。

学部における教育活動（実習）

全ての学生が静岡県立こども病院にて臨地実習（1名のみインフルエンザ感染により3日間のみ学内実習実施）を行うことができた。県立こども病院の実習指導体制は、各病棟に実習指導者が専属あるいは学生の患者さんを受け持ちながら指導にあたるため、学生にとっては一日の行動計画やケア内容について相談しやすい環境にあった。学生の実習アンケートの結果から、臨床指導者に対する評価は非常に高かった。しかしながら小児は病状の回復及び悪化のスピードも早く、小児専門病院でのという特徴から重症のお子さんが多く、ご家族の不安が強い傾向があり、早期に患者さんの病状や家族の状況を把握することが難しい。加えて実習での「成長発達段階に応じた正確なバイタルサイン測定の実施」「患者と家族との良好なコミュニケーション構築」等、全ての学生が十分学び技術の習得ができたとは言いがたい。今後も学生の理解度に応じつつ、個別性のある小児看護特有の看護を適切に学生に教授していく必要がある。

4年生を対象にした「発展看護実習」では、将来の活動の場を小児看護領域で考えている学生が多いことを考慮し、静岡県立こども病院で1週間「2名の患者を担当した多重課題に関する学習」を行った。また、地域における「多職種連携の活動の場での参加学習」も行い、病院以外の小児看護活動の場についても学習を深めることができた。

研究科における教育活動

博士前期課程の学生を対象にした「看護倫理特論」と「実践看護学特論Ⅳ」「実践看護学応用演習Ⅳ」、博士後期課程の学生を対象にした「看護学研究特講」と「小児看護実践開発特講」「看護学特別演習」を担当し、研究指導を行った。

学生の主体性・計画性を促す目的で、teams を利用した 1 回（2 時間）/月のゼミを継続的に行った。

看護実践教育研究センターにおける教育活動

特定行為研修の研修生を対象に小児独自科目である「在宅における子どもの成長発達支援論」と「在宅における子どもの看護演習」を企画・運営および講師を担った。

今年度の研修生は昨年と同様 4 名であった。研修先（臨床）における患者および利用者の予定変更に伴い、医療的ケアの参加観察が十分に行えなかった状況はあったが、臨床側の臨機応変な協力を得ることができた。それによって、研修課題である医療的ケアを必要とする子どもの在宅生活の実態を知り、訪問診療を行う医師との連携について、学びを深めることにつなげることができた。

<地域貢献活動>

山下早苗

- ・「静岡県立こども病院」に所属するクリニカルラダーレベルⅢにあたる看護師（4 名）を対象に「看護研究」の講義や演習、研究指導を行った。
- ・「静岡県立こども病院」の看護部長および看護師長と共に、昨年度からこどもを対象とする看護師育成に関する共同研究に取り組んでおり、令和 6 年度は共同研究者である 2 名の看護師長が米国研修を行った。
- ・静岡県看護協会主催「暮らしをつなげる看護職員のための研修（看護倫理）」の講師を担当した。
- ・静岡県看護協会主催「看護教員を対象にした看護倫理教育に関する研修」の講師を担当した。
- ・看護実践教育研究センター主催「看護職のための看護倫理に関する研修」の講師を担当した。
- ・日本看護倫理学会の代議員を務めた。
- ・「看護科学研究雑誌」の編集委員及び「日本看護倫理学会誌」の編集委員を担当した。

鈴木和香子

- ・静岡市医療的ケア児等支援協議会の委員として、静岡市内の医療的ケア対象児の就学、家族問題、人工呼吸器を装着した児童の通学問題など課題の取り組みを中心に年 4 回討

議を行った。加えて、静岡市内の学校看護師に向けた研修を開催した。

- ・静岡県発達障害者支援地域協議会の委員として、年2回の協議に参画し、県内の発達障害児・者の支援及び教育環境の整備について意見を述べた。
- ・静岡県訪問看護ステーション協会の依頼を受け、年2回「小児訪問看護研修」の研修を担当した。
- ・リレー・フォー・ライフジャパン静岡 2024 実行委員としてイベント運営にかかわった。また、がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業・静岡県対がん協会ピアサポーター養成研修の研修会内において、「模擬相談」でピアサポーターとしての実際や体験を学ぶための演習を担当した。
- ・静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3月（継続看護師対象）、4月（新任看護師対象）、年2回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。
- ・静岡県教育委員会学校教育課からの依頼で、県の特別支援学校の自立活動教諭に対し、人工呼吸器管理の研修プログラムの作成、準備、実施を行った。
- ・静岡県看護協会主催の「静岡県専任教員養成講習会運営委員会」の委員として、講習会のカリキュラム、講義内容、受講者の合否判定、などの運営にかかわった。
- ・そのほか、静岡県立看護学校の非常勤講師、伊豆の国市子育て支援技能講習会講師、難病の子ども支援全国ネットワークの静岡実行委員、HPS 国際シンポジウムの実行委員、富士市保育士キャリアアップ研修会講師、日本看護学会誌査読委員、静岡市中央子育て支援センターの講座の講師、大学 SDGs 推進委員として高大連携出張講義などの活動をした。

池田麻左子

- ・静岡県立こども病院看護部に嘱託看護師として所属し、循環器病棟での兼務を続けた。
- ・4月、岐阜県立大学大学院の非常勤講師として CNS コースの大学院生1名に対し、小児看護援助論」の講義を担当した。
- ・7-8月、国際共同研究推進活動として、北米研修を行った。研修では、聖アンソニー看護大学、ウィスコンシン看護大学マディソン校の教員との交流（本学の紹介）、アメリカンファミリーこども病院の視察および障害児者看護チームメンバーへの日本における障がい児看護の実際についてプレゼンテーション、ウィスコンシン州特別支援学校の視察およびスクールナースとの交流を行った。
- ・2月、日本家族看護学会（JARFN）国際交流企画 スモールグループに参画し、「児の発達に合わせた退所支援」についてプレゼンテーションを行い、アジア圏（韓国・台湾・香港）の小児科系看護師・研究者との交流を図った。
- ・3月、コンケン大学教員との交流会に参加し、小児科看護師との交流を図った。
- ・10月、高大連携事業として、静岡県立静岡東高等学校1・2年生72名に対して、テーマ

「人の生命にかかわる看護職と看護学」について、対面講義を行った。

- ・日本難病看護学会第 29 回学術集会の事務局および企画・実行委員・査読委員を担当した。
- ・日本難病看護学会第 29 回学術集会シンポジウム「難病の子どもの成長・発達支援 ― 様々な立場からの検討―」の企画・運営を行った。
- ・静岡県小児保健協会の幹事、および 12 月学術集会実行委員および口演座長を担った。
- ・日本小児看護学会第 38 回学術集会の事務局、企画委員として、企画運営を担当した。
- ・母性看護学・助産学の教員と協働し、8 月本学看護実践教育研究センター主催県民の日「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」、および 9 月、掛川市後援のもと「孫育てカフェ」の企画・運営・実施を行った。
- ・日本家族看護学会第 31 回学術集会において、「孫育てカフェ」の実践報告を発表した。
- ・8 月、静岡市静岡子育て支援センターにおいて、講話「あつ危ない子どもの周りに潜む危険」および子育て相談を行った。
- ・3 月、近隣クリニック主催のイベントにおいて「孫育て相談会」を実施した。
- ・小児看護専門看護師の活動として、動画講義の監修・企画・講義、小児看護に関連した学会や専門看護師会等が開催する学術集会及び研修での講師およびファシリテーターを務めた。

丸山始美

- ・高大連携として、10 月に静岡理工科大学星陵高等学校の 1・2 年生に対して、「看護師に必要な知識や技術」について対面形式による講義を行った。
- ・国際看護交流の一環として、5 月にタイ国コンケン大学の留学生 3 名に対し、静岡県立こども病院への視察の引率を行った。
- ・看護実践教育研究センター主催の県民の日：県大小鹿キャンパスいきいきフェスタの準備や当日の運営補助業務を実施した。
- ・日本小児看護学会第 38 回学術集会の企画委員を担当した。
- ・日本看護倫理学会の選挙管理委員を担当した。
- ・日本がん看護学会の SIG（小児・AYA 世代がん看護）にて、交流集会を企画した。テーマ「原点回帰！ 小児・AYA 世代の声に耳を傾け対話をしよう-ACP 普及の過程で直面する課題の解決に向けて-」の企画協力委員として活動した。
- ・株式会社 gene の依頼による小児看護に係わる動画「小児看護に活かす主な理論」「子どもや家族との関係形成に必要な基本的知識」の講義を担当し、動画が公開された。
- ・北米研修時に視察したウィスコンシン州マディソンの UW Health American Family Children's Hospital の看護大学の教員や緩和ケアチームメンバー等に本学紹介や日本における子どもの意思決定支援に関するプレゼンテーションを行い、国際交流を図った。

梁川 明

- ・タイ国コンケン大学留学生を対象とした歓迎会を企画・運営した。またコンケン大学留学生のこども病院見学における引率同行した。
- ・広島県ヘモフィリア友の会における血友病患者を対象としたサマーキャンプにおいて、賛助会員として参加し、患者家族に対して自己注射指導の支援を行った。
- ・県民の日に静岡県立大学小鹿キャンパスカレッジホールで行われた看護実践教育研究センター主催の小鹿キャンパスいきいきフェスタの準備や当日の運営補助業務を支援した。

7) 母性看護学・助産学領域の活動

<教育活動>

(1) 学部 母性看護学

看護学部1年次の専門基礎分野の科目である「身体と心のセクシュアリティ」では、セクシュアリティの視点から健康を考えられる学生を育てるため、セクシュアリティの概念・多様性・発達、性意識・性行動、プレコンセプションケア、性感染症、人工妊娠中絶、助産師による「いのち」の教育、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点からライフプランを考えるという内容を7名の教員が担当しオムニバス形式で実施した。毎回の講義でディスカッションの時間を設け、活発な意見交換が行われた。各講義の小レポートは、ループリック評価表を用いて評価し、学生からの質問等は、講義中やユニパを通してフィードバックした。小レポートと最終レポートは、教員7名が分担して評価し、後期ガイダンスの際に、学生へ返却した。学生の関心は高く、授業評価アンケートでも総合評価4.77（回収率82%）とよい評価を得た。

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護ケアの考え方、ケア方法について教授している。担当科目は、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。母性看護学は、2年次に概論的な講義から基礎知識を学び、3年次には、各論的な講義から専門的な知識へと段階を追って学びを深め、その上で演習を通して思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習で統合するという流れで組み立てている。今年度は、COVID-19 感染症やインフルエンザ等の影響も考慮し、感染対策に留意しながら講義・演習を実施した。

母性看護学概論では、母性看護学の対象となる女性および家族に目を向けた健康課題や法的制度にも関心を持てるような講義を展開した。女性特有の疾患に関する病態や治療、診断技術、生殖の生理について、現場で活躍している産婦人科医師による講義により理解を深めた。そして、女性支援に必要なジェンダーの視点についてNPO 法人男女共同参画事業実施者からの講義を実施した。また、対象となる女性および家族に関する問題を身近に捉えるために、開業助産師による地域での母子や家族への支援活動の実際についての講義を実施

した。

母性看護援助論Ⅰでは、生殖の生理から、正常、異常を含めた妊娠・分娩・産褥経過について、現場で活躍している産婦人科医師による講義を組み入れ専門的な知識の修得を図った。母性看護学担当教員は、母親になることへの支援に向けて、産褥経過や新生児に関する概論的な知識と母子相互作用からみた母乳育児支援についての講義を実施した。

母性看護援助論Ⅱは、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、4名の担当教員により、オムニバス形式で講義を実施した。看護過程は、事例を用いながら個人による課題学習を進めると共に、看護過程の展開への理解を深めるため、教員が学生一人ひとりの看護過程を添削し、フィードバックを行った。

母性看護学演習では、担当教員が、各技術項目の内容、デモンストレーションの方法、学生への教授方法について事前に検討し、褥婦の健康診査、新生児のフィジカルアセスメントと沐浴、産後に必要な癒しケアとして足浴とハンドマッサージ、母乳育児支援のための適切なポジショニングとラッチオンに関して演習を実施した。健康教育では、グループで企画・進行・媒体作成および健康教育の実施とその評価までの一連のプロセスを体験し、グループ発表することにより学びを深めた。

母性看護学実習は、2週／1クール5～6人の学生が実習を行った。実習施設は、昨年度に引き続き、静岡赤十字病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の6か所で2週間の臨地実習を行った。臨地実習では、1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、分娩期のケアや妊婦健康診査、産褥2週間健診の見学など産婦人科外来での実習を行った。実習最終日のまとめの会では、臨地での学びを文献で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習は、4年生13名が母性看護学領域で実習を行った。富士市内の助産所1か所にて7名、静岡市内で母乳育児支援や産後ケアを行う助産所4か所にて1～2名ずつの学生が実習を行い、地域における助産師の子育て支援について学びを深めた。11月に発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。

卒業研究は、太田・中川・永谷(9月まで)・福島が各3名の学生を担当し、大和田・長屋・池田が各2名の学生、高橋が1名の学生の計19名の学生を担当した。10月以降、中川・福島が各4名の学生、大和田が3名の学生を担当した。

(2) 大学院博士前期課程 助産学課程

博士前期課程2年生7名、1年生6名が在籍した。

1年次は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。県外在住の非常勤講師担当の一部講義は、ZOOMを活用したオンライン双方向形式を採用したが、その他は対面で実施した。

助産診断学演習Ⅰ・ⅡではPBLを用いた授業を展開した。妊娠期助産診断技術学、助産

技術学演習では、臨地実習に必要な知識・技術習得のための講義と演習を行った。統合ヘルスケア論では、妊産婦の冷えと助産ケア、周産期の植物療法、東洋医学など、助産ケアに必要、かつ、より豊富な知識やスキルを習得できるよう演習を行った。新生児蘇生法(NCPR)講習会は、対面で実施し、1年生6名全員が専門コースの認定を受けた。リプロダクティブ・ヘルス演習は、リプロヘルスサポーター認定に向けて、各テーマにおける研究者、開業助産師をはじめとする地域の専門家による講義、避妊法・受胎調節法に関するプレゼンテーションを実施した。さらに本学看護学部1年生を対象に『こんなとき、あなたならどうする？—大学生に学んでほしい避妊とデートDV—』と題した、参加型形式の性教育講座を計画・実施して、高評価を得た。助産学概論では、社会のニーズや時代の流れに即して教育の充実を図るため、「周産期のメンタルヘルス」の講義を行った。さらに、助産管理論では、大学院で学んだ助産学生として、政策的に助産師の活動をとらえて、将来、活動することを狙い、「助産と政策」の講義を行った。その中で、国際医療福祉大学大学院の福井トシ子先生をお迎えして公開講義を実施した。その後、各学生が、政策提言に関して検討し、発表を行った。助産学特論と助産学応用演習は、Evidence-based Midwiferyのステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式と個別指導を組み合わせで行った。

臨地実習は、感染予防に努めながら、実習施設の基準に基づいて実施した。1年次の妊婦健康診査実習は、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の3か所に学生が2名ずつに分かれて、計6名が実習を行った。全員が妊婦健診および個別健康教育の実施の機会を得た。助産学準備実習および助産学実習では、第1期と第2期に分け、間に一週間のインターバルを設けた。第1期は、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の3か所に2名ずつ学生を配置した。第2期は、実習病院から受け入れ学生数減の希望があったため、しのはら産科婦人科医院を新たに実習施設として開拓して、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院に2名ずつ、静岡済生会総合病院、しのはら産科婦人科医院に1名ずつの計6名が実習を行った。学生は臨地にて妊婦の健康審査や保健指導を経験し、また、継続事例1例を含む分娩介助(9例:3名、8例3名)を経験した。地域助産学実習(助産院)では、今年度から新たに、いぶきの助産院を実習施設として開拓した。くさの助産院で2名、渡辺助産院で2名、いぶきの助産院で2名が実習し、地域における助産師の役割と活動についての学びを深めた。地域助産学実習(地域)では、母子保健包括支援の観点から、地域における女性や母子の支援、助産師の活動に焦点を当て、各学生が各々の関心のあるテーマで、実習先について調査しフィールドワークを行った。NICU実習(周産期助産学実習)は、静岡県立こども病院、静岡済生会総合病院、聖隷浜松病院で各2名ずつが実習した。1例のハイリスク児の看護過程を展開し、胎児期からのつながりとしての新生児の理解とケア、母親や家族のケア、多職種連携についての学びを深めた。

2年次の助産学統合実習では、今年度から新たに、いぶきの助産院を実習施設として開拓した。渡辺助産院で2名、くさの助産院、おはな助産院、助産院こうのとり、いぶきの助産

院で各 1 名ずつの計 6 名が実習を行った。妊娠期末期からの継続事例 1 名の受け持ちを含む、1～3 例の分娩介助を経験し、地域における助産師のケアと職責についての学びを深めるとともに、より質の高い助産ケアの習得に努めた。昨年度の助産学実習において、分娩介助例数が少なかった学生については、助産学統合実習において 2～3 例の分娩介助をさせていただき、2 年間の分娩介助数を 9 例～10 例にすることができた。

修士論文指導は、太田 3 名、中川 3 名、(永谷 2 名：9 月まで)、学生を主指導教員として担当した。1 名が 9 月末で退学となったため、6 名が、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得した。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、6 名が 2 月の助産師国家試験を受験した。

看護学研究科を含む、助産師養成課程への進学希望者を対象に、8 月（第 15 回）と 3 月（第 16 回）に、助産について語る会（MJ café）を開催した。参加した学部生は進学、母子保健やウィメンズヘルスケアへの関心が高まった様子が見えた。

教育の質保証の取り組みとして、6 月にワーキンググループを立ち上げ、毎月 1 回、領域教員全員が参加して検討した。会議では、令和 5 年度修了生を対象としたカリキュラム・コンサルティングの結果の共有、改善策の検討、さらに前年度の評価を踏まえて、令和 6 年度修了生を対象としたカリキュラム・コンサルティングを企画して、2 月に実施した。前年度からの変更点は、付箋から、Microsoft teams を用いてオンライン上で意見を記載してもらう点で、修了生 6 名により、活発な意見交換が行われた。また、博士前期課程の 3 ポリシーを踏まえての助産学課程 3 ポリシーの再検討、妊婦健診実習および助産学実習のルーブリック評価表の検討を行った。

<地域貢献活動>

領域で行っている活動

助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」を 8 月 29 日に対面で開催した。教育講演は、東京慈恵会医科大学付属病院生殖看護認定看護師である稲川早苗氏による教育講演「生殖補助医療の実際～命のタネを育み支えるケア～」であった。

領域で主催した公開講義・特別講義は、「社会的養護と出産ケア」（静岡大学人文社会科学部教授・白井千晶先生）、「GTA を学ぶ」（神奈川保健福祉大学准教授・西名諒平先生）であった。助産と政策に関しては、国際医療福祉大学大学院副大学院長の福井トシ子氏による助産管理論の講義、「妊娠糖尿病妊婦のケア」を静岡県内の助産師や行政保健師などに公開した。その中で、浜松市健康福祉部健康増進課 副参事課長補佐小笠原雅美氏をゲストスピーカーとしてお招きし、「浜松市の妊娠糖尿病支援事業」について講演いただき、25 人が参加した。7 月 10 日開催の新生児蘇生法(NCPR)講習会では、静岡市内の看護師 1 名の応募があったが、体調不良により当日の参加には至らなかった。

静岡市助産師会と共催で、4 月 15 から 3 月 29 日まで、「地域助産師との交流会ーGo

to 産婆」を実施した。また、大和田が代表者となり、昨年度に引き続き、藤枝市地域政策研究・創造事業の助成金を獲得し、助産学課程在学学生、看護学部生、開業助産師とともに、9月7日「子育てパパのおしゃべり交流会」、11月16日「アラフォーママの子育て&健康講座」の講座を開催した。事業の成果は、3月5日、藤枝市産学官連携推進センターで開催された「令和6年度 藤枝市地域政策研究・創造事業成果報告会」にて、助産学課程の大学院生と母性看護学ゼミの学部4年生が活動報告や政策提言を行った。さらに、NPO法人 place of peace、NPO法人なのはなの共催で「共感セッションプログラム もうすぐ赤ちゃんがやってくる」を開催した。

太田尚子

太田は、メンバーと共に天使の保護者ルカの会の20周年記念シンポジウムを企画・運営し、「天使の保護者ルカの会20年の足跡」のテーマで講演を行った。また、「第38回日本助産学会学術集会（オンライン開催）」において、シンポジウム「ペリネイタル・ロスの支援における尊厳を多面的に考える」を企画し、シンポジストとして、「ペリネイタル・ロスのケアにおける尊厳～助産師の立場から～」のテーマで講演を行った。また、第36回静岡県母性衛生学会学術集会にて、総会の議長と羽衣セミナー「今どきのママへの母乳育児支援」の座長を務めた。ペリネイタル・ロスに関しては、東京で開催しているサポート・グループ「天使の保護者ルカの会」へ6回参加した。研修会の講師については、東京純心大学主催、起業を目指す助産師のためのビジネススキル習得講座「周産期に子どもを亡くした家族への切れ目のない支援」の講師、三重県子どもの育ち支援課主催の第4回母子保健コーディネーター養成研修会「周産期に子どもを亡くした家族へのグリーフケア」（オンライン開催）の講師、多職種が参加した「周産期緩和ケアを考える会」のファシリテーターを務めた。また、2名の講師に依頼して、ふじの国周産期喪失に関わるサポート・グループの集い（第2弾）をオンラインで開催した。さらに、全国助産師教育協議会の理事として、総会や理事会に参加した。

中川有加

中川は、日本助産学会誌、日本看護学会誌の専門査読委員として、投稿論文の査読に携わった。全国助産師教育協議会のシミュレーション小委員会として、他大学の教員および臨床教授6名で作成した分娩期のシミュレーション12事例を静岡県立大学において1月にライブオン研修、3月に対面での研修を実施した。また、全国助産師教育協議会の将来構想委員会の委員として、今後の助産師教育の一環として「コロナ禍後の助産学実習（分べんの取り扱い）と実習到達度を担保するための取り組みに関する実態調査」の計画を立案し、質問紙を作成し、全国助産師教育協議会加盟校に配信した。保健師助産師看護師試験委員として、第108回助産師国家試験問題作成に携わった。公益社団法人桶谷式母乳育児推進協会の倫理審査委員会の委員長として研究倫理審査を行った。静岡市男女共同参画審議員として、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する教育および啓発の推進、人権に関する行動指針、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。静岡県看護協会の

研究に関する研修会で質的研究及び研究計画書の講評の講師を担当した。メディカ出版主催の「フリースタイル分娩介助セミナー」を日赤医療センター元看護副部長の中根直子氏と共に東京でセミナーを実施した。NPO 法人だっことおんぶの研究所主催の「SNS の子育て情報を科学的に説明する会」で母乳育児について、高橋明味助教と講演を行った。

永谷実穂

永谷は、小鹿キャンパス内で女性健康相談室を月 1 回の健康相談を開催（4 月～8 月）した。令和 5 年度から行っている女性健康相談室主催、母性看護学・助産学および看護実践教育研究センター共催の「これからの女性の健康を考えよう—生き生きとステキに年を重ねるために—」の健康講座を令和 6 年度も 10 月に企画し、浜松医科大学基礎看護学講座・永谷幸子氏、本学基礎看護学領域・管原清子講師、精神看護学領域・近藤美保助教と共に、ハイブリッド形式で講座を開催し、小鹿キャンパス参加者には体験型の内容を実施した。当日運営には、中川有加准教授、大和田裕美助教も担当した。一般向けの更年期女性に向けて、「メノ・マゼンタの会」としてメノポーズカウンセラー1 名と 2 名で奇数月に 1 回、オンラインでミニ講座と座談会を平日の夜に開催した。7 月には「来・て・こ」にて対面形式で開催した。また、2024 年度日本更年期と加齢のヘルスケア学会メノポーズカウンセラー受験者必修講座、第 3 回目実践研修会（オンライン）の講師を担当した。伊豆市健康長寿課で開催の「女性のための健康講座」にて講師を務めた。焼津市介護保険審査会の審査委員として認定審査に携わった。また、一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘルス研究所の幹事として、運営に携わった。

福島恭子

福島は、8 月 21 日の県民の日「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」で、高橋明味助教と『楽しく学ぼう！防災は「じぶんごと」講座』を企画・運営するとともに、「災害時の避難・医療・生活」の講師を務めた。8 月 26 日～9 月 9 日に開講されたオオサキメディカル主催 dacco オンラインセミナーにて、「災害に強い産科クリニックづくり～事例と STEP で学ぶ産科クリニック BCP～」の講師を務めた。環境看護学・荒井孝子教授、菜桜助産所・堀田久美院長らと共同開発した『骨盤臓器脱（子宮脱）モデル Utena』の開発経緯と特徴、演習での活用方法について、京都科学 Web マガジン SimSimWeb の 9 月 27 日版と 10 月 11 日版で公開した。日本助産診断実践学会理事および分担執筆者として、『マタニティ診断ガイドブック第 7 版』（医学書院）刊行に向けた改訂検討と乳児期診断開発を担当した。また、日本災害看護学会第 27 回年次大会実行委員として、2025 年 9 月開催の学術集会企画に携わった。11 月に行われた日本助産師会令和 6 年度南北関東地区研修 in 静岡において受付・誘導を担当した。

大和田裕美

大和田は、NPO 法人 place of peace との共催で妊娠中から 1 歳までの子どもを育てている夫婦を対象とした講座「共感セッションプログラム もうすぐ赤ちゃんがやってくる」を企画しファシリテーターを務めた。静岡県中部健康福祉センター主催の妊産婦及び母子支

援ネットワーク会議では、事例検討のグループワークファシリテーターを務め、「社会的ハイリスク妊産婦に対する多職種連携を通じた切れ目ない支援」に関する講演を行った。また、小児看護学領域池田麻左子助教とともに、祖父母を対象とした講座「孫育てカフェ～語ろうじーじ・ばーばの孫育て～」を企画し、8月21日県民の日「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」および掛川市徳育保健センターにて運営した。8月に行われた第29回日本難病看護学会学術集会の実行委員、および、11月に行われた日本助産師会令和6年度南北関東地区研修in静岡の受付・誘導を担当した。看護実践教育研究センターのBLSプロジェクトにおいて、学生の資格取得を支援した。

長屋和美

長屋は、8月に行われた第29回日本難病看護学会学術集会の実行委員、および、11月に行われた日本助産師会令和6年度南北関東地区研修in静岡において受付・誘導を担当した。

池田美音

池田は、11月に行われた日本助産師会令和6年度南北関東地区研修in静岡において受付・誘導を担当した。また、看護実践教育研究センターのBLSプロジェクトにおいて、学生の資格取得を支援した。

高橋明味

高橋は、8月21日県民の日「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」では、楽しく学ぼう！防災は「じぶんごと」講座を、福島恭子講師とともに企画・運営した。11月に行われた日本助産師会令和6年度南北関東地区研修in静岡において受付・誘導を担当した。NPO法人だっことおんぶの研究所主催の「SNSの子育て情報を科学的に説明する会」で母乳育児について、中川有加准教授と講演を行った。2月8日に行われた「共感セッションプログラム もうすぐ赤ちゃんがやってくる」の運営補助を行った。また、看護実践教育研究センターのBLSプロジェクトにおいて、学生の資格取得を支援した。

母性看護学・助産学領域が主催した講座等

講座等の名称	開催日時	会場	参加者	共催・後援等
地域助産師との 交流会 ーGo to 産婆ー	令和 6 年 4 月 15 日（月）、 4 月 23 日（火）、 5 月 18 日（土）、 5 月 24 日（金）、 6 月 8 日（土）、 6 月 12 日（水）、 7 月 10 日（水）、 7 月 18 日（水）、 9 月 5 日（木）、 10 月 1 日（火）、 10 月 23 日（水）、 11 月 15 日（金）、 11 月 28 日（木）、 12 月 10 日（火） 令和 7 年 1 月 11 日（土）、 1 月 27 日（月）、 2 月 6 日（木）、 2 月 18 日（火）、 3 月 17 日（月）、 3 月 29 日（土）	ママここっち、ト イトイトイファク トリー、Ami 助産 院、まき助産院、 静岡県立大学小鹿 キャンパス看護学 部棟実習室 3、助 産院こうのとり、 おしゃべりサロン 森下、いぶきの助 産院、くさの助産 院、助産院 hanahakka、羽 鳥児童館、市川商 店錦町ベース	妊娠中の女性、育 児中の母親、助産 師に関心のある学 生等 201 名 (うち、小鹿キャン パス会場 33 名)	【共催】 静岡市助産師会
共感セッションプ ログラム 「もうすぐ赤ちゃん がやってくる」	令和 6 年 8 月 10 日（土） 9:30～11:30、 令和 7 年 2 月 8 日（土） 10:00～12:00	藤枝市生涯学習セ ンター 静岡市城東子育て 支援センターあん と	妊娠 16 週以降 1 歳 までの子どもを育 てている夫婦 計 19 組	【共催】NPO 法人 place of peace、 NPO 法人なのは な 【後援】 静岡市助産師会、 看護実践教育 研究センター
藤枝市地域政策 研究・創造事業 「子育てパパのお しゃべり交流会」	令和 6 年 9 月 7 日（土） 10:00～11:30	藤枝市産官学連携 推進センターBiVi キャン	小学生までの子ど もを育てている 父親 4 名	【後援】 看護実践教育研究 センター

藤枝市地域政策 研究・創造事業 「アラフォーママ の子育て&健康講 座」	令和 6 年 11 月 16 日（土） 10:00～11:40	藤枝市産官学連携 推進センターBiVi キャン	妊娠中から子育て 中の 30～40 代の 女性 6 名	
新生児蘇生法専門 コース講習会	令和 6 年 7 月 10 日（水）	小鹿キャンパス 看護学部棟 実習室 4	対象：静岡市内の 助産師・看護師 0 名、助産学生 6 名	
女性健康相談室 主催 「これからの女性 の健康を考えよう ー生き生きとステ キに年を重ねるた めにー」	令和 6 年 10 月 5 日（土） 13：00～16：30	小鹿キャンパス オ ン ラ イ ン (Zoom)	静岡県内在住の 30 歳以上の 女性 会場 24 名 ZOOM 4 名	【共催】 看護実践教育 研究センター
公開講義 「妊娠糖尿病妊婦 のケア」	令和 6 年 2 月 3 日（土） 10：00～12：00	静岡県立大学 小鹿キャンパス 実習室 3	助産学生、助産師、 看護師、保健師等 計 25 名	

8) 精神看護学領域の活動

＜教育活動＞

精神看護領域では、人間関係論、精神看護学概論、生涯発達心理入門（全学共通科目）、精神看護援助論、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学入門、卒業研究を担当した。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護実習、多職種連携実習を担当した。

対面授業を原則として行っていたが、非常勤講師の都合上、講師の確保が困難な精神看護学概論は外部講師のみzoomによる授業とした。

また外部講師を招聘し臨床現場の実際（当事者からの体験談、司法精神看護、精神科の看護管理、精神科における看護管理や訪問看護、精神保健医療福祉における自殺防止対策等）についての講義を継続して実施した。

見学実習として実習前の3年生を対象に精神科医療の現場である沼津中央病院とこころの医療センター、溝口病院を見学する機会を設けた。現場のリアルな状況について看護職から直接話を聞く機会や見学は、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高めることにつながっていた。

精神看護学実習において作業所実習では、1日ごとに別の作業所で実習を行い、各施設の特徴や通所者にとっての役割の違いを学んだ。さらに、これまで特に病院実習において患者との関わりを通して学習してきた、コミュニケーション・ストレングス・患者への関わり方等については各種課題を出して、学内でのDVD視聴・グループワーク・課題提出用録画作成等と、オンラインでのグループ検討・課題結果の発表等を行った。

今年度から開始した多職種連携実習ではこころの医療センターで、看護職が精神科医療機関で連携する他職種のケアの実際についてデイケアやリハビリテーションの場所で学んだ。また感染症看護の多職種連携実習の一部もフォローとして参加し実習を支援した。

最終学年の4年次発展看護実習においては、精神障がいを抱えた方々が地域の中で生活することの意味や課題を、3年次に行った精神看護学実習での学びを基に、作業所や支援センターでの実習を通して改めて考え、理解を深めることができた。さらに、精神保健福祉センターでの行政機関の実習では、精神保健を広く発展的に理解する機会を得ることができた。来年度は、今年度の学習スタイルを踏襲しながら、病院の外来デイケア部門での実習を少しでも取り入れることができるよう、実習施設側に働きかけていく予定である。

最新看護の動向では、ギャンブル・ゲーム依存症回復支援施設～山梨モデルについて～坂本拳（一般社団法人グレイス・ロード甲斐サポートセンター・センター長）の講義を行った。

臨床心理学入門、生涯発達心理入門では学内外の心理職や、LGBTの当事者や、障害を有する当事者の家族等の話を聞く機会を設けながら、心理学全般や、生涯発達の基礎について学ぶ機会を提供しながら講義を展開した。外部の聴講生も1名受け入れた。

卒業論文の指導では今年度初めて担当する助教二名と教授のゼミで合同して行うことで学生に対する教育上の質を担保した。

大学院では精神保健看護学に関連する講義を担当した。また修士論文指導では副指導教員として二名の修士学生の指導を行った。また博士後期課程では主指導として二名担当した。

<領域で行っている地域貢献活動>

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、精神医療審査会の審査委員、日本学校メンタルヘルス学会の理事・評議員、日本いのちの教育学会の理事（令和7年度の準備）を担当した。また公衆衛生や看護系の雑誌の査読、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校、富士市立専門学校の非常勤講師を担当した。静岡県内の精神科看護師を対象とした沼津中央病院の研究の講評、日本精神看護協会静岡県支部の研究の講評を担当した。

近藤は、静岡福祉大学、清水市立看護専門学校の非常勤講師、富士市立専門学校を担当した。静岡市地域活動支援センターみらい運営委員を担当した。

小泉は静岡県立看護専門学校、静岡福祉大学の非常勤講師を担当した。

佐藤は静岡福祉大学の非常勤講師を担当した。

また特筆すべきこととして、今年度は日本いのちの教育学会の第26回研究大会『依存症

～やめられない「何か」を手放す生き方を探る～』を静岡県立大学で開催した（2025 年 2 月 15 日に開催）。大会長篁、事務局長近藤、事務局長補佐小泉、実行委員佐藤、大竹の役割を務め、全国から約 70 名の参加があった。

9) 公衆衛生看護学領域の活動

<教育活動>

(1) 講義・演習

令和 4 年度カリキュラムにより、3 年次は公衆衛生看護管理論Ⅰ（1 単位）が開始されたが、過年度生には公衆衛生看護管理論（2 単位）を開講した。令和 4 年度入学生が 4 年次の実習および公衆衛生看護管理論Ⅱ（1 単位）を残し、講義・演習・2 年次の実習を修了した。1 年次から 4 年次の実習に向けて連続した積み上げとなるよう授業を整理できた。特に、令和 4 年度カリキュラムにより開始された 2 年次開講の保健医療システム論、コミュニティ・アセスメント論の評価、改善を行い、また 3 年次の演習は 4 年次の実習で使用する様式を用い、学生が個別支援からの地域支援へのつながりを理解した地域診断が可能となるような内容とした。

公衆衛生看護学の科目は 2 年次までは必修であり、保健師課程を履修しない学生も学ぶ。公衆衛生看護学概論により地域における予防活動ならびに保健師の役割、ヘルスプロモーションにより保健活動の概念とあり方、保健医療システム論により地域の健康課題に即した政策ならびに課題解決に向けたシステム、コミュニティ・アセスメント論により健康に関する地域のとらえ方と生活について学ぶことで、看護師として臨床のみならず地域で暮らす人への看護へと視点を広げ、一人の人への臨床から地域への切れ目のない看護の提供のあり方を学修した。

3 年次からは選択制となり、より専門性が高まる講義・演習となるが、1 年次から 4 年次までの公衆衛生看護学を積み上げられるようにそれぞれの科目からのつながりを重視した授業内容とした。また、学生の学習を効果的に進められるよう適宜グループワークを用いたり、ゲストスピーカーを招聘した。

(2) 実習

①公衆衛生看護学実習Ⅰ（令和 4 カリキュラム）

2 年次後期に 119 名が保健所 4 カ所、市町村保健センター 13 カ所、事業場 3 カ所に分かれ、地区視診と学内まとめを合わせた 5 日間の実習を 60 名、59 名に分かれ 2 週に渡り行った。保健所では地域の健康課題及び各種事業の概要の説明に加え、新任保健師による活動紹介等、学生が理解しやすい講義内容となるようなプログラム構成であった。市町村保健センターでは地域の健康課題及び各種事業の概要の説明と事業参加により学生が保健活動の実際を経験した。事業場では事業場概要及び健康課題と保健活動に関する説明並びに工場見学により労働環境からの健康課題と保健活動との関連を理解で

きた。地区視診はコミュニティ・アセスメント論で学んだ観察項目を学生の居住地にて各自実施して、他学生と人々の生活とそれに関連する地域の情報を共有することで地域の共通点・相違点を整理し、生活の場である地域の多様性と特徴を学べた。

学生は、本学習を通じて3年次での保健師国家試験受験資格取得課程の選択の意思決定をしやすくなり、選択しない学生にとっても、地域に暮らす人々への保健活動の学びは、医療機関から地域へと看護が継続されていることの理解に役立っている。

②公衆衛生看護学実習Ⅰ（平成30カリキュラム）

保健師課程を選択した102名が、県内4保健所、14保健センターに分かれて10日間実施した。

事前学習では既存資料の分析を行い、実習では地区踏査や住民・保健福祉関係者からの聞き取りを通して地域診断を行った。また学内で、各実習地の地域診断を発表し合うことで、地域の人々の暮らしぶりや健康課題の違いを学ぶことができた。さらに地域の特性に合わせた公衆衛生看護活動とは何か、行政保健師の活動を知ること、その役割について考えることができた。

③公衆衛生看護学実習Ⅱ

30カリ学生のうち、本実習を選択した102名が、4年次前期に学生の希望により「行政」「産業」「学校」に分かれて、それぞれ10日間の実習を実施した。市町村保健センターを実習拠点とする「行政」で62名が、事業場を実習拠点とする「産業」で24名が、小中学校と特別支援学校を実習拠点とする「学校」で16名が、21グループに分かれ、29施設で実習を行った。

「行政」の実習グループは、保健所4か所、市町村保健センター12か所にて、実習Ⅰで実施した地区診断に基づき、地域で展開されている各種保健事業への参加、家庭訪問、健康教育の実施といった予定をしていた実習内容を実施することができた。対象は乳幼児から高齢者まで幅広い対象であったが、それぞれの発達段階や暮らしの状況に応じ、地域の強みと弱みも意識しながら地区活動を学ぶことができた。実習Ⅰと同じ市町村で実施することにより、地域の特徴の理解が深まった。そのことにより、地域や住民の方々の中にある自らの健康を増進する力を高めようとする力に気づき、それを支援する公衆衛生看護活動における行政保健師の機能と役割を具体的に学ぶことができた。

「産業」の実習グループは、事業所3か所にて、働く場の特性に応じた産業保健活動の実践を学ぶことができた。作業条件に関連する健康障害の予防や安全のために職場巡視の必要性や観察すべき内容や行動変容に結びつけるための根拠に基づく保健指導について、事業所における健康課題の特徴と関連づけて理解することができた。実際に実施した健康教育や保健指導では労働環境を考慮した内容を考案できた。

「学校」の実習グループは、前半は静岡市内の小中学校4校、後半は特別支援学校4校と吉原林間学園（1日の見学実習）で実習を行った。小中学校では、学校保健活動の概要や児童生徒および職員の健康状態を把握し、健康課題を捉える方法を学んだ。養護教

諭からの助言を基に児童生徒の健康状態を分析し、児童生徒を対象に保健教育を実施した。特別支援学校では、障害をもつ児童生徒への自立に向けた支援について理解することができた。児童心理治療施設では、入所している児童の特徴や保健師の役割について理解を深めることができた。実習終了後には、実習グループ毎に実習内容の発表を行い、児童生徒の発達と健康課題、養護教諭の役割等、広く学校保健についての学びを深めた。

実習最終日の学内のまとめでは、同じ時期に実習を展開していた学生が学びを報告しあい、「行政」「産業」「学校」といった様々な場での保健師活動について理解を深めることができた。

＜領域で行っている地域貢献活動＞

地域の専門職への現任教育活動としては、静岡市新任期保健師研修に協力し、1年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義やグループワークを行い、担当地区のアセスメントをもとに今後どのように地区活動を展開していくかといった観点で助言と講評を行った（鈴木千智、藤田）。また、2年目と3年目の新任期保健師に対して、地域マネジメントの講義と3年間を通じた地域診断と展開に関する報告へ講評を行った（佐藤）。静岡県の保健師には、8月に「新任期地域保健従事者研修会」で記録の書き方とアセスメントを、また「地域保健従事者研修(中堅期)」では、新任期研修の内容に加えて、新任期の人材育成についての研修を行った（杉山）。袋井市健康長寿課の依頼により、5月には静岡県保健師会の依頼により「保健師のワークエンゲージメント向上のための研修」を実施した（伊藤）。

静岡県看護協会の依頼により、3職能交流会で「子どもの権利と虐待の予防」を講演した（杉山）

静岡県中部健康福祉センター「新任期保健従事者現任研修～事業評価～」を11月と1月に実施した（畑中）。静岡県富士健康福祉センター「新任期保健従事者現任研修」を1月に実施し、3月には同管内の「地域保健福祉活動研究会」にて、4題の発表についての講評と講義を行った（鈴木千智）。その他、静岡県健康福祉部主催の「市町村等保健師管理者能力育成研修」において遠隔講義の作成、集合研修当日（9月）の助言を行った全国保健師長会静岡県支部研究会にて、「統括保健師の役割を考える」をテーマに行われたグループワークにて助言を行った。（鈴木千智）。

静岡県熱海健康福祉センター主催の「管内地域新任期保健従事者研修会」にて「保健活動に生きる記録の基本」についての講義と演習、「PDCAサイクルに基づく個別支援の視点」についての講義を行った（杉山・藤田）。

その他、愛知産業保健総合支援センターの産業看護職のためのステップアップ講座で「産業看護職としてのメンタルヘルス不調者支援」の講師を1月に務めた（畑中）。

静岡県立静岡がんセンターの「認定看護師教育課程・乳がん看護分野」で、ヘルスプロモーションの講義を8月に行った（鈴木千智）。富士市地域保健課主催の富士市地域保健

活動研修会にて、「保健師になる」をテーマに保健師のキャリアに関する研修の講師を務めた（鈴木千智）。また、島田市健康増進計画等検討委員会委員長、静岡市保健所運営協議会委員として参画した（畑中）。静岡県精神医療審査会委員（精神保健福祉法第 12 条）の委員として、法を順守した適正な人権擁護に基づく精神科医療及び保護の提供に資するため、入院者、家族等及び精神科指定医等に対する意見聴取及び書面審査等により、入院の必要性及び入院者の退院請求等に係る審査業務を行っている（藤田）。静岡県国民健康保険団体連合会の「保健事業・評価委員会」の委員として地域の保健事業に関する助言指導を行う他、静岡県看護協会・保健師職能理事としても活動している（杉山）。静岡県の依頼により令和 3 年 4 月～重層的相談支援体制構築事業アドバイザーとして自治体支援活動を行っている（栗田）。

中央健康医療大学校の非常勤講師を令和 2 年 4 月～継続している（栗田）。牧之原市、袋井市等の依頼により高齢者虐待対応力向上のための行政、地域包括支援センター、サービス事業所、訪問看護ステーション等を対象に研修会を実施した。（栗田）

佐賀県等の依頼により保健師を初め、専門職対象に「包括的な相談支援と体制整備について」研修の講師を務めた（栗田）。

10) 在宅看護学領域の活動

<教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するために必要な知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。学部の科目編成は、「地域包括ケア」「地域家族支援論」「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」「在宅看護学実習」「発展看護実習」「卒業研究」である。看護学研究科の科目編成（開講科目）は、博士前期課程「家族看護特論」、博士後期課程「看護学研究特講」「地域・在宅看護システム特講」である。

在宅看護学領域においては、地域包括ケアや在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養うアクティブラーニングを活用している。

学部 1 年生の「地域包括ケア」では、地域住民を中心とした地域包括ケアにおいて、あらゆる健康状態にある人々の生活を支える多職種連携による支援と、看護専門職者の役割・機能について理解し表現できること、学部 2 年生の「地域家族支援論」では、現代の多様な家族の健康課題への支援について理解を深め家族看護過程や家族看護アセスメントモデルの展開方法を修得することを学習目標とし、対面形式による健康教育プログラムの作成や事例検討といったアクティブラーニングを取り入れた授業を展開した。学部 3 年生の「在宅看護学概論」「在宅看護学演習」では、地域・在宅で生活する人々の療養生活の質向上に影響を及ぼす療養の場、多職種連携、社会保障制度を理解でき、支援に必要な知

識やスキルを用いた在宅看護過程の展開を説明できることを目標とした。「在宅看護学概論」での学びを基盤に、「在宅看護学演習」では、医療機関や行政機関、訪問看護の立場において静岡市の地域包括ケアシステム推進に取り組む講師の活動事例から、地域包括ケアにおける多職種連携や看護実践について学ぶ構成とした。

「在宅看護学実習」は、訪問看護実習、在宅ケア実習の2部構成としている。訪問看護実習では、①在宅療養者・家族への療養生活支援（訪問看護事業所）、②臨床判断能力テスト（学内）、③医療機関において在宅復帰を予定する患者への多職種連携支援（清水厚生病院、静岡厚生病院、白萩病院）の内容とし、実習最終日に訪問看護事業所の指導者がオンラインで参加する成果発表会を行い、学びの共有を図った。在宅ケア実習では、重症心身障害児・者通所施設において、看護師・生活支援員のシャドーイングを中心とした

2日間の実習を行い、実習のまとめとして、通所サービス担当看護師が参加するカンファレンスを実施した。

看護学研究科では、博士後期課程1年1名は、共通科目及び専門科目を履修できた。また、第29回日本難病看護学会学術集会にて、研究課題について示説発表を行った。

<領域で行っている地域貢献活動>

富安眞理

- 1) 静岡市健康福祉審議会委員、認知症対策推進協議会会長として議会運営に参画した。
- 2) 日本看護科学学会誌、日本難病看護学会誌、日本在宅看護学会誌の査読を担当した。
- 3) 第29回日本難病看護学会学術集会（開催地：静岡市）大会長を担当した。

加納江理

- 1) 静岡県看護協会認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師、聖隷三方原病院認定看護管理者養成研修ファーストレベル講師を担当した。
- 2) 日本看護学会誌、日本看護学会学術集会の査読を担当した。
- 3) 浜松市介護認定審査会の認定審査員を担当した。
- 4) 第29回日本難病看護学会学術集会にて、企画委員、実行委員長を担当した。

榊みのり

- 1) 第69回日本透析医学会学術集会・総会の「日本腎不全看護学会・日本透析医学会合同企画シンポジウム_Successful aging/terminal stage を目指した腎不全看護」のシンポジストとして、高齢腎不全患者の腎代替療法選択に関する意思決定支援を発表した。
- 2) タイ国立コンケン大学看護学部交換留学生の見学実習への支援、および、同、学部

教員の視察における資料の調整を含む国際交流に貢献した。

山本祐子

- 1) 第 29 回日本難病看護学会学術集会にて、実行委員を担当した。
- 2) タイ国立コンケン大学看護学部教員の視察における国際交流に貢献した。

11) 国際看護学領域の活動

<教育活動>

国際看護学領域

国際看護学は、すべての人々の健康の維持・増進を目的に、地球規模での健康格差の背景を学び、国際保健分野における看護の役割とその実践を探究する学問である。本領域では、災害看護についても教育を担当しており、学生は国内外で発生する災害の種類、災害対策および疾患予防、災害時における看護の実際とその役割について学習している。あわせて、開発途上国や先進国における健康課題、在留外国人の健康問題、災害の事前対策および発生後の対応について、それぞれの国や地域の文化・宗教・言語等を考慮した看護の在り方を理解し、文化的感受性や文化的能力（cultural competence）の習得を目指した教育・実践活動を行っている。

2024 年度の教育的取り組みとしては、例年と同様に、国内外で活躍する国際保健・災害医療の実践者、教育者、研究者をゲスト講師として招聘し、「国際保健・災害看護論」「国際看護論」「災害看護セミナー」「発展看護実習」の授業（各 1～2 コマ）において講義を実施した。これにより、学生が国際保健や災害看護の最新の動向や実際について直接学ぶ機会を提供した。すべての講義では、ゲスト講義を含めて、学生主体の多様なアクティブラーニング手法を取り入れた授業運営を行った。また、Collaborative Online International Learning（COIL）型授業も例年通り継続し、計 5 回の国際協働型授業を実施した。

さらに、2024 年 5 月 12 日～24 日にかけて、本領域が主体となって、協定校であるコンケン大学看護学部（タイ）より 3 年次学生 3 名を交換留学生として受け入れた。実習指導および評価は、同大学の担当教員と連携を図りながら実施した（詳細は別資料「R6 国際保健看護実習」に記載）。

発展看護実習は、国内実習と国外実習に分けて実施した。国内実習では以下の活動を行った。

1. COIL 授業における英語でのプレゼンテーションおよびディスカッションへの積極的な参加
2. 外国人向け無料検診・健康相談会での支援活動

3. 神奈川県座間市の在日米軍キャンプ内クリニックにおける実習
4. 静岡県地震防災センターにて、防災士との連携による防災教育実習

<領域で行っている地域貢献活動>

2024 年度における国際交流活動として、以下の地域・国際貢献を実施した。

1. 2024 年 10 月 22 日～24 日、タイ・コンケン大学看護学部より成人看護学領域教員 10 名を受け入れ、視察プログラムの企画・運営および対応を担当した。
2. 2024 年 12 月 10 日オーストラリアアデレード大学医学部の研究者とアデレード大学柔道クラブのコーチたちによる、「ダイナミックバランスフォーライフ：転倒による外傷や障害を最小限にする取り組み」の特別講義開催、体験演習も行い、高齢者の転倒予防と外傷を最小限に防ぐために柔道の受け身の技術や筋力低下防止などに取り組むことの重要性を学ぶ機会を創った。
3. 静岡県庁が主催する「さくらサイエンスプログラム」の企画立案から実施（2024 年 12 月 16 日～20 日）までに関与し、インドネシアからの研修生 8 名（看護学部生、大学院生、若手教員）を本学部で受け入れた。
4. 2024 年 1 月 26 日から 31 日までベルギー王国のアルテベルデ応用科学大学で行われた緩和ケア・終末期ケアのワークショップにおいて日本における高齢者の看取りと緩和ケアについて発表を行った。
5. 2024 年 9 月 11 日 モンゴル国医科大学にてモンゴル国医科大学看護学部研究科国際看護研究科カンファレンスにおいて、竹熊カツマタ教授による招聘発表（健康寿命促進への取り組み・トランスレーショナル研究の発表を行った。
6. 本領域主催の「さくらサイエンスプログラム」も実施し、コンケン大学看護学部の若手教員および大学院生計 8 名を招聘した。
7. 2024 年 7 月に県立こども病院の看護管理者 2 名、小児看護学領域の教員 2 名の北米研修を実施、米国における小児医療、重症心身障害児につついの医療の現状、病院における看護管理・リーダーシップのトピックなどを研修する機会を創った。

これらの活動を通じて、国際的な学術交流の推進と多文化理解の深化に寄与するとともに、学生の国際的視野の育成にも貢献した。

2. 各教員の研究・教育・地域貢献活動

1) 研究活動

原著論文

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
井上健一郎	DTetramine in patients with myasthenia gravis. Intern Med 2025
堀 芽 久 美	「Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using cancer registry data in Japan: 1995-2015」、Ota M (39 人)、Cancer Sci、115(8)、2786-2794. 2024
	「Germline Pathogenic Variants and Clinical Outcomes in Asian Patients With Breast Cancer」、Kitadai R (9 人)、Cancer Sci、Published online、2025
加 藤 京 里	足浴の水深が足背皮膚温と心理的指標に及ぼす影響、木村春香、細川諄、加藤京里 (3 名)、医学と生物学、164 (2)、1-9、2024
成 瀬 早 苗	Organizational Factors Promoting Less Use of Restraints in Older Adults with Dementia in Acute Care Hospitals: A Scoping Review、牧野真弓・加藤真由美・成瀬早苗・吉江由加里・枝晃司、Japan Journal of Nursing Science 2024 年 9 月
近 藤 美 保	慢性統合失調症患者が化粧をやめた理由、近藤美保 (1 名)、看護教育研究会誌、16 (2)、
小 原 陽 子	Real-World Effectiveness and Predictors of Nurse-Led Individual Cognitive Behavioural Therapy for Mental Disorders: An Updated Pragmatic Retrospective Cohort Study, Naoki Yoshinaga 1,†,, Yoko Obara 2,†, Naohisa Kawano 3, Kazuki Kondo 4, Yuta Hayashi 5, Michikazu Nakai 6, Ryuichi-ro Takeda 7 and Hiroki Tanoue 1,*behaviral sciences,14,1-19,2024
小 泉 祐 貴	精神科看護師の患者に対する怒りの認識とその対処、小泉祐貴、日本精神保健看護学会誌、33 巻 2 号 Page59-69(2024.11)
栗田真由美	高齢者虐待の対応経験をもつ熟練保健師の実践知と養護者のリアクションから導き出された統合モデル、静岡県立大学学長賞、優秀賞 (2024 年 3 月)

総説（翻訳を含む）

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
山下早苗	文献に見る当事者の語りを用いた教育方法に関する検討, 糸川紅子・梅野華乃子・新田純子・青木和恵・山下早苗 (5 名), 看護科学研究, Vol.25, 40-50, 2025.

著書(翻訳を含む)

氏名	著者名、書名、発行所、発行年	単著・共著・編著・分担執筆の別	総頁数	執筆頁数
	なし			

教科書の執筆・作成

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年	単著・共著の別
鈴木千智	松田正己 (18 名)、標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動、医学書院、2023 年	共著
	木下由美子 (34 名)、エッセンシャル地域看護学、医歯薬出版、2024 年	共著

紀要

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
太田尚子	「天使の保護者ルカの会：分かち合いの場としての 20 年の足跡」、蛭田明子, 勝又里織, 濱津いよ, 石井慶子, 太田尚子, 星野浩一, 山本恭子, 堀内成子(8 名)、聖路加国際大学紀要、11、P111-116、2025 年

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
太田尚子	「妊娠期の妻を持つ夫同士で語り合う体験」、渡部紗季、太田尚子(2 名)、母性衛生、65 (4)、P609-617、2025 年

書評・報告書・編注等

氏名	タイトル、著者名(著者総数)、冊子名、巻、始頁と終頁、発行年
富安眞理	チームで創る学術集会と難病看護、富安眞理、日本難病看護学会誌、第 29 巻、第 1 号、1、2024.
	チームのパフォーマンスを高める難病看護、富安眞理、日本難病看護学会誌、第 29 巻、第 3 号、1、2024.
	第 29 回日本難病看護学会学術集会を振り返って、富安眞理、難病と在宅ケア、第 30 巻、第 8 号、15-18、2024.
鈴木和香子	サマーキャンプ参加での看護学生の学び：がんばれ共和国・しぞーかキャンプ、鈴木和香子、難病と在宅ケア 30 (10)、44-47
中川有加	「分娩期シミュレーションシナリオ」の作成と活用、中川有加(1 名)、助産雑誌、79 巻 1 号、50-55、2025
	全助協が取り組んできたシミュレーション教育、中川有加(1 名)、ウェブ機関誌「アドバンス助産師」、Vol.16、2、2025
加納江理	医療機関と訪問看護ステーションの連携による神経難病患者への在宅療養支援の実践報告、加納江理 (1 名)、難病と在宅ケア ((株) 日本プランニングセンター) 第 30 巻第 5 号 23-26、2024 年

会議録

氏名	論文題名、著者名(著者総数)、雑誌名、巻、始頁と終頁、発行年
	なし

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
荒井孝子	長期の経時的観察による正常者大脳白質病変に関わる影響因子の検討	International Conference on Graduate Students in Nursing and Midwifery”Conference programme	20 分	モンゴル国立医科大学	令和 6 年 9 月

特別講演・招待講演

氏名	講演のタイトル	学会の名称	講演時間	開催地	発表日
富安眞理	チームのパフォーマンスを高める難病看護	日本難病看護学会	30分	静岡市	令和6年8月
太田尚子	ペリネイタル・ロスのケアにおける尊厳 ～助産師の立場から～	第38回日本助産学会学術集会	20分	東京 (web)	令和6年10月
堀芽久美	地理情報システムによる訪問看護需要の可視化	日本難病看護学会学術集会	20分	静岡市	令和6年8月
加納江理	地域共生社会における難病療養者支援	第29回日本難病看護学会学術集会	25分	静岡市	令和6年8月

一般発表（口述・ポスター）

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
荒井孝子	モンゴル国における日本製導尿シミュレータを用いた看護技術教育の実践	第56回日本医学教育学会	東京	令和6年8月
林みよ子	脳卒中患者の家族への早期在宅移行に向けた看護実践に関する文献検討	第51回日本脳神経看護学会学術集会	福岡市	令和6年9月
山田紋子	成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討	USフォーラム2024	静岡市	令和6年10月
富安眞理	看護師の思考と臨床判断を培う臨地実習プログラムの検討	第29回日本難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
畑中純子	Investigative Survey of the Conscious Behaviors of Occupational Health Nurses in Interviews with Workers with Mental Health Problems in Japan	34th International Congress on Occupational Health	モロッコ	令和6年5月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
太田 尚子	静岡県における周産期喪失を経験した家族を支援するサポートグループの集い	第38回日本助産学会学術集会	東京 (web)	令和6年10月
鈴木和香子	実践報告：サマーキャンプ参加での看護学生の学び —難病の子ども支援全国ネットワーク「がんばれ共和国」—	第29回 難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
管原 清子	看護学部的女子大学生を対象にした体型認識に関するアンケート調査	日本看護医療学会	京都	令和6年9月
	看護学生の表情認知能力の実態とコミュニケーション・スキルとの関連	日本ヘルスコミュニケーション学会	神奈川	令和6年9月
前野真由美	「地域住民で外国人高齢者のケア・介護を考える」会の開催	日本国際保健医療学会第38回東日本地方会	かでる2・7 (北海道立道民活動センター)	令和6年7月
加納 江理	高校生・大学生参加のコミュニケーション支援研修会の実践報告	第29回日本難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
	「訪問看護のための難病看護事例検討ツール」を使った事例検討会の実践報告	第29回日本難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
福島 恭子	助産学課程在学学生・修了生・教員、開業助産師による協働事業の報告 - 「おやこ性教育講座」を実践して	第23回日本母子看護学会学術集会	東京都港区	令和6年7月
	骨盤臓器脱の保存療法に関する市民講座の実践報告	第65回日本母性衛生学会学術集会	宮崎市	令和6年10月
野津美香子	コロナ禍における看護大学生	日本看護科学	熊本	令和6年12月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
	の卒業時における看護技術の主観的な到達レベル ー単施設後ろ向き観察研究ー	学会		
伊藤 純子	プレ管理期保健師の統括的能力獲得に向けた管理の能力の内容と課題（第2報）ー人材育成に関する能力に焦点を当ててー	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	名古屋	令和7年1月
	ニュータウンの地域凝集性に関する定量的研究	日本公衆衛生学会第26回学術集会	札幌市	令和6年10月
三崎健太郎	含酸素多環芳香族炭化水素類による肺胞上皮細胞におけるアレルギー関連サイトカインの誘導	日本環境変異原ゲノム学会第53回大会	岡山市	令和6年11月
三沢 萌伽	視機能の維持と健康寿命の延伸を可能とする アイケアの確立 ～ICU入室患者におけるアイケアの文献レビュー～	US フォーラム 2024	静岡市	令和6年9月
中岡 正昭	わが国におけるフライトナースの活動と教育の実態	第31回 日本航空医療学会	沖縄	令和6年9月
長谷部美紀	壮年期の終末期がん療養者と家族のニーズと支援に関する文献検討	日本エンドオブライフケア学会	金沢市	令和6年10月
植田 春美	終末期高齢者の在宅での看取り支援に関する研究 ー静岡県における自宅死亡に関する	US フォーラム 2024	静岡市	令和6年9月
佐藤 理乃	陰部洗浄の文献検討	愛知排泄ケア研究会・第21回排泄ケア排泄機能指導研究会	愛知県	令和6年11月
宮澤 典子	高齢者の身体拘束に関する取り組みの国際比較	日本看護倫理学会	静岡	令和6年5月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
池田麻左子	「児の発達に合わせた退所支援」	日本家族看護学会 (JARFN) 国際交流企画	Web	令和7年2月
	祖父母による孫祖育てを支援する・孫育てカフェを開催して・	日本家族看護学会	神奈川県	令和6年9月
丸山始美	ターミナル期にある小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師が抱く倫理的苦悩の意味づけ	日本看護倫理学会第17回 学術集会	東京	令和6年6月
大和田裕美	助産所助産師との交流会 「Go to 産婆」の実施とその評価	US フォーラム 2024	静岡市	令和6年9月
	助産師外来における女性と助産師とのコミュニケーション——女性の気がかりに合わせた「助言」を作り上げる実践	ヘルスコミュニケーションウィーク 2024	横浜市	令和6年9月
	妊婦健診場面における道具と身体の関係の再発見 道具と身体—プラクティスの構造化の考察の精緻化—	日本質的心理学会第21回 大会	東京都世田谷区	令和6年10月
高橋明味	静岡県の母乳育児継続率が低い要因の検討	日本母性衛生学会	宮崎	令和6年10月
小泉祐貴	援助職者の怒りの感情について—精神科における虐待や暴力の予防のために—	いのちの教育学会	静岡	令和7年2月
佐藤浩一	医療観察法における対象者が物質依存に起因する治療プログラムの有効性に関する文献検討	いのちの教育学会	静岡	令和7年2月
榊みのり	日本腎不全看護学会・日本透析医学会 合同企画シンポジウム_Successful aging/terminal stage を目指した腎不全看護_高齢腎不全患者の腎代替療法	第69回日本透析医学会学術集会・総会	神奈川県横浜市 パシフィコ横	令和6年6月

氏名	発表タイトル	学会の名称	開催地	発表日
	選択に関する意思決定支援		浜	
山本 祐子	パーキンソン病患者における医療者と患者家族が行える便秘改善方法の検討	日本難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
	パーキンソン病療養者の意思決定に関する国内文献の検討	日本難病看護学会学術集会	静岡市	令和6年8月
	ケアハウスおよびサービス付き高齢者向け住宅における終末期ケアへの体制構築に向けた実態調査（第1報）	日本看護科学学会学術集会	熊本市	令和6年12月
	ケアハウスおよびサービス付き高齢者向け住宅における終末期ケアへの体制構築に向けた実態調査（第2報）	日本看護科学学会学術集会	熊本市	令和6年12月
栗田真由美	「わが事」として考えつながる!!ダブルケア等、複合的課題への支援	家族看護学会	横浜市	令和6年9月
	高齢者虐待を経験した養護者が安定した在宅生活の獲得に至るまでのトランジション	看護科学学会	熊本県	令和6年12月
	K市地域特性に応じた重層的支援体制整備プロジェクト第3弾～成功循環モデルからの介入考察～	看護科学学会	熊本県	令和6年12月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
山下 早苗	ターミナル期にある小児がんの子どもの意思決定を支援する看護師が抱く倫理的苦悩の意味づけ（口演）	日本看護倫理学会第17回年次大会	丸山始美, <u>山下早苗</u>	東京都	令和6年6月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	実習中の暴力に対する看護学生の対応 例：イラン、中国、日本	日本看護倫理学会第 17 回年次大会	宮内信治, 小西恵美子, 高橋梢子, 蔡小瑛, 廣瀬理恵 小野美喜, <u>山下早苗</u> , 前田樹海	東京都	令和 6 年 6 月
	編集委員会企画「事例報告・実践報告」 投稿のススメ（交流集会）	日本看護倫理学会第 17 回年次大会	山田聡子, 足立智孝, 田中美恵子, 八尋道子, 山内典子, <u>山下早苗</u>	東京都	令和 6 年 6 月
畑中純子	治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携支援の妥当性の検討	日本産業看護学会第 13 回学術集会	大森美穂	東京	令和 6 年 12 月
荒井孝子	骨盤臓器脱の保存療法に関する市民講座の実践報告	第 65 回日本母性衛生学会学術集会	福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音, 荒井孝子	宮崎	令和 6 年 10 月
林 みよ子	わが国のフライトナースの活動と教育の実態	第 31 回日本航空医療学会学術集会	中岡正昭, 林みよ子	那覇市	令和 6 年 11 月
	脳卒中患者の再発予防行動の変化と影響要因に関する文献検討	第 51 回日本脳神経看護学会学術集会	梶原聡子, 林みよ子	福岡市	令和 6 年 9 月
山田紋子	コロナ禍で基礎看護教育を受けた看護師	US フォーラム 2024	林みよ子, 山田紋子他	静岡市	令和 6 年 10 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	の卒後支援に関する研究				
	終末期高齢者の在宅での看取り支援に関する研究－静岡県における自宅死亡に関する研究－	US フォーラム 2024	植田春美, 山田紋子他	静岡市	令和 6 年 10 月
	これからの時代に求められる高機能シミュレータを用いた教育方法の検討	US フォーラム 2024	田中範佳, 山田紋子他	静岡市	令和 6 年 10 月
	壮年期がん療養者の男性配偶者に対する看取り期の訪問看護支援	US フォーラム 2024	長谷部美紀, 林みよ子, 山田紋子	静岡市	令和 6 年 10 月
	COVID-19 パンデミック下の医療機関と教育機関における看護過程に関する実態	第 44 回日本看護科学学会学術集会	黒田裕子, 古川秀敏, 福田和明, 山田紋子他	熊本市	令和 6 年 12 月
富 安 眞 理	パーキンソン病療養者の意思決定に関する国内文献の検討	第 29 回日本難病看護学会学術集会	田中貴大	静岡市	令和 6 年 8 月
	パーキンソン病患者における医療者と患者家族が行える便秘改善方法の検討	第 29 回日本難病看護学会学術集会	山本祐子	静岡市	令和 6 年 8 月
太 田 尚 子	Development of educational content on initial responses to consultations on prenatal testing.	The 2024 ISONG World Congress	Yuka Ozawa, Satoko Nakagomi, Rie Notomi, Hiruta Akiko, Naoko	San Diego, CA.	November 14-17, 2024

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
			Ota,Yaeko Kataoka		
	助産所助産師との交流会「Go to 産婆」の実施とその評価	US フォーラム 2024	大和田裕美、太田尚子、中川有加、永谷実穂、福島恭子、長屋和美	静岡市	令和6年9月
	ペリネイタル・ロスを経験した母親の家庭訪問におけるサポート・ニーズ	第65回日本母性衛生学会学術集会	中川寿恵、太田尚子、篁宗一	宮崎市	令和6月10月
	初めての育児休業に向けた父親の事前準備	第65回日本母性衛生学会学術集会	飯田理加、太田尚子、篁宗一	宮崎市	令和6月10月
	生殖補助医療によって妊娠した女性に対する妊娠初期の助産ケア	第65回日本母性衛生学会学術集会	瀧口莉佳子、太田尚子	宮崎市	令和6月10月
	静岡県の母乳育児継続率が低い要因の検討	第65回日本母性衛生学会学術集会	高橋明味、太田尚子、中川有加	宮崎市	令和6月10月
	周産期に子どもを亡くした女性が求める次の妊娠・出産における支援のニーズ	第44回日本看護科学学会学術集会	蛭田明子、石井慶子、堀内成子、太田尚子	熊本市	令和6年12月
	ペリネイタル・ロスを経験した母親の次子の妊娠・出産・育児における体験に関する文献検討	第36回静岡県母性衛生学会学術集会	佐野詩音、太田尚子	静岡市	令和7年2月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	妊娠期から出産後 1 年までにおける 児童虐待リスクのある女性を発見する視点	第 36 回静岡県母性衛生学会学術集会	鈴木真菜、太田尚子、藤田景子	静岡市	令和 7 年 2 月
	こども、子育てに優しいまちづくりの推進	令和 6 年度藤枝市地域政策研究成果報告会	片山歩美・藤本弥佳、藤村真登・渡邊佑晟、太田尚子・中川有加・永谷実穂・福島恭子・池田美音・高橋明味・長屋和美・大和田裕美、金田千依	藤枝市	令和 7 年 3 月
堀 芽 久 美	訪問看護分野における保健医療情報の標準化に向けた課題	第 25 回日本医療情報学会学術大会	逸見 治	福岡市	令和 6 年 11 月
加 藤 京 里	交流セッション_いま再び「温罨法」を考える	日本看護技術学会第 22 回学術集会	加藤木真史、加藤京里、栗田愛、酒井礼子、菅原啓太、田中美智子、塚越みどり、野月千春、丸山朱美、南山祥子	札幌市	令和 6 年 10 月
	ラベンダーアロマオイルを用いた手浴の身体的・心理的効果	日本看護技術学会第 22 回学術集会	土橋夏海、加藤京里	札幌市	令和 6 年 10 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	異なる体位における ハンドマッサージに よるリラックス効果	日本看護技 術学会第 22 回学術集会	鈴木麻紘, 加藤京里	札幌市	令和 6 年 10 月
	全国訪問看護ステー ションにおける看護 師が実施する摘便と 浣腸を含む排便ケア の実態調査	日本看護技 術学会第 22 回学術集会	栗田愛, 吉井紀子, 北側那美, 加藤木真史, 加藤京里, 菅原啓太, 吉田みつ子, 水戸優子, 香春知永, 大久保暢子	札幌市	令和 6 年 10 月
成瀬早苗	コロナ禍により臨地 実習経験の不十分で あった新人看護師の 看護実践—先輩看護 師の語りからの考察	第 44 回日本 看護科学学 会学術集会	山口みのり, 成瀬早苗, 服部美穂	熊本県	令和 6 年 12 月
	COVID-19 により臨 地実習から学内実習 への代替措置を経験 した新人看護師の語 り	第 35 回日本 医学看護学 教育学会	山口みのり, 成瀬早苗, 服部美穂	岡山県	令和 7 年 3 月
鈴木和香子	小児領域における難 病患者等介護家族リ フレッシュ事業の利 用状況と課題	第 29 回 難 病看護学会 学術集会	原との子	静岡市	令和 6 年 8 月
中川有加	母親が高校生の娘の 月経随伴症状に対処 する上で抱えている 困難	日本母性衛 生学会	西尾彩夏	宮崎市	令和 6 年 10 月
	静岡県の母乳育児継 続率が低い要因の検	日本母性衛 生学会	高橋明味	宮崎市	令和 6 年 10 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	討				
永谷実穂	初期流産をした母親に対するグリーフケアの現状と課題に関する文献調査	静岡県母性衛生学会	伊賀紀枝, 永谷実穂	静岡	令和7年 2月
鈴木千智	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）まん延期における面会制限に関する特別養護老人ホームと入居家族とのリスクコミュニケーションと行政からの支援	日本公衆衛生看護学会	小稲文, 山口忍, 鈴木千智, 道林千賀子, 長島朋子	名古屋市	令和7年 1月
加納江理	在宅パーキンソン病療養者の生活困難感についての文献検討	第29回日本難病看護学会学術集会	永田真那, 加納江理	静岡市	令和6年 8月
	看護師の思考と臨床判断を培う臨地実習プログラムの検討ーパーキンソン病友の会主催 卓球大会への参加を通してー	第29回日本難病看護学会学術集会	富安眞理, 三浦朱香, 加納江理	静岡市	令和6年 8月
福島 恭子	静岡県における周産期喪失を経験した家族を支援するサポートグループの集い	第38回日本助産学会学術集会	太田尚子, 大和田裕美, 長屋和美, 中川寿恵	東京都渋谷区	令和6年 10月
近藤美保	ポスター発表・薬物・アルコール依存症患者の看護実践を通じて生じる看護師の思いに関する文献検討	日本いのちの教育学会	伊藤智弘	静岡	令和7年 2月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
伊藤 純子	プレ管理期保健師の統括的能力獲得に向けた管理の能力の内容と課題（第1報）－管理期保健師に向けたの能力に関わるキャリアラダーを活用して－	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	杉山真澄	名古屋	令和7年1月
	高専生と共同したコミュニケーションを学習するデバイス（ふたりんごと）の開発	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	高橋佐和子	名古屋	令和6年10月
	工学系高専生と協働した性教育アプリ開発のためのアイデア創出ワークショップ	日本地域看護学会第27回学術集会	高橋佐和子	仙台市	令和6年6月
	A 市立中学校3校の性に関する認識と規範意識	日本公衆衛生学会第26回学術集会	高橋佐和子	札幌市	令和6年10月
三崎健太郎	ラテックスナノ粒子の肺気腫病態への増悪効果	日本アレルギー学会東海地方会第5回大会	平井勇太, 堀田愉奏, 高野裕久, 井上健一郎	名古屋市	令和7年3月
植田 春美	成人看護学領域におけるがん看護学に関する教育プログラムの検討	US フォーラム 2024	山田紋子, 林みよ子, 前野真由美, 鈴木郁美, 中岡正昭, 長谷部美紀, 植田春美	静岡市	令和6年9月
池田麻左子	児の成長発達に合わせた退院支援	日本家族看護学会国際交流委員会	池田麻左子, 渡邊さやか, 佐藤律子	Web 開催	令和7年2月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
		Small group			
丸 山 始 美	看護職者を対象とするナラティブ分析を用いた文献に関する検討	日本ヒューマンヘルスケア学会第7回学術集会	糸川紅子, 高橋梢子, 丸山始美, 梅野華乃子	島根	令和6年 11月
大和田裕美	助産学課程在学生・修了生・教員、開業助産師による協働事業の報告-「おやこ性教育講座」を実践して-	第23回日本母子看護学会学術集会	福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音	東京都港区	令和6年 7月
	祖父母による孫育てを支援する-孫育てカフェを開催して-	日本家族看護学会第31回学術集会	池田麻左子, 大和田裕美	鎌倉市	令和6年 9月
	静岡県における周産期喪失を経験した家族を支援するサポートグループの集い	第38回日本助産学会学術集会	太田尚子, 福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 中川寿恵	Web	令和6年 10月
	骨盤臓器脱の保存療法に関する市民講座の実践報告	第65回日本母性衛生学会学術集会	福島恭子, 荒井孝子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音	宮崎市	令和6年 10月
長 屋 和 美	助産学課程在学生・修了生・教員、開業助産師による共同事業の報告	第23回日本母子看護学会学術集会	福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音	東京	令和6年 7月
	骨盤臓器脱の保存療法に関する市民講座	第65回日本母性衛生学	福島恭子, 荒井孝子,	宮崎	令和6年 10月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	の実践報告	会学術集会	大和田裕美, 長屋和美		
	静岡県における周産期喪失を経験した 家族を支援するサポートグループの集い	第 38 回日本助産学会学術集会	太田尚子, 福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 中川寿恵	Web	令和 6 年 10 月
池 田 美 音	助産学課程在学学生・修了生・教員、開業助産師による協働事業の報告ー「おやこ性教育講座」ーを実践して	第 23 回日本母子看護学会学術集会	福島恭子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音	東京都港区	令和 6 年 7 月
	骨盤臓器脱の保存療法に関する市民講座の実践報告	第 65 回日本母性衛生学会総会・学術集会	福島恭子, 荒井孝子, 大和田裕美, 長屋和美, 池田美音	宮崎県宮崎市	令和 6 年 10 月
山 本 祐 子	パーキンソン病患者における医療者と患者家族が行える便秘改善方法の検討	日本難病看護学会学術集会	山本祐子, 鳴瀬善久, 田中貴大, 富安真理	静岡市	令和 6 年 8 月
	パーキンソン病療養者の意思決定に関する国内文献の検討	日本難病看護学会学術集会	長尾匡子, 西田頼子, 竹中泉, 山本祐子	静岡市	令和 6 年 8 月
	ケアハウスおよびサービス付き高齢者向け住宅における終末期ケアへの体制構築に向けた実態調査（第 1 報）	日本看護科学学会学術集会	長尾匡子, 西田頼子 竹中泉, 山本祐子	熊本市	令和 6 年 12 月

共同演者

氏名	講演・発表タイトル	学会の名称	演者名	開催地	発表日
	ケアハウスおよびサービス付き高齢者住宅における終末期ケアへの体制構築に向けた実態調査（第2報）	日本看護科学学会 学術集会	西田頼子, 長尾匡子, 竹中泉, 山本祐子	熊本市	令和6年 12月
栗田真由美	看護基礎教育におけるダブルケアラー支援の教育	日本家族看護学会	若松千尋, 寺田由紀子, 真溪淳子, 栗田真由美, 伊藤佳美, 生天目禎子, 荒牧順子, 渋谷郁恵,	仙台市	令和6年 6月
	従来の支援体制の枠を超えた地域共生社会への実現に向けた、看護専門職としての限界突破	看護科学学会	荒巻順子, 栗田真由美, 寺田由紀子, 吉岡清美,	熊本県	令和6年 12月

受賞

氏名	賞名	団体名
篁 宗一	藤枝市地域政策研究・創造事業敢闘賞	藤枝市
母性看護学・助産学 領域	藤枝市地域政策研究・創造事業敢闘賞	藤枝市

2) 外部資金受け入れ

外部資金：(A)文部科学省科学研究費、(B)他の省庁、地方公共団体研究費、
(C)財団研究費、(D)受託又は委託研究費、(E)奨学寄付金

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
山下 早苗	(A)	基盤研究 C	小児を対象とする看護師 への看護倫理教育プログラムの開発	令和 6		代表
	(A)	基盤研究 C	重症心身障がい児の看護 ケアに伴う生体反応を非 接触で測定できるデバイ スの開発	令和 6	800	分担
	(A)	基盤研究 C	ターミナル期にある小児 がんの子どもを対象とす る看護師の道徳的レジリ エンス	令和 6	800	分担
篁 宗一	(A)	文部科学省 科学研究費 基盤 B	SNS を活用した大学生の メンタルヘルス・リテラ シー促進および支援プロ グラムの開発	令和 6	1,400	代表
	(A)	文部科学省 科学研究費 基盤 C	看護系大学教員のワー ク・エンゲイジメントを 高める職場環境改善への アプローチ	令和 6	50	分担
	(A)	文部科学省 科学研究費 基盤 C	地域で暮らす精神疾患の ある女性患者を対象とし た化粧支援アプリの開発	令和 6	50	分担
	(B)	藤枝市地域 政策研究・ 創造事業助 成金	ネットの適正な使い方を 推奨する学校教育プログ ラムの作成と普及	令和 6	500	代表
井上健一郎		文科省科研 費(基盤研究 C)	12 粒子状物質による肺気 腫悪化と機構の相違 一粒 子の動態と生体応答の関 連に着目してー	令和 6	900	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
		CREST	環境中微粒子の体内、細胞内動態、生体・免疫応答機序の解明と外因的、内因的健康影響決定要因、分子の同定	令和 6	1,040	分担
林 みよ子	(A)	基盤研究 C	若手看護師の脳血管疾患患者に対する早期在宅移行支援実践力育成に関する介入研究	令和 6	1,430	代表
富 安 眞 理	(A)	基盤研究 C	パーキンソン病療養者中心の統合ケアにおける訪問看護の有効性に関する分析的観察研究	令和 6	520	代表
	(A)	基盤研究 C	地域特性に応じた訪問看護事業所におけるアウトカムマネジメントモデルの開発	令和 6	390	分担
	(A)	研究成果公開促進費	第 29 回日本難病看護学会学術集会-「チームのパフォーマンスを高める難病看護の可視化」公開シンポジウム-	令和 6	1,100	分担
	(B)	在宅医療助成勇美財団	第 29 回日本難病看護学会学術集会-「チームのパフォーマンスを高める難病看護の可視化」市民公開講座-	令和 6	400,00	代表
	(B)	田辺三菱製薬医学教育助成	ALS 等神経難病療養向上のための平時からの災害支援ネットワーク形成	令和 6	1,000	分担
	(B)	静岡市	令和 6 年度介護サービス生産性向上のための ICT 導入支援事業	令和 6	500	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
太田 尚子	(A)	基盤研究 (C)	悲嘆作業と新しい命を迎えるチャレンジー周産期喪失後の2つの課題への適応支援	令和 6	延長	分担
	(B)	藤枝市地域 政策研究・ 創造事業助 成金	未来につながる女性とこども・家族の健康支援	令和 6	231	
堀 芽久美		基盤研究 (C)	リプロダクティブ要因の変動に基づく乳がん・卵巣がんの動向予測	令和 6	390	代表
		基盤研究 (C)	がん関連症状へのケアに関する科学的根拠に基づいた実戦の促進プログラムの開発	令和 6	22	分担
		基盤研究 (C)	新型コロナウイルス感染症の呼吸状態を遠隔測定できるデバイスの開発と有用性の検討	令和 6	0	分担
		基盤研究 (C)	新型コロナウイルス感染症による地域健康格差の解析	令和 6	0	分担
		基盤研究 (C)	慢性期脳卒中患者の睡眠中の呼吸状態を把握できるセンサの開発と看護ケアの検討	令和 6	0	分担
		厚生労働科 学研究費補 助金:がん対 策推進総合 研究事業	がん対策の年齢調整死亡率・罹患率に及ぼす影響に関する研究	令和 6	12,000	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
		厚生労働科学研究費補助金：がん対策推進総合研究事業	国際比較可能ながん登録データの精度管理および他の統計を併用したがん対策への効果的活用の研究	令和6	14,950	分担
		国立がん研究センター研究開発費	2021-A-20 がんの地理情報の総合的活用に関する研究	令和6	10,800	分担
加藤京里	(A)	基盤研究(C)	三叉神経領域の Facial Cooling による慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難感の軽減	令和6	900	代表
	(A)	基盤研究(C)	浣腸と排便を含む安全な排便ケア実施にむけた長期目標統合型訪問看護実践モデルの構築	令和6	30	分担
	(A)	基盤研究(C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	令和6	1,252	代表
	(A)	基盤研究(C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	令和6	10	分担
	(A)	基盤研究(C)	高齢女性の認知機能を高めるための運動方法の確立：座位行動時間の短縮を目指して	令和6	30	分担
	(A)	基盤研究(C)	2週間の排便日誌から排便パターンを分類する新しい看護アセスメント方法の確立	令和6	61	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
	(B)	日本看護技術学会助成	腰部温罨法の実施間隔・期間の違いによる便秘症状への効果：3群ランダム化比較試験	令和6	299	分担
成瀬早苗		基盤研究 (C) 一般	Cynefin フレームワークを基盤とした専門職連携総合教育プログラムの構築	令和4～7	3,380	分担
		基盤研究 (C) 一般	COVID-19 感染拡大により臨地実習経験が不足した新人看護師の看護実践能力と教育の検討	令和5～9	3,400	分担
鈴木和香子	科研費	基盤研究 (C)	重症心身障がい児のリフレクソロジー効果の検討 —幼児を対象として—	令和2～	550	分担
中川有加	(B)	藤枝市地域政策研究・創造事業助成金	未来につながる女性と子ども・家族の健康支援	令和6	307	分担
永谷実穂		若手研究	就労更年期女性への認知行動療法を取り入れた健康教育プログラムの開発	令和6	1,453	代表
		基盤研究 (C)	地域で暮らす精神疾患のある女性患者を対象とした化粧支援アプリの開発	令和6	10	分担
管原清子		基盤研究 (C)	高齢者介護施設における薬剤耐性菌伝搬予防のための教育プログラムの開発	令和6	650	代表
		基盤研究 (C)	慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難に対する Facial Cooling の効果	令和6	1,040	分担

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
		基盤研究 (C)	高齢女性の認知機能を高めるための運動方法の確立ー座位行動時間の短縮を目指してー	令和 6	650	分担
福島 恭子	(B)	藤枝市地域政策研究・創造事業助成金	未来につながる女性と子ども・家族の健康支援	令和 6	167	分担
佐藤 瑠美		基盤研究 (C)	コロナ禍の日本における女性の自死の社会的要因	令和 6	400	代表
近藤 美保	(A)	文部科学省 科学研究費 B	高校生のメンタルヘルスリテラシー教育の開発と効果評価	令和 6	10	分担
	(A)	文部科学省 科学研究費 C	地域で暮らす精神疾患のある助成患者を対象とした化粧支援アプリの開発	令和 6	880,00	代表
伊藤 純子	(A)	文科省科研費基盤研究 C	ニュータウン住民の互助を促進する地区組織・住民組織活動モデルの開発	令和 6	600	代表
	(A)	文科省科研費基盤研究 C	性に関する自己決定スキル習得を支援する AI 活用型シミュレーション教材の開発	令和 6	100	分担
	(B)	令和 6 年度 全国保健師 長会調査研 究事業	プレ管理期保健師の統括的能力育成を目指した研修プログラムの開発と実践	令和 6	700	分担
三沢 萌伽	(A)	基盤研究 (C)	三叉神経領域の Facial Cooling による慢性呼吸器疾患患者の呼吸困難感の軽減	令和 6	1,040	分担
中岡 正昭		基盤研究 (C)	新型コロナウイルス 感染症の呼吸状態を遠隔測定	令和 6	2,860	代表

氏名	外部資金の種類		研究課題名	年度	受領総額 単位:千円	代表 分担 の別
			できるデバイスの開発と 有用性の検討			
池田麻左子	科 研	基盤研究 (C)	重症心身障がい児の看護 ケアに伴う生体反応を非 接触で測定できるデバイ スの開発	令和 6	84	代表
丸 山 始 美	(A)	基盤研究 (C)	ターミナル期にある小児 がんの子どもを対象とす る看護師の道徳的レジリ エンス	令和 6	800	代表
大和田裕美	(A)	若手研究	助産ケアにおける女性と 助産師との相互行為に関 する研究	令和 6	583	代表
	(B)	藤枝市地域 政策研究・創 造事業助成 金	未来につながる女性とこ ども・家族の健康支援	令和 6	231	代表
長 屋 和 美	(B)	藤 枝 市 地 域 政策研究・創 造 事 業 助 成 金	未来につながる女性とこ ども・家族の健康支援	令和 6	167	分担
榑 み の り	(B)	日本透析医 会 公募研究 助成金	高齢腎不全患者の腎代替 療法選択に関わる看護師 の意思決定支援実践評価 尺度の開発	令和 6	508	代表

3) 令和6年度学部研究推進費等

令和6年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	研究分担者の氏名
山下 早苗	小児専門病院で働く看護師の自律性を育成する教育プログラムの開発に向けた国内・国外の病院視察調査	333	内藤美樹, 伊藤綾野, 福岡元美
篁 宗一	ストレス緩和を目的としたアグリヒーリングプログラム開発と予防	646	近藤美保 長澤利枝
荒井 孝子	慢性腎臓病（CKD）の進展に関わる因子の重みづけスケールの作成と有用性の検討		東野定律, 天野隆弘, 武田英孝, 竹中恒夫, 池田俊也
	モンゴル国女性の子宮脱を改善するために必要な人材としてのドゥーラの役割に関する調査		竹熊カツマタ麻子, 福島恭子, 堀芽久美, Ganchimeg Togoobaatar, TSETSEGMAA Parchaa
富安 眞理	研究集会助成 A 第29回日本難病看護学会学術集会・「チームのパフォーマンスを高める難病看護の可視化」	193	加納江理, 木村綾, 池田麻左子
	独創・先進的研究（区分3A）難病療養者を対象とした災害支援における訪問看護の有効性に関する分析的観察研究	285	木村綾, 堀芽久美, 田中貴大
林 みよ子	高機能シミュレータを用いた臨床判断能力教育の効果	249	山田紋子, 前野真由美, 鈴木郁美, 中岡正昭, 星有紀, 長谷部美紀, 植田春美

令和 6 年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	研究分担者の氏名
太 田 尚 子	ペリネイタル・ロスで子どもを亡くした母親に対して看護者とピアサポーターとのペアで家庭訪問をすることの評価（継続）	143	大和田裕美、長屋和美
	ふじの国周産期喪失サポート・グループネットワーク	163	大和田裕美、長屋和美、鈴木紗衣
加 藤 京 里	看護ケアにおける看護師の前腕の汚染に関する実験的検証	318	管原清子、 三沢萌伽
永 谷 実 穂	地域における更年期女性の健康に関する意識の現状と健康支援の検討	555	永谷幸子、 管原清子、 近藤美保
		185	永谷幸子、 管原清子、 近藤美保
管 原 清 子	静岡県における地域在住高齢者のフレイルの実態とフレイル予防活動の効果	555	加藤京里、 三沢萌伽、 成瀬早苗、 堀芽久美、 串田修、 永谷幸子
福 島 恭 子	災害時の包括的妊産婦支援体制構築のための基礎研究	185	東野定律、 池田美音、 山田貴代
野津美香子	Covid-19 のパンデミックにおける看護系大学生の卒業時における看護技術の到達レベル―単施設後向き観察研究―	195	西岡笑子、 酒井太一、 高桑優子
三崎健太郎	大気環境中有機・粒子成分による遺伝子シグナルを介した毒性発現	267	高野裕久、 井上健一郎、 高村岳樹
三 沢 萌 伽	視機能の維持と健康寿命の延伸を可能とするアイケアの確立	411	なし

令和 6 年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	研究分担者の氏名
浅 原 久 恵	胸部露出を伴う基礎看護技術演習に対する看護学生の評価	195	加藤京里, 管原清子
中 岡 正 昭	静岡県におけるプライマリケア施設までの道路距離と脳卒中による死亡率との相関関係	334	井上健一郎, 堀 芽久美
鈴 木 郁 美	次世代を担う人材育成を目指した看護学教育 DX プログラムの検討	261	林みよ子, 山田紋子, 前野真由美, 中岡正昭, 長谷部美紀, 植田春美, 星有紀
佐 藤 理 乃	熟練看護師による災害時に備えた自己導尿指導の実態：教育観の内容分析	257	青木芳隆, 鈴木基文, 若松ひろ子, 西井久枝, 成瀬早苗
池田麻左子	孫育てをするシニア世代の交流の場- じじ・ばばカフェ（仮） -	262	代表
	米国の小児専門病院の視察における国際交流に関する研究－米国の小児看護に関わる医療者との交流によって重症心身障がい児看護の質の向上に貢献する-	257	代表
丸 山 始 美	米国の小児専門病院の視察における小児がん看護に携わる医療者との国際交流	257	なし
大和田裕美	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響－他施設で出産する女性に焦点を当てて－	185	太田尚子, 中川有加, 永谷実穂, 池田美音, 長屋和美

令和 6 年度教員特別研究推進費

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千円)	研究分担者の氏名
	肯定的な妊娠出産育児経験のための 女性と助産師とのコミュニケーションに関する研究	92	
長 屋 和 美	医療的ケアが必要な未就学の子ども をもつ母親を対象としたオンライン 交流会の満足度調査	194	鈴木和香子, 福島恭子
池 田 美 音	開業助産師が考える「待つお産」のと らえ方	251	太田尚子, 大和田裕美
高 橋 明 味	出産後地域で生活する 2 週間の間に 初産婦が抱く不安の実態	199	太田尚子, 中川有加
小 泉 祐 貴	精神科看護師の患者に対する怒りの 感情に関する研究 その 2	186	篁 宗一
佐 藤 浩 一	医療観察法小規模病棟における、触法 精神障がい者に対する良質な看護実 践への提案	264	篁 宗一, 小泉祐貴
藤田登志美	児童相談所の新任保健師に対する教 育に関する研究	18.9	なし

令和 4 年度 COC 事業地域を志向した研究

氏名	テーマ	受領総額 (単位：千 円)	代表分 担の別
前野真由 美	地域づくりと健康、外国人住民参加：「外国人の暮 らしの中のケア ライフと健康」会の開催	160	分担
管原清子	COC 地域を志向した研究：世代間交流型フレイル 予防プログラムの作成と評価	116	代表

国内共同研究の状況

氏名	年度 (研究 期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
篁 宗一	令和6年度	独居高齢者の幸福と居場所の関連	濱口惣則（静岡県立看護専門学校）	データ分析
	令和6年度	医療観察法病棟の看護の質	市川貴之（島田市立看護専門学校）	データ分析
太田尚子	令和6年度	周産期緩和ケアの実装に向けた基礎的研究：先進施設におけるケアの現状と課題	千葉真希（武庫川女子大学）	
中川有加	令和4～7年度 (3年間)	搾乳技術習得のためのシステム構築に向けた調査・経験年数による搾乳技術の相違—	長田知恵子（帝京科学大学）	研究分担者
鈴木千智	令和6年度	コロナ禍における特別養護老人ホームの入居家族とのリスクコミュニケーション	山口忍（茨城県立医療大学）、道林千賀子（岐阜医療科学大学）、小稲文（国際医療福祉大学）	インタビュー結果の分析および分析結果の考察
三崎健太郎	平成23年度～	AhRを介した多環芳香族化合物の毒性に対する評価研究	高村岳樹（神奈川工科大学）	PACs による毒性パターン評価
	令和4年度～	ナノ粒子とPM2.5の体内、細胞内動態、生体・免疫応答機序の解明	井上健一郎（静岡県立大学）	細胞内シグナル解析
藤田登志美	令和6～8年度	結核対策業務における保健所保健師の活動状況調査	結核研究所	研究責任者

海外共同研究の状況

氏名	年度 (研究 期間)	研究テーマ	共同研究者 (所属)	役割
宮澤典子	令和6～7年度	Critical care nursing in Thailand and Japan; An integrative review	Kong Kean University	リサーチャー

4) 海外研修活動

氏名	事業の名称または目的	研修期間（日数）	研修先
篁 宗 一	韓国		
荒 井 孝 子	教員特別研究費：モンゴル国女性の子宮脱を改善するために必要な人材としてのドクターの役割に関する調査	9 日	モンゴル国：モンゴル国立医科大学
池 田 麻 左 子	国際共同研究推進 「米国の小児専門病院の視察における国際交流」	10 日	北米の病院・施設・大学等
丸 山 始 美	2024 年度 静岡県立大学看護学部 北米研修：聖アンソニー看護大学（イリノイ州）、UW Health American Family Children's Hospital（ウィスコンシン州）等の視察と看護教員や臨床看護師との国際交流	8 日	アメリカ（北米）
梁 川 明	国際共同研究推進のためのコンケン大学看護学部との交流	5 日	タイ国コンケン大学

5) その他特記事項

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
篁 宗 一	「大学生を対象としたメンタルヘルスリテラシー教育プログラムの開発」研究を内部資金を獲得して行った（主担当）	平成 28 年～ 令和 7 年	
	「看護学生の化粧行動とメンタルヘルスの関連」と「精神科医療施設における地震災害対策上の工夫と課題」研究を内部資金を獲得して行った（副担当）	平成 28 年～ 令和 7 年	
	日社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験作問	令和 5 年～ 令和 7 年	
	【日本いのちの教育学会】会報「いのちの知（No.3）」・大会まとめ	令和 7 年 3 月	
	東京大学精神衛生・看護学教室 同窓会ニュースレター	令和 7 年 1 月	
荒 井 孝 子	看護師特定行為研修 厚生労働省への変更申請	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
	看護師特定行為研修 厚生労働省への予算申請、執行、報告書作成	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
	教育訓練給付制度（特定一般教育訓練）の処理	令和 6 年 12 月	
	特定行為研修入講に関する依頼・宣伝活動	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
富 安 眞 理	第 29 回日本難病看護学会学術集会企画委員会	令和 6 年 4 月～ 9 月	
成 瀬 早 苗	地域を志向した研究 世代間交流型フレイル予防プログラムの作成と評価	令和 6 年 8 月	
	静岡コホート袋井研究 ふくけん 調査	令和 6 年 12 月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
永谷実穂	妊娠期からの助産所助産師との交流が女性の妊娠・出産・子育てに与える影響―他施設で出産する女性に焦点を当てて―	令和6年4月～ 令和7年3月	特別研究分担者として参加
	藤枝市地域政策研究・創造事業「こども、子育てにやさしいまちづくり」	令和6年4月～ 令和7年3月	特別研究分担者として参加
宮澤典子	静岡県「ふじのくに」みらい教育センター地域貢献事業 「県大生と！学んで、動いて、今日から楽しくフレイル予防！」健康教育	令和6年4月～ 8月	
丸山始美	日本がん看護学会のSIG（小児・AYA世代がん看護）交流集会 「原点回帰！小児・AYA世代の声に耳を傾け対話をしよう-ACP普及の過程で直面する課題の解決に向けて-」企画協力員、SIGメンバー	令和6年2月	
	日本がん看護学会のSIG（小児・AYA世代がん看護）Aya week 「小児・AYA世代の声に耳を傾け対話しよう」SIGメンバー	令和7年3月	
大和田裕美	看護実践教育研究センター主催看護管理者のためのキャリア開発セミナー運営補助	令和6年6月、 8月	
	看護実践教育研究センター BLS プロバイダーコース開催補助	令和6年7月、 8月、令和7年2月、3月	
栗田真由美	日韓ダブルケアプロジェクト	令和7年2月	

VIII.学部・研究科としての社会貢献

1. 国・地方自治体における活動

氏名	従事先	従事する職名	任期
篁 宗 一	静岡市（精神保健福祉課）	静岡市自殺対策連絡協議会委員	令和4年4月～ 令和7年3月
	静岡福祉大学	非常勤講師「精神医学と精神医療 A」	令和4年5月～ 令和7年3月
	静岡市立清水看護専門学校	非常勤講師	平成30年4月～ 令和7年3月
	富士市立看護専門学校	非常勤講師「精神看護学総論（精神保健）」	令和5年5月～ 令和7年3月
	静岡福祉大学	非常勤講師「精神医学と精神医療 B」	令和5年10月～ 令和7年3月
	静岡市（こころの健康センター）	静岡市精神医療審査会、精神保健福祉委員	令和5年7月～ 令和7年3月
	日本学術振興会	特別研究員等審査会専門委員等	令和5年4月～ 令和7年3月
	公益社団法人日本看護協会	日本看護学会誌査読委員	令和5年3月～ 令和7年3月
畑 中 純 子	島田市	島田市健康づくり推進協議会副委員長	令和6年7月～ 令和8年3月
	静岡市	静岡市保健所運営協議会委員	令和5年7月～ 令和7年6月
荒 井 孝 子	国際医療福祉大学大学院	特定行為研修管理委員会外部委員	令和6年4月～ 令和7年3月
	静岡済生会総合病院	地域医療支援病院運営委員	令和6年4月～ 令和7年3月
林 み よ 子	公益社団法人静岡県看護協会	認定看護管理者教育課程・講師	令和6年5月， 10月
	静岡県立総合病院	看護研究研修・講師	令和6年4月～ 令和8年3月

氏名	従事先	従事する職名	任期
山 田 紋 子	静岡県立総合病院	静岡県立総合病院臨床研究倫理委員会 外部委員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	静岡県立総合病院	看護部倫理研究倫理審査会 外部委員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
富 安 眞 理	厚生労働省	東海北陸地方社会保険医療協議会委員	令和 4 年度～ 6 年度
	静岡市	健康福祉審議会委員	令和 6 年度～ 7 年度
	静岡市	認知症対策推進協議会委員	令和 5 年度～ 6 年度
	社会福祉法人小羊学園	つばさ静岡苦情解決委員会委員	令和 5 年度～ 6 年度
太 田 尚 子	茨城県立医療大学	非常勤講師「看護倫理」	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
堀 芽 久 美	静岡多目的コホート事業	客員研究員委嘱	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
成 瀬 早 苗	特別養護老人ホーム 久能の里	第三者委員	令和 4 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	静岡市役所	静岡市介護認定審査会委員	令和 4 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
鈴木 和 香 子	静岡市医療的ケア児等支援協議会	副会長	令和 4 年～
	静岡県発達障害者支援地域協議会	委員	令和 4 年度～
中 川 有 加	厚生労働省	保健師助産師看護師試験委員	令和 5 年 5 月～ 令和 7 年 4 月
	静岡市	男女共同参画審議会委員	令和 5 年 6 月～ 令和 7 年 6 月
永 谷 実 穂	焼津市	介護保険認定審査委員	令和 5 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
鈴 木 千 智	東都大学	非常勤講師	令和 6 年 10 月～ 令和 7 年 3 月
管 原 清 子	静岡市立静岡病院	地域医療支援員会 委員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月

氏名	従事先	従事する職名	任期
	静岡市立清水病院	地域医療支援委員会 委員	令和6年4月～ 令和7年3月
	静岡市立清水看護 専門学校	教育課程編成会議 委員	令和6年4月～ 令和7年3月
加 納 江 理	浜松市	介護認定審査会審査委員	令和4年4月～ 令和6年3月
佐 藤 瑠 美	静岡市	研修講師	令和6年度
伊 藤 純 子	三重県玉城町コミ ュニティのあり方 研究会	委員	令和6年4月～ 令和7年3月
近 藤 美 保	静岡市支援センタ ーみらい	運営委員	令和6年4月～ 令和7年3月
池 田 麻 左 子	静岡県立こども病 院	嘱託看護師	令和6年4月～ 令和7年3月
	岐阜県立看護大学 大学院	非常勤講師	令和6年4月～ 令和6年9月
小 泉 祐 貴	静岡県立看護専門 学校	非常勤講師	令和6年5月～ 令和6年6月
	静岡市立清水看護 学校	非常勤講師	令和6年5月～ 令和6年6月
	静岡福祉大学	非常勤講師	令和6年4月～ 令和7年3月
佐 藤 浩 一	静岡福祉大学	非常勤講師	令和6年4月～ 令和7年3月
栗 田 真 由 美	中央健康医療大学 校	非常勤講師	令和2年4月～
	静岡県	重層的相談支援体制構築事業 アドバイザー	令和3年4月～
藤 田 登 志 美	静岡県	精神医療審査会委員	令和6年4月～ 令和8年3月

2. 学会・職能団体等の役員・評議会・委員会活動

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
山下 早苗	日本看護倫理学会	代議員	令和5年6月～ 令和7年5月
	公立大学協会 看護・保健医療部会	部会長	令和5年4月～ 令和6年8月
篁 宗一	公益社団法人日本看護協会	日本看護学会誌査読委員	令和2年4月～ 令和7年2月
	日本学校メンタルヘルス学会	理事・評議員	令和2年4月～ 令和7年3月
	日本公衆衛生学会	査読委員	令和3年4月～ 令和7年3月
畑中 純子	日本産業看護学会	教育研究委榊みのり 員会委員長	令和6年4月～ 令和8年3月
	日本産業衛生学会	編集委員会委員	令和2年9月～ 令和7年2月
	静岡県保健師会	参与	令和2年4月～
井上 健一郎	日本臨床環境医学会	評議員	令和6年4月 令和7年3月
	日本エンドトキシン・自然免疫学研究会	理事	令和6年4月 令和7年3月
	日本 Schock 学会	評議員	令和6年4月 令和7年3月
荒井 孝子	第29回日本難病看護学会	委員	令和6年8月
林 みよ子	日本看護研究学会	評議員	令和6年6月～ 令和10年
	日本看護研究学会	実践研究活動推進 ワーキング	令和6年11月～
	日本脳神経看護学会	第53回学術集会企画委員	令和7年2月～ 令和8年10月
	日本クリティカルケア看護学会	専任査読委員	令和3年6月～ 令和7年
	日本クリティカルケア看護学会	編集委員（副委員長）	令和5年7月～ 令和7年

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
	日本救急看護学会	評議員	令和 5 年 11 月～ 令和 9 年
	日本赤十字看護学会	専任査読委員	令和 4 年 5 月～ 7 年 4 月
	看護科学研究	査読委員	令和 5 年 5 月～
山 田 紋 子	日本看護診断学会	評議員、 編集委員、 専任査読委員	令和 4 年 7 月～ 令和 7 年 7 月
富 安 眞 理	日本難病看護学会	専任査読委員	令和 4 年 12 月～ 令和 7 年 9 月
	日本看護科学学会	和文専任査読委員	令和 5 年 10 月～ 令和 7 年 9 月
太 田 尚 子	一般社団法人 日本助産学会	専任査読委員	令和 5 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	一般社団法人 日本助産学会	代議員	令和 6 年 6 月～ 令和 8 年 6 月
	静岡県母性衛生学会	理事	令和 4 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	公益社団法人 全国助産師教育協議会	理事	令和 5 年 6 月～ 令和 7 年 6 月
	日本ペリネイタル・ロス研究会	代表	平成 21 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	聖路加国際大学「天使の保護者ルカの会」	運営委員	平成 16 年 9 月～ 令和 7 年 3 月
加 藤 京 里	静岡県看護協会	学術研究推進委員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	一般社団法人日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会温罨法班	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
鈴 木 和 香 子	静岡県専任教員養成講習会運営委員会	委員	令和 2 年～
	HPS 国際シンポジウム	実行委員	令和元年～
	東海公衆衛生学会	実行委員	令和 4 年～
	リレー・フォー・ライフジャパン静岡 2024	実行委員	平成 24 年～

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
中 川 有 加	全国助産師教育協議会	将来構想委員会 委員	令和 5 年 8 月～ 令和 7 年 6 月
	公益社団法人桶谷母乳育児 推進協会	倫理審査委員会 委員 長	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	一般社団法人日本助産学会	日本助産学会 代議員	令和 6 年 6 月～ 令和 8 年 6 月
	一般社団法人日本助産学会	日本助産学会誌専 任査読委員	令和 5 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
	公益社団法人日本看護協会	日本看護学会誌査 読委員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月
永 谷 実 穂	一般社団法人 Fumi Horiguchi ウィメンズヘル ス研究所	幹事	令和 5 年 4 月～
鈴 木 千 智	日本健康福祉政策学会	編集委員	令和 5 年 4 月～ 令和 8 年 3 月
	日本看護倫理学会	代議員	令和 6 年 11 月～ 令和 8 年 5 月
前 野 真 由 美	外国人のための無料健康相 談と検診会	実行委員	令和 6 年 4 月～ 5 月
加 納 江 理	せいいい看護学会	評議員	令和 3 年 10 月～ 令和 7 年 10 月
	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	企画委員	令和 5 年 12 月～ 令和 6 年 10 月
福 島 恭 子	日本助産診断実践学会	理事	令和 6 年 4 月～ 令和 8 年 3 月
	日本災害看護学会	第 27 回年次大会実 行委員	令和 6 年 2 月～ 令和 8 年 3 月
佐 藤 瑠 美	社会デザイン学会	理事	令和 4 年度～ 令和 6 年度
伊 藤 純 子	東海公衆衛生学会	評議委員	令和 6 年 4 月～ 令和 8 年 3 月
中 岡 正 昭	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	実行委員	令和 6 年 8 月

氏名	学会・職能団体	役職名	任期
池田麻左子	日本重症心身障害学会	評議員	令和6年4月～ 令和7年3月
	日本難病看護学会第29回学術集会	企画委員・実行委員	令和6年8月～ 令和8年7月
	日本難病看護学会第29回学術集会	査読委員	令和6年5月～ 令和8年7月
	日本小児看護学会第36回学術集会	企画委員	令和6年8月～ 令和8年7月
	静岡県小児保健協会	幹事	令和6年4月～ 令和10年3月
丸山始美	日本小児看護学会第36回学術集会	企画委員	令和6年8月～ 令和8年7月
	日本看護倫理学会	選挙管理委員	令和6年12月～ 令和7年5月
榊みのり	日本腎不全看護学会	専任査読者	平成27年4月～ 令和7年8月
栗田真由美	静岡難病ケア市民ネットワーク	事務局	令和2年4月～
	中部 M-GTA 研究会	事務局	令和3年4月～
	医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体 DC NETWORK	委員	令和5年3月～
藤田登志美	静岡県看護協会	選挙管理委員	令和6年6月～ 令和7年

3. 学会・シンポジウム等の主催

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加 者人 数
篁 宗一	日本いのちの教育学会第26回研究大会	委員長/ 委員	令和7年2月	静岡市	70

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加 者人 数
荒 井 孝 子	第 29 回日本難病看護学会	委員	令和 6 年 8 月	静岡	
富 安 眞 理	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	大会長	令和 6 年 8 月	静岡市	800
太 田 尚 子	20 周年シンポジウム 天使 の保護者ルカの会「20 年の 歩みとこれから ～分かち 合いの輪を広げるために～」	委員	令和 6 年 9 月	東京	54
	第 38 回日本助産学会学術集 会 シンポジウム「ペリネイ タルロスの支援における尊 厳を多面的に考える」	委員	令和 6 年 10 月	東京 (Web)	
	第 36 回静岡県母性衛生学会 学術集会	委員	令和 7 年 2 月	静岡市	100
堀 芽 久 美	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	実行 委員	令和 6 年 8 月	静岡市	
加 藤 京 里	第 13 回静岡県看護学会	委員	令和 7 年 1 月	静岡市	394
前野真由美	静岡県立大学 地（知）の 拠点「外国人の暮らしの中 のケア ライフと健康」	代表者	令和 6 年 12 月	静岡市地 域福祉共 生センタ ー「みなく る」	28
鈴木和香子	（市）人工呼吸器に関する看 護師養成講習	主催	令和 6 年 8 月	静岡市	10
近 藤 美 保	日本いのちの教育学会	委員	令和 7 年 2 月	静岡	60
三崎健太郎	第 29 回日本難病看護学会	実行 委員	令和 6 年 8 月	静岡市	
大和田裕美	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	実行 委員	令和 6 年 8 月	静岡市	
長 屋 和 美	第 29 回日本難病看護学会学 術集会	委員	令和 6 年 8 月	静岡	
小 泉 祐 貴	第 29 回日本難病学会学術集 会	委員	令和 6 年 8 月	静岡	600

氏名	学会名	委員長/ 委員	開催日	開催地	参加 者人 数
	第 26 回いのちの教育学会研究大会	委員	令和 7 年 2 月	静岡	60
佐 藤 浩 一	第 26 回いのちの教育学会研究大会	委員	令和 7 年 2 月	静岡	60
山 本 祐 子	日本難病看護学会学術集会	委員	令和 6 年 8 月	静岡市	

4. 雑誌編集関連委員

氏名	雑誌名	役職名
山 下 早 苗	看護科学研究	委員
	日本看護倫理学会	委員
篁 宗 一	日本学校メンタルヘルス学会誌	委員
	いのちの教育学会誌	委員
畑 中 純 子	日本産業衛生学会誌	委員
井 上 健 一 郎	Journal of Environmental & Analytical Toxicology	委員
林 み よ 子	日本クリティカルケア看護学会誌	委員 (副委員長)
山 田 紋 子	看護診断(日本看護診断学会の学会誌)	委員
富 安 眞 理	日本在宅看護学会誌	編集委員
加 藤 京 里	生涯健康科学ジャーナル	委員
三 崎 健 太 郎	International Journal of Environmental Research and Public Health	Topical Advisory Panel member
池 田 麻 左 子	ナースタディ 小児看護 動画講義	監修

5. 雑誌の査読

氏名	雑誌名	本数
篁 宗 一	日本学校メンタルヘルス学会誌	2

氏名	雑誌名	本数
	日本公衆衛生学会学会誌	4
	日本看護協会	3
畑 中 純 子	日本産業看護学会誌	1
井 上 健 一 郎	Journal of Nanobiotechnology	1
	Scientific Reports	1
林 み よ 子	日本クリティカルケア看護学会誌	2
	日本赤十字看護学会誌	2
	日本看護研究学会学会誌	2
山 田 紋 子	看護診断(日本看護診断学会の学会誌)	1
富 安 眞 理	日本看護科学学会誌	3
	日本難病看護学会誌	1
	日本在宅看護学会誌	3
	第 29 回日本難病看護学会学術集会抄録	5
太 田 尚 子	日本助産学会誌	2
	第 38 回日本助産学会学術集会 演題抄録	5
堀 芽 久 美	Journal of Epidemiology	1
加 藤 京 里	生涯健康科学ジャーナル	1
成 瀬 早 苗	日本看護学会誌	1
鈴 木 和 香 子	日本看護学会誌	3
	生涯健康科学 journal	2
中 川 有 加	日本助産学会誌	2
	日本看護学会誌	2
加 納 江 理	日本看護学会誌	4
	第 54 回 (2023 年度) 日本看護学会学術集会抄録集	4
福 島 恭 子	日本母子看護学会誌	1
伊 藤 純 子	東海公衆衛生学会	1
三 崎 健 太 郎	Genes and Environment	1
大 和 田 裕 美	生涯健康ジャーナル	1

6. 専門領域の特別講演、セミナー講師、パネラー等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
山下 早苗	暮らしをつなぐための看護倫理研修 ―看護倫理綱領から読み解く―	静岡県看護協会	静岡県看護協会	令和6年7月
	静岡県看護学校の教員を対象にした看護倫理教育研修	静岡県看護協会	静岡県看護協会	令和6年8月
	看護研究研修	静岡県立こども病院	静岡県立こども病院	令和6年4～12月、令和7年1～3月
篁 宗一	コロナ後に急増するネット依存予防教育プログラムの実際	日本いのちの教育学会第26回研究大会大会長講演		令和7年2月
畑中 純子	産業看護の専門性とこれからの産業看護教育	日本産業看護学会第13回学術集会	東京	令和6年12月
	産業看護職としてのメンタルヘルス不調者支援	愛知産業保健総合支援センター	Web	令和7年1月
	新任期地域保健従事者現任研修	静岡県中部健康福祉センター	藤枝	令和6年11月、令和7年1月
林 みよ子	学会発表を学会誌投稿につなげるための大切なエッセンス～査読の視点から～	第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会	那覇市	令和6年6月
山田 紋子	効果的なプレゼンテーション技法	静岡県看護協会	静岡市	令和6年7月
	実習指導方法論：領域別実習指導(成人看護学)	静岡県看護協会	静岡市	令和6年9月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	看護のアセスメント力を高めよう	看護診断研究会	東京都	令和6年10月
富安真理	看護職のための看護研究セミナー	静岡県立大学 看護実践教育研究センター	静岡市	令和6年12月
太田尚子	天使の保護者ルカの会 20年の足跡	聖路加国際大学	東京	令和6年9月
	周産期に子どもを亡くした家族への切れ目のない支援	東京純心大学	八王子市（ハイブリッド）	令和6年12月
	周産期に子どもを亡くした家族へのグリーフケア	三重県子どもの育ち支援課	津市（Web）	令和7年1月
	ペリネイタル・ロスと意思決定支援	名古屋大学医学部附属病院	名古屋市	令和7年2月
鈴木和香子	保育所における感染症対策ガイドライン	富士市	富士市	令和6年9月
	小児訪問看護研修	静岡県訪問看護ステーション協会	浜松市	令和6年10月
	小児訪問看護研修	静岡県訪問看護ステーション協会	静岡市	令和6年11月
中川有加	はじめての看護研究・研究テーマを見つけよう！-	静岡県看護協会	静岡市	令和6年8月
	はじめての看護研究・研究テーマを見つけよう！-	静岡県看護協会	静岡市	令和6年10月
永谷実穂	オンライン実践研修会「更年期症状緩和のための認知行動療法」	更年期と加齢のヘルスケア学会	Web	令和6年8月
鈴木千智	市町村等保健師管理者能力育成研修	静岡県健康福祉部健康増進課	静岡市	令和6年7月～令和6年9月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程乳がん看護概論	静岡県立静岡がんセンター	駿東郡長泉町	令和 6 年 7 月
	地区活動とは	静岡市保健福祉長寿局健康福祉部	静岡市	令和 6 年 8 月
	看護倫理を教える・学ぶ	静岡県看護協会	静岡市	令和 6 年 8 月
	看護職として大切にしていることー物語で紐解く看護倫理ー第 2 回：応用編	静岡県立大学看護実践教育研究センター	静岡市	令和 6 年 11 月
	令和 6 年度富士地域新任期地域保健従業者研修会	静岡県富士保健福祉センター	富士市	令和 7 年 1 月
	保健師が行う情報収集・情報の蓄積・情報処理とは	静岡市保健福祉長寿局健康福祉部	静岡市	令和 7 年 1 月
	保健師になる	富士市地域保健課	富士市	令和 6 年 1 月
	日常業務で研究すること	静岡県富士保健福祉センター	富士市	令和 7 年 3 月
加 納 江 理	ヘルスケアシステム論	静岡県看護協会	静岡市	令和 6 年 6 月, 11 月
	ヘルスケアシステム論	聖隷三方原病院認定看護管理者教育	浜松市	令和 8 月
福 島 恭 子	「災害に強い産科クリニックづくり～事例と STEP で学ぶ産科クリニック BCP～」	(株) オオサキメディカル	オンラインセミナー	令和 6 年 8 月～ 9 月
佐 藤 瑠 美	「個」から「地域」へ広げる保健師活動	静岡市	静岡市城東保健福祉センター	令和 7 年 2 月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
伊 藤 純 子	保健師資質向上研修	静岡県保健師会	静岡市	令和 6 年 5 月
	南北関東地区研修会	静岡県助産師会	静岡市	令和 6 年 11 月
	兵庫県市町保健師協議会但馬第 2 回ブロック研修会	兵庫県但馬ブロック市町保健師協議会	兵庫県養父市	令和 6 年 11 月
	歯科衛生士新任期研修講師	愛知県	名古屋市	令和 6 年 12 月
	北播丹波ブロック市町保健師協議会第 3 回研修会	北播丹波ブロック市町保健師協議会	兵庫県丹波篠山市	令和 7 年 2 月
	幼稚園教諭対象組織づくり研修会	清水市立幼稚園協会	静岡市	令和 7 年 2 月
	ACP 導入研修	静岡県森町	静岡県森町	令和 7 年 3 月
中 岡 正 昭	看護師特定行為研修 (臨床病態生理、臨床推論、 疾病病態、医療安全特定行為、 フィジカルアセスメント、シ ミュレーション演習、超音波 演習、気管カニューレ交換演 習、OSCE)	看護学部附属看護実践教育研究センター	静岡	令和 6 年 4 月,6 月, 7 月,8 月
佐 藤 理 乃	愛知排泄ケア研究会・第 20 期排泄機能指導士養成講座・排泄ケアとスキンケア	愛知排泄ケア研究会	愛知県	令和 6 年 5 月
	愛知排泄ケア研究会・第 20 期排泄機能指導士養成講座・ポ ジショニング	愛知排泄ケア研究会	愛知県	令和 6 年 5 月
	愛知排泄ケア研究会・第 20 期排泄機能指導士養成講座・下部尿路機能の排尿自立支援指導講習会	愛知排泄ケア研究会	愛知県	令和 6 年 7 月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	第 16 回下部尿路症状の排尿ケア講習会	第 16 回下部尿路症状の排尿ケア講習会	東京都	令和 6 年 9 月
	排尿の自立を促すために必要な基本的な知識と技術を学ぶための研修会「介護と看護に役立つ高齢者排尿障害研修－排尿の自立を促すためにできること－」	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター	愛知県	令和 6 年 10 月
	愛知排泄ケア研究会 3・4 月 わかっているようでわからない？エコー（超音波）検査を極めよう！	愛知排泄ケア研究会	愛知県	令和 7 年 3 月
池田麻左子	小児看護援助論	岐阜県立看護大学大学院看護学研究科 CNS コース	岐阜	令和 5 年 4 月
	特定行為研修 地域在宅支援論「対象特性に応じた地域・在宅療養支援（重症心身障がい児・家族）」	静岡県立大学看護学部付属看護実践教研究センター	Web	令和 6 年 5 月
	特定行為研修共通科目合同演習	静岡県立大学看護学部付属看護実践教研究センター	静岡	令和 6 年 6 月
	特定行為研修 小児独自科目「在宅における子どもの成長発達支援論・在宅における重症心身障がい児の支援-」	静岡県立大学看護学部付属看護実践教研究センター	静岡	令和 6 年 7 月
	特定行為研修 小児独自科目「在宅における子どもの看護演習-在宅における医療的ケア児への特定看護師の役割-」	静岡県立大学看護学部付属看護実践教研究センター	静岡	令和 6 年 8 月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	静岡市静岡中央子育て講座 「あっ！ 危ない子どもの周りに潜む危険」	静岡市静岡中央 子育て支援セン ター	静岡	令和 6 年 8 月
	2024 年度第 1 回スキルアッ プ研修【医療依存度の高いこ どもと家族のコース】 集 合研修	一般社団法人 日本小児看護学 会	Web	令和 6 年 9 月
	第 49 回静岡県小児保健協会 学術集会 座長	静岡県小児保健 協会	静岡	令和 6 年 12 月
	静岡県在宅重症心身障害児者 対応多職種連携研修 ファシ リテーター	浜松市発達医療 総合福祉センタ ー	静岡	令和 6 年 12 月
	2024 年度第 2 回スキルアッ プ研修【医療依存度の高いこ どもと家族のコース】 集 合研修	一般社団法人日 本小児看護学会	Web	令和 7 年 1 月
大和田裕美	社会的ハイリスク妊産婦に対 する多職種連携を通じた切れ 目ない支援	静岡県中部健康 福祉センター	島田市	令和 7 年 2 月
栗田真由美	高齢者虐待対応力～虐待発見 機能向上とチーム力～	牧之原市	牧之原 市	令和 6 年 10 月
	高齢者虐待における支援者の 役割と対応	袋井市	袋井市	令和 6 年 11 月
	複合的課題を抱えた当事者へ の重層的支援体制を保健師と して考える	佐賀県	佐賀県	令和 6 年 11 月
	包括的な相談支援	静岡県	湖西市	令和 7 年 2 月
藤田登志美	新任期保健師研修	静岡市	静岡市	令和 6 年 7 月
	新人看護師のための「児童虐 待」基礎知識	株式会社 gene	名古屋 市	令和 6 年 8 月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
	PDCA サイクルに基づく個別支援の視点	静岡県熱海健康福祉センター	静岡県熱海総合庁舎	令和7年1月

7. 一般を対象とする講演（公開講座、公開実習）等

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
太田 尚子	「Go to 産婆 ～心が軽くなる！地域の助産師とおしゃべり会～」、企画・運営・ミニ講義講師「助産師とは？助産師になるには」	静岡市助産師会主催、静岡県立大学母性看護学・助産学領域共催	静岡市	令和6年6月
	子育てパパのおしゃべり交流会	静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域主催、静岡県立大学看護実践教育研究センター後援	藤枝市	令和6年9月
	アラフォーママの子育て&健康講座	静岡県立大学看護学部母性看護・助産学領域主催、静岡県立大学看護実践教育研究センター後援	藤枝市	令和6年11月
	「天使の保護者ルカの会」運営	聖路加国際大学	東京	令和6年4月, 令和6年6月, 令和6年7月, 令和6年8月, 令和6年10月令和7年3月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
加藤京里	第14回全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めようーエビデンスに基づく排便援助の技術ー」	日本看護技術学会	人間環境大学 大部キャンパス (愛知県)	令和6年12月
鈴木和香子	小児看護の基礎知識	伊豆の国市	伊豆の国市	令和6年11月
	ピアサポート研修 ロールプレイング	静岡県対がん協会	静岡市	令和6年12月
	子どもの応急手当	静岡市子育て支援センター	静岡市	令和7年1月
中川有加	SNSの子育て情報を科学的に説明する会	NPO法人だっことおんぶの研究所	静岡市	令和6年11月
永谷実穂	令和6年度女性のための健康講座「更年期を穏やかに過ごすポイント」	伊豆市健康長寿課	伊豆市	令和7年3月
前野真由美	静岡県の外国人高齢者はどこの国籍が多い？	静岡県立大学 地(知)の拠点「外国人の暮らしの中のケア ライフと健康」	静岡市地域福祉共生センター 「みなくる」	令和6年12月

氏名	講演等のタイトル	依頼団体名等	開催地	開催日
加納江理	“伝えたい”を叶える～目と目で伝わるこの思い～	聖隷クリストファー大学地域連携推進センター	浜松市	令和7年3月
福島 恭子	「災害時の避難・医療・生活」	静岡県立大学看護実践教育研究センター	静岡市	令和6年8月
伊藤 純子	認知症サポーターフォローアップ研修	三重県玉城町	三重県玉城町	令和7年3月
	健康づくり講演会	静岡県森町	静岡県森町	令和7年8月
鈴木 郁美	生活習慣を見直そう	静岡県立大学公開講座	静岡市	令和6年11月
植田 春美	外国人の暮らしの中のケアライフと健康 静岡県民はどこで最期を迎えているのか？	COC事業 外国人の暮らしの中のケア研究	静岡市	令和6年12月
高橋 明味	母乳育児について考えよう	特定非営利活動法人だっことおんぶの研究所	静岡市	令和6年11月

8. 一般向け教養書、新聞、雑誌への論評・解説

氏名	活動の種類と活動内容の説明	依頼団体	活動・公表・執筆日	掲載日	掲載場所
富安眞理	ボランティア学生の感想	全国パーキンソン病友の会静岡支部	令和7年1月	令和7年3月	広報誌ともしび

9. 新聞等メディアへの掲載・出演

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国 / 地方版	掲載・出演日
篁 宗 一	「日本いのちの教育学会の研究大会報告」	日本教育新聞	全国	令和 7 年 3 月
富 安 眞 理	第 29 回日本難病看護学会学術集会のご案内	難病と在宅ケア 5 月号	全国	令和 6 年 4 月
	第 29 回日本難病看護学会学術集会のご案内	難病と在宅ケア 6 月号	全国	令和 6 年 5 月
	第 29 回日本難病看護学会学術集会のご案内	日本難病看護学会誌	全国	令和 6 年 6 月
	第 29 回日本難病看護学会学術集会のご案内	難病と在宅ケア 7 月号	全国	令和 6 年 6 月
	第 29 回日本難病看護学会学術集会のご案内	難病と在宅ケア 8 月号	全国	令和 6 年 7 月
永 谷 実 穂	ひるラジ！ 静岡情報館 女性健康相談室の紹介	FM-Hi!	地方版	令和 6 年 5 月
福 島 恭 子	知ってほしい、骨盤臓器脱のこと【前編】	SimSimWeb	全国	Web マガジン
	知ってほしい、骨盤臓器脱のこと【後編】	SimSimWeb	全国	Web マガジン
佐 藤 理 乃	老年看護学領域の発展看護実習で行ったアクティブシニアを対象にした健康教育	静岡新聞	地方版	令和 6 年 8 月
宮 澤 典 子	老年看護学領域の発展看護実習で行ったアクティブシニアを対象にした健康教育	静岡新聞	地方	令和 6 年 8 月
栗 田 真 由 美	原点はママの SOS 日本初の「ダブルケア×医療」支援が描く未来	毎日新聞		令和 6 年 12 月

氏名	掲載・出演の内容	掲載・出演のメディア名	全国 / 地方版	掲載・出演日
	県内の医療的ケア児 260 名余と判明 各人に適した支援へ	NHK		令和 6 年 12 月
	逮捕より支援を…相次ぐ“医療的ケア児” 放置 脳性麻痺の子を育てる当事者「明日は我が身」親の孤独や苦悩とは	AMEBA TIMES		令和 6 年 12 月
	原点はママの SOS 日本初の「ダブルケア×医療」支援が描く未来	毎日新聞		令和 7 年 1 月
	子育てに親の介護・・・「ダブルケア」とは	新潟放送		令和 7 年 1 月
	ほっかほか今朝の聞くサプリ ダブルケアラーの支援団体「DC NETWORK」の取り組みについて	笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ		令和 7 年 2 月

10. その他活動

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
篁 宗 一	卒後ナースへのインタビューと心理支援	令和 2 年度～	
	韓国キョンヒ大学との提携に向けた交流	令和 6 年度	
	藤枝市地域政策研究・創造事業にて地域提言	令和 6 年度	
荒 井 孝 子	看護師特定行為研修指定研修運営管理委員会	令和 6 年 4 月～3 月	2 回
	第 29 回日本難病看護学会教育講演座長	令和 6 年 8 月 24 日	
富 安 眞 理	第 29 回日本難病看護学会学術集会市民公開講座 企画・運営	令和 6 年 4 月～9 月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	特定行為研究管理委員会	令和6年度 2回	
	特定行為研修 地域・在宅療養支援論 科目責任者	令和6年4月～9月	
畑 中 純 子	第13回日本公衆衛生看護学会 学術集会一般演題査読	令和6年9月13日～ 9月24日	
太 田 尚 子	講演会開催協力：モーハウス主催「今 どきの母乳育児と支援の実際——コ ロナ禍で母乳育児のニーズはどう変 わった！？」	令和6年7月31日	
	ファシリテーター：東アジアグリーフ の集い	令和6年11月30日・ 12月1日	
	副議長：第36回静岡県母性衛生学会 学術集会 総会	令和7年2月11日	
	座長：静岡県産婦人科医会主催 第1 5回羽衣セミナー レクチャー「今 どきのママへの母乳育児支援」	令和7年2月11日	
	ファシリテーター：第1回周産期緩和 ケアを考える会（東京）	令和7年3月23日	
加 藤 京 里	日本看護技術学会第22回学術集会 示説「排泄ケア」座長	令和6年10月27日	
	第13回静岡県看護学会教育講演座長	令和7年1月11日	
	看護学部附属看護実践センター センター研究員	令和6年4月～ 令和7年3月	
成 瀬 早 苗	「ふじのくに」みらい教育センター地 域貢献事業 「県大生と！学んで、動 いて、今日から楽しくフレイル予 防！」健康教育	令和6年4月～7月	
	看護実践教育研究センター 地域貢 献事業 県大小鹿キャンパスイキイ キフェスタ「イキイキと高齢期を過ご そう！」講座	令和6年4月～8月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
鈴木和香子	難病のこどもネットワーク がんばれ共和国 しぞーかキャンプ実行委員	平成 23 年～	
	静岡県こども食堂ネットワーク 西豊田地区 主催	令和元年～	
永谷実穂	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室	令和 6 年 4 月～9 月、令和 7 年 3 月 各 1 回程度開催	
	シニアメノポーズカウンセラーの活動として「メノマゼンタの会」を開催、一般更年期女性にプチ講座及び座談会	令和 4 年 11 月より継続して奇数月に 1 回、夜間に ZOOM で の開催、令和 6 年 7 月「来・て・こ」にて対面での開催	
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講演会 「これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにー」	令和 6 年 10 月 5 日	
鈴木千智	市町村等保健師管理者能力育成研修の集合研修にて、グループワークに対する助言	令和 6 年 9 月 9 日	
	全国保健師長会静岡県支部研究会にてグループワークに対する助言	令和 7 年 1 月 25 日	
	静岡市新任研修にて、活動報告への講評とグループワークへの助言	令和 6 年 7 月 30 日、 令和 6 年 10 月 25 日	
	日本健康福祉政策学会セミナー 座長	令和 6 年 12 月 14 日	
管原清子	看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
	看護学部附属看護実践教育研究センター主催講座「イキイキと高齢期を過ごそう！」の企画運営主担当	令和 6 年 4 月～ 令和 6 年 9 月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	静岡県立大学小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催講座「これからの女性の健康を考えよう」の企画運営分担	令和6年4月～ 令和6年10月	
前野真由美	外国人のための無料健康相談と検診会 チャリティコンサート（8月25日、於：静岡英和女学院）外国人のための無料健康相談と検診会 準備、当日（10月20日、於：静岡済生会総合病院）ボランティアとして参加、活動した。	令和6年8月～10月	
加納江理	浜松市神経難病支援者の会：神経難病療養者のケアに関わる医療・介護・福祉の専門職を対象に研修等を行い、地域での神経難病療養者への支援スキルの向上を目指して活動している	令和6年4月～ 令和7年3月	
福島恭子	静岡県助産師会 令和6年度南北関東地区研修 in 静岡 受付・誘導	令和6年11月9日	
佐藤瑠美	社会デザイン学会自由論題司会	令和6年12月8日	
三沢萌伽	静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター センター研究員	令和6年4月～ 令和7年3月	
	静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催 BLS プロジェクト	令和6年4月～ 令和7年3月	
	静岡県立大学 オープンキャンパス2024	令和6年8月8日	
	静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催 「令和6年度県民の日 いきいきフェスタ～毎日をイキイキと過ごすために～」 企画運営分担	令和6年4月～ 令和6年9月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	大学入試センター 令和6年度大学入学共通テスト 監督者	令和7年1月18日	
	令和6年度静岡県立大学看護学部/大学院看護学研究科 合同特別講義 「難病療養者と家族を取り残さない 防災・減災ネットワークの形成」 運営補助員	令和7年3月11日	ラウンド テーブル セッション ファ シリテー ター
浅原久恵	大学入試センター 令和6年度大学入学共通テスト 監督者	令和7年1月18日～ 1月19日	
鈴木郁美	第29回日本難病看護学会学術集会	令和6年8月24・25 日	
	「外国人の暮らしの中のケア・ライフ と健康」の会・運営	令和6年12月22日	
	静岡県立大学 看護実践教育センタ ー BLS 講習会担当	令和6年6月～ 令和7年3月	
長谷部美紀	看護学部附属看護実践教育研究セン ター主催 BLS 講習会実技試験の担 当	令和6年6月～ 令和7年3月末	
	外国人のための無料健康相談と検診 会(於：済生会総合病院) ボランテ ィア	令和6年10月20日	
植田春美	外国人のための無料相談会と検診会	令和6年8月～10月	
中村卓樹	看護学部附属看護実践教育研究セン ター主催 BLS 講習会実技試験の担 当	令和6年6月～ 令和7年3月末	
	タイ国コンケン大学の教員が視察に 訪れた際の、領域紹介サポート教員	令和6年10月 22・24日	
佐藤理乃	"「ふじのくに」みらい教育センター 地域貢献事業「県大生と！学んで、 動いて、今日から楽しくフレイル予 防！」健康教育"	令和6年4月～7月	責任者

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	令和 6 年度県民の日地域貢献事業・ 県大小鹿キャンパスいきいきフェス タ～毎日をイキイキとすごすために ～ 講座 2 『 孫育てカフェ ～語ろ う じーじ・ばーばの孫育て～ 』	令和 6 年 7 月 21 日	当日の進 行支援等
宮 澤 典 子	NPO 静岡難病ケア市民ネットワーク	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
池 田 麻 左 子	静岡県立大学看護学部付属 看護実 践教研究センター入試 WG	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	
	静岡県立大学看護学部付属 看護実 践教研究センター センター研究委員 特定行為研修講義・演習	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	
	静岡県立大学看護学部付属 看護実 践教研究センター センター研究委員 BLS 教育訓練	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日	
	県民の日 孫育てカフェ「語ろうジ ーじばーばの孫育て～」	令和 6 年 8 月 21 日	
	静岡市静岡中央子育て支援センター 子育て相談	令和 6 年 8 月 27 日	
	市民講座 孫育てカフェ「語ろうジ ーじばーばの孫育て～」	令和 6 年 9 月 8 日	
	国際交流 韓国・台湾・日本の研究者・ 実践者との意思決定支援 ディスカ ッション	令和 7 年 2 月 8 日	
	国際交流 タイ国コンケン大学の教 員 8 名との交流	令和 7 年 3 月 7 日	
	静岡ホームクリニック 地域還元祭 孫育て相談会	令和 7 年 3 月 22 日	
丸 山 始 美	静岡県立大学看護学部附属看護実践 教育研究センター センター研究	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	
	静岡県立大学看護学部附属看護実践 教育研究センター主催 BLS プロジェクト	令和 6 年 4 月～ 令和 7 年 3 月	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	国際交流 タイ国コンケン大学の留学生 3 名の静岡県立こども病院の視察の引率	令和 6 年 5 月	
	静岡県立大学 オープンキャンパス 2024	令和 6 年 8 月 8 日	
	静岡県立大学看護学部附属看護実践教育研究センター主催 令和 6 年度県民の日 いきいきフェスタ～毎日をイキイキと過ごすために～運営補助員	令和 6 年 8 月 20-21 日	準備・受付・片付け支援
	令和 6 年度第 1 回県立特別支援学校看護師等研修会「子どもへの AED」の講師支援員	令和 6 年 4 月 1 日	
大和田裕美	Goto 産婆～地域助産師とのおしゃべり会～の企画・運営	令和 6 年 6 月 8 日	静岡市助産師会共催
	令和 6 年度助産師国家試験全国統一模擬試験問題・解説の校閲	令和 6 年 7 月 1 日～ 令和 7 年 2 月 21 日	
	看護実践教育研究センターBLS プロジェクト	令和 6 年 8 月～3 月(4 日間)	
	共感セッションプログラム「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」の開催	令和 6 年 8 月 10 日	NPO 法人 place of peace 共催
	県大小鹿キャンパスいきいきフェスタにて「孫育てカフェ～語ろう じーじ・ばーばの孫育て～」の開催	令和 6 年 8 月 21 日	
	「子育てパパのおしゃべり交流会」の開催	令和 6 年 9 月 7 日	令和 6 年度 藤枝市地域政策研究・創造事業

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	「孫育てカフェ～語ろう じーじ・ばーばの孫育て」の開催	令和 6 年 9 月 8 日	
	これからの女性の健康を考えようー生き生きとステキに年を重ねるためにーの運営補助	令和 6 年 10 月 5 日	小鹿キャンパス健康支援センター女性健康相談室主催
	「アラフォーママの子育て&健康講座」の開催	令和 6 年 11 月 16 日	令和 6 年度 藤枝市地域政策研究・創造事業
	日本助産師会南北関東地区研修会の運営補助	令和 6 年 11 月 9 日	
	共感セッションプログラム「もうすぐ赤ちゃんがやってくる」の開催	令和 7 年 2 月 8 日	NPO 法人 place of peace 共催
長 屋 和 美	地域助産師との交流会ーGo to 産婆ー「助産師になりたい」	令和 6 年 6 月 8 日	母性教員で担当
	藤枝市地域政策研究・創造事業「子育てパパの交流会」	令和 6 年 9 月 7 日	母性教員で担当
	日本助産師会令和 6 年度南北関東地区研修 in 静岡 補助業務	令和 6 年 11 月 9 日	母性教員で担当
	医療的ケアが必要な子どもをもつ母親としたオンライン交流会	令和 7 年 2 月 22 日、3 月 22 日	
池 田 美 音	令和 6 年度 藤枝市地域政策研究・創造事業 研究課題名：未来につながる女性とこども・家族の健康支援	講座開催：全 2 回(9 月 4 日、11 月 16 日) 報告会：3 月 5 日	
高 橋 明 味	Goto 産婆～地域の助産師とおしゃべり会～ の企画・運営	令和 6 年 6 月 8 日	

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	県民の日県大小鹿キャンパスいきいきフェスタで 楽しく学ぼう！防災は「じぶんごと」 講座の企画・運営	令和 6 年 8 月 21 日	
	藤枝市地域政策研究・創造事業 令和 6 年度採択事業子育てパパのおしゃ べり交流会の企画・運営	令和 6 年 9 月 7 日	
	日本助産師会令和 6 年度南北関東地 区研修 in 静岡における受付・誘導	令和 6 年 11 月 9 日	
	藤枝市地域政策研究・創造事業 令和 6 年度採択事業アラフォーママの子 育て&健康講座の企画・運営	令和 6 年 11 月 16 日	
	「共感セッションプログラム もう すぐ赤ちゃんがやってくる」の運営補 助	令和 6 年 2 月 8 日	
	看護実践教育研究センター BLS プ ロジェクト	令和 6 年 8 月 1 日 28 日、令和 7 年 2 月 26 日 28 日	
小 泉 祐 貴	第 26 回いのちの教育学会研究大会 教育講演座長	令和 6 年 2 月 15 日	
	静岡県立こころの医療センター 看 護研究指導 非常勤講師	令和 6 年 8 月～令和 7 年 12 月	
佐 藤 浩 一	第 26 回いのちの教育学会研究大会 座長	令和 7 年 2 月 15 日	
榎 みのり	タイ国立コンケン大学看護学部交換 留学生への見学実習のサポート	令和 6 年 5 月 23 日	
	タイ国立コンケン大学看護学部教員 の視察への支援(資料準備・調整)	令和 7 年 3 月 6 日	
栗 田 真 由 美	医療専門職による育児と介護のダブ ルケアラー支援団体 DC NETWORK によるダブルケアラー当事者及び支 援者を対象としたオンラインカフェ 主催	令和 6 年 4 月 19 日、 7 月 19 日、令和 7 年 2 月 1 日	Web

氏名	活動の種類と活動内容の説明	活動期間	備考
	御前崎市重層的支援体制整備会議	令和 6 年 8 月 19 日	対面
	湖西市重層的支援体制整備会議及び 研修	令和 6 年 5 月 13 日、 8 月 19 日、令和 7 年 1 月 20 日	対面

11. 県民の日

これまで草薙キャンパス看護学部棟にて、担当領域教員による展示や体験型プログラムを企画していたが、令和 5 年度は小鹿キャンパスにて「県大小鹿キャンパスいきいきフェスタ」を企画、開催した。看護学部教員・学生による高齢男女、更年期女性、中高年女性の各対象者別プログラムと、静岡済生会総合病院と食品栄養科学部の相談ブース招致により、延べ 151 名の県民の参加を得た。具体的には、①「イキイキと高齢期を過ごそう」、②「楽しく更年期とつきあおう!」、③「骨盤内臓器脱予防&上手なつきあい方」の 3 プログラムを開催したが、各講座への参加満足度は高く、次回開催への要望も多く聞かれた。また、事業に関わった学生有志の対応について、参加者からの感謝の声も聞かれ、学生が地域住民と交流する機会となり、看護職としての意識醸成にもつながった。

12. 高大連携による講師派遣

学校名	派遣教員	テーマ	学年	人数	派遣日
富士東高等学校	鈴木和香子	しののめ探求発表会	1～3	40	
静岡県立沼津西高等学校	近 藤 美 保	精神看護学	1,2	74	令和 6 年 9 月 24 日
静岡県三島南高等学校	中 岡 正 昭	最先端の医療技術に 求められる看護と 最先端の看護教育	1～3	64	令和 6 年 9 月 10 日
静岡県立掛川西高等学校	長谷部美紀	いろいろな場所で活 躍できる看護職	1,2	60	令和 6 年 9 月 5 日
富 士 東 高 校	宮 澤 典 子	静岡県立大学の看護 学部と看護師の仕事 について	1～3	40	令和 6 年 7 月 24 日
静岡県立静岡東高等学校	池田麻左子	人の生命にかかわる 看護職と看護学	1,2	72	令和 6 年 9 月 11 日
静岡理科大学 星陵高等学校	丸 山 始 美	看護師に必要な知識 や技術	1,2	48	令和 6 年 10 月 31 日
富士宮西高校	梁 川 明	病気を持つ子どもを 支える看護	1,3	67	令和 6 年 7 月 23 日
富士市立高等学校	高 橋 明 味	いのちを支える看護 師の仕事	2	51	令和 6 年 7 月 12 日
静岡県立三島北高校	小泉 祐貴	高大連携 出張講義	1	30	令和 6 年 9 月 30 日
静岡市立高校	佐藤 浩一	高大連携 出張講義	1,2	76	令和 6 年 12 月 13 日

13. 公開講座等の開催状況

令和 6 年度特別講義実施状況

	開催日	講義の名称	講師	参加者・人数
1	6/24 (月)	患者体験は看護の強力なエビデンス	尾池和夫	教員、院生、学部生 20 名
2	8/23 (金)	臨床判断ルーブリックを活用した外国における看護教育 (学部)	キャシー・ラサター	教員、院生、学部生 102 名
3	8/23 (金)	臨床判断ルーブリックを活用した外国における看護教育 (研究科)	キャシー・ラサター	教員、院生、学部生 102 名
4	11/14 (木)	認知症とせん妄、うつ病を見分ける	小川朝生	教員、院生、学部生 125 名
5	11/27 (水)	予防接種・ワクチン：コロナウイルス感染症を含めて	岡部信彦	教員、院生 52 名 (オンライン)
6	12/11 (水)	看護技術の基礎研究から介入・普及の研究について	大久保暢子	教員、院生、学部生 11 名
7	1/20 (月)	無形の震災 (唐山地震の記録) ～震災の記憶を抱えて生きるということ～	尾池和夫	教員、学部生 123 名
8	1/29 (水)	社会的養護の現状と課題、および多様な家族への出産ケアに関する知見を得る	白井千晶	教員、学部生 その他 17 名
9	2/ 7 (金)	GTA を学ぶ	西名諒平	教員、院生 16 名
10	2/ 15 (土)	ギャンブル・ゲーム依存回復支援施設～山梨モデルについて～	坂本拳	教員、院生、学部生 20 名
11	2/19 (水)	エビデンスに基づく急性期病院における終末期ケアの実践	立野淳子	教員、院生、学部生 41 名
12	3/4 (火)	国際協力における母子保健分野の研究と実践	金子佳世	教員、院生 22 名
13	3/11 (火)	アクティブに学んでみよう！	石田千絵	教員、院生 23 名
14	3/ 11 (火)	共生型福祉に基づく災害・減災支援：難病患者への支援が示す地域結束の重要性	野中美保子	教員、学部生 23 名
15	3/24 (月)	DM 〈Shared Decision Making〉 とは何か：EBM の原点からその先へ	中山 健夫	教員、院生 24 名 (オンライン)

IX.看護学部附置看護実践教育研究センターの活動について

1. 看護実践家に対するリカレント教育プログラムの提供

【看護職のための看護研究セミナー「スタートアップ現場発想の看護研究」】

(講師：操教授、富安教授、林教授、運営サポート：林)

第1回 2024年6月15日(土) 14:00~17:00 リサーチクエスションの設定【8名(5名)】

第2回 2024年8月3日(土) 14:00~17:00 文献入手と整理のコツ【6名(3名)】

第3回 2024年9月7日(土) 14:00~17:00 統計を用いた分析の基礎【7名(4名)】

第4回 2024年11月30日(土) 14:00~17:00 研究計画書の作成ーグループワーク【対面：3名】

＊第1回から第3回はハイブリッド開催(括弧内はそのうちのオンライン参加者数)

【看護職のための看護研究セミナー「統計解析の方法と解析結果の活用」】

(講師：堀准教授、運営サポート担当：林)

第1回 2024年10月5日(月) 13:00~16:30 看護研究における統計学の基礎【対面：3名】

第2回 2024年12月7日(月) 13:00~16:00 解析結果の読み方・活かし方【対面：5名】

【看護職のための看護倫理セミナー「看護職として大切にしていること」】

(講師：山下教授・鈴木_子准教授)

第1回 2024年9月28日(土) 13:30~16:00 基礎編：物語で紐解く看護の倫理【12名】

第2回 2024年11月16日(土) 13:30~16:00 応用編・事例検討【8名】

【看護管理者のためのキャリア開発セミナー「看護力の高い組織を育てる力を養う」】

(講師：竹熊教授、運営サポート：大和田、林)

第1回 2024年6月13日(木) 18:00~20:00 リーダーシップの基礎【オンライン：9名】

第2回 2024年8月21日(水) 18:00~20:00 問題分析の方法【オンライン：9名】

第3回 2024年11月16日(土) 10:00~12:00 組織変革に役立つ基礎知識【対面：9名】

＊第1回・第2回はオンライン開催

本センターが主催する事業について、チラシの作成・配布とともに各実習施設等にも声かけを行った。同一施設からの受講者が多いコースもあったが、いずれのコースにおいても熱心に受講された。

2. 看護学教育研究に関する国際交流の推進拠点としての活動

看護学部内で所掌している国際交流事業について、令和6年12月より看護実践教育研究センターに国際交流担当を置き、活動を推進していくことになった。それ以前の活動を含めて報告する。

予てより相互に実施している国際保健看護実習としてタイ国コンケン大学看護学部学生3名の受け入れ（5月）、タイ国コンケン大学看護学部教員の成人・老年看護学を中心とした視察・研究交流の受け入れ（10月）を行った。8月には在宅看護学領域と協働し米国の看護研究者（キャンシー・ラサター博士）を招聘した大学院特別講義「米国の免許前教育における臨床判断」を開催した。また、今年度は国立研究開発法人科学技術振興機構からの交流事業・さくらサイエンスプログラム2024を2件受け入れた。1件は県庁が申請したプログラム“「防災県静岡」で学ぶ防災教育・災害看護”についてインドネシアのインドネシア大学と本学の協定校であるパジャジャラン大学から看護教員・大学院生・学部生など合計8名（12月）、1件は本学国際看護学根岸講師が申請したプログラム“高齢社会と災害対策における看護教育”についてタイ国コンケン大学看護学部教員8名（3月）を受け入れた。

教員特別研究費を活用した米国聖アンソニー大学等の視察について小児看護学助教2名、タイ国コンケン大学看護学部国際看護学実習に帯同した小児看護学助教1名と看護学研究科修士課程の学生1名、モンゴル国立医科大学看護学部（ウランバートル）に国際看護学教授および環境看護学教授が現地で研究者交流と看護学部・研究科での教育を行った。今年度に学部間協定を締結した韓国慶熙大学看護科学部については、協定締結時に学部長、研究科長、国際看護学教授の3名が訪韓した。12月には、成人看護学教授1名および助教1名が慶熙大学看護科学部を訪問し、シミュレーション教育部門の視察と指導教授との意見交換を実施した。また、ベルギー王国アルテベルデ応用科学大学医療ケア学部においては、5月に国際看護学教授が現地に赴き学部間協定を締結し、2025年1月には同教授が短期大学教授と共に大学間協定を締結し、さらなる広域な国際教育・研究交流が始まった。

COIL授業においては、6月に「発展看護実習（国際看護）」で米国オレゴン健康科学大学看護学部と協働で1回、7月に看護学部2年生必修科目「国際保健・災害看護論」で、タイ国コンケン大学看護学部とオレゴン健康科学大学と協働で1回を実施した。

3. 特定行為研修について

1) 特定行為研修 指定研修機関の申請

令和2年11月17日付けで、保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令（平成27年厚生労働省令第33号）第6条の規定に基づき、指定研修機関の指定申請を行った。

2) 指定研修機関の指定

令和 3 年 2 月 22 日付け厚生労働省発医政 0222 第 2 号をもって、保健師助産師看護師法（昭和 23 年法律第 203 号）第 37 条の 2 第 2 項第 5 号に規定する指定研修機関として指定された。また、保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項第 1 号に規定する特定行為及び同項第 4 号に規定する特定行為研修に関する省令（平成 27 年厚生労働省令第 33 号）別表第 4 備考第 5 号に係る領域別パッケージ研修の実施について認定された。

特定行為区分（6 区分）

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

ろう孔管理関連

創傷管理関連

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

領域別パッケージ研修（1 領域）

在宅・慢性期領域

区分別研修

呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

感染に係る薬剤投与関連

3) 看護師特定行為研修 研修生の募集

令和 7 年度入講生の募集について、一次募集は令和 6 年 7 月 29 日～8 月 16 日を出願書類受付期間とし、1 名の応募があり、入講審査の上、1 名を合格とした。定員 5 名を充足するために、二次募集は令和 7 年 1 月 14 日～2 月 10 日を出願書類受付期間とし、3 名の応募のうち 3 名が受験し、入講審査の上、3 名を合格とした。令和 7 年度研修生は 4 名と確定した。

4) 看護師特定行為研修の実際

(1) 共通科目と区分別科目の研修

令和 6 年 4 月 2 日（火）研修生 4 名の入講式を行った。研修オリエンテーションやガイダンスを実施し、早速共通科目及び独自科目の研修から開始した。研修は、e-ラーニングによる受講、web によるオンライン授業、オンデマンド授業の視聴等により順調に進み、7 月には対面による演習を行った。区分別科目については、在宅・慢性期領域パッケージ研修および選択科目であるインスリン投与量の調整について、共通科目同様に e-ラーニングによる受講、web によるオンライン授業および実技演習等を実施した。区分別科目においては

特定行為に関する実技があるため、外部講師による胃ろうチューブの交換、気管カニューレの交換、デブリーメント、エコー機器の操作など具体的な行為について演習を実施した。選択科目の履修を終了したところで OSCE を実施し、合格に達したことを確認した。

(2) 外部施設における臨地研修

8 月より特定行為研修の臨地研修を開始した。研修生が所属しているあるいは研修協力が得られている施設を基本として研修を開始した。今年度は研修生の地域性に基づき、静岡済生会総合病院、白萩病院、伊豆保健医療センター、するがホーム E クリニック、コミュニティーホスピタル甲賀病院、榛原総合病院、静岡県立こども病院での研修を行った。症例不足については、研修協力機関である公益社団法人有隣厚生会富士病院に研修を受け入れていただいた。研修生は、業務の傍ら、自ら研修調整を行い、積極的な学習ができた。12 月末までに規定の症例数を研修することができ、研修の到達基準を満たしたため臨地研修を終了した。研修中は、メンターを担当する教員から適宜面談指導を受けながら、指定された学習、記録等に取り組んだ。

(3) 東海北陸厚生局への手続き

令和 6 年 4 月に担当教員の変更を含めた変更申請を行った。令和 7 年 1 月 17 日の研修修了に伴い、研修生各自が修了の届出を実施した。以後、年度報告および令和 7 年 4 月のカリキュラムの追加、講師の変更および研修施設の追加に伴う変更申請を予定している。

4. 静岡県立大学 BLS 資格取得強化プロジェクトの発足

令和 6 年度より、急性・重症患者看護専門看護師である成人看護学・中岡正昭助教および小児看護専門看護師である小児看護学・池田麻左子助教を中心とする、BLS (Basic Life Support) 研修企画に賛同する看護学部助教会有志の 14 名で構成するチームで活動した。

BLS プロバイダーの資格は、米国の看護職者では 2 年に 1 回の更新を必要とする国際的な資格である。学生がこの資格を取得することは、3 年次の実習に出る前の学生には自己のスキルの自信を高め、就職活動においても一定の評価を得ることができるだけでなく、就職後の緊急事態対応時にも役立ち、将来的には ACLS・PALS プロバイダー資格を修得する、インストラクターへの近道となる。また、ライセンス期間は 2 年であり、在学中に資格更新をすることも可能であり、学内で実施することで受講費用を安価に抑えることができる。

年 2 回の研修会とし、夏季の 7～9 月、冬季の 2～3 月を実技試験期間とした。初年度である令和 6 年は、全学年を対象にガイダンスを行ったが、3 年生の受講を優先した研修を実施した。また、受講生に対応できるように、本研修のインストラクター養成も並行して行った。

(受講実績)

学年	夏季受講者数 (人)	冬季受講者数 (人)
1 年	16	2
2 年	14	0
3 年	114	0
4 年	0	91
教員	15	0
合計	159	93

(研修担当者) ◎リーダー、○サブリーダー

◎中岡正昭 (成人看護学)、○池田麻左子、丸山始美、梁川 明 (小児看護学)、
長谷部美紀、鈴木郁美、中村卓樹 (成人看護学)、大和田裕美、池田美音、高橋明味
(母性看護学)、小泉祐貴、佐藤浩一 (精神看護学)、三沢萌伽 (基礎看護学)、佐藤理乃
(老年看護学)

5. その他、センターの運営事業実績

(1) 看護実践教育研究センター共催事業 (地域貢献事業) について

学部広報企画委員会とともに県民の日事業を実施した (詳細は広報企画委員会の報告を参照)。地域住民への募集や広報活動を早めに開始することを意識し、地域公民館、自治会等も含んだ周知活動を行った。どの事業も参加者の評価は大変好評であった。特に事業に学生が参加していることが地域住民の方々に好評であり、一部の学生については発展看護実習の場としても活用することができた。

(2) 特別支援学校等看護職員研修会について

小児看護学鈴木和香子准教授を事業受け入れ窓口とし、小児看護学講座を中心として研修の運営および会場の支援を行った。

① 県立特別支援学校の看護師研修

- ・第1回 令和6年4月1日 (月) 13:00~16:00
- ・第2回 令和7年3月24日 (月) 13:00~16:00

② 県立特別支援学校看護師の人工呼吸器管理研修

- ・令和6年8月5日 (月)、6日 (火)、9日 (金) (3日間) 9:00~16:00

③ 静岡市学校看護師 人工呼吸器研修

- ・令和6年8月26日 (月) 9:00~15:00

(3) 主たる実習施設への講師の派遣

- ・静岡県立総合病院 臨床研究倫理委員会 (病院・看護部) (成人看護学教授 山田紋子)

- ・静岡県立総合病院 看護研究指導（成人看護学教授 林 みよ子）
- ・静岡県立総合病院 看護管理者研修（国際看護学教授 竹熊カツマタ麻子）
- ・静岡県立こども病院 看護研究研修（小児看護学教授 山下早苗）
- ・小鹿病院研修会講師「ナラティブを学び、臨床現場で活用しよう」（成人看護学教授 山田紋子）

（4）各種講座の共催・後援

【共催】

- ・女性健康相談室主催「これからの女性の健康を考えよう—生き生きとステキに年を重ねるために—」

期間： 令和 6 年 10 月 5 日（土）13：00～16：30

会場： 小鹿キャンパスオンライン（Zoom）

参加者：静岡県内在住の 30 歳以上の女性 28 名（会場 24 名、ZOOM 4 名）

【後援】

- ・藤枝市地域政策研究・創造事業

（1）子育てパパのおしゃべり交流会

日時：令和 6 年 9 月 7 日（土）10：00～11：30

会場：藤枝市産官学連携推進センターBivi キャン

参加者：小学生までの子どもを育てている父親 4 名

（2）アラフォーママの子育て&健康講座

日時：令和 6 年 11 月 16 日（土）10：00～11：40

会場：藤枝市産官学連携推進センターBivi キャン

参加者：妊娠中から子育て中の 30～40 代の女性 6 名

- ・静岡ホームクリニック地域還元祭特設ブース「孫育て相談会」相談員

講師：池田麻左子（小児看護学助教）、大和田裕美（母性看護学助教）

日時：令和 6 年 3 月 22 日（土）11：00～13：00

会場：アピタ静岡店 センターコート

参加者：地域住民

（5）次年度の事業開催準備について

令和 7 年度事業は、令和 6 年度までの実施状況を鑑みた開講準備を進めている。すでに固定した看護研究セミナー、看護管理セミナー、看護倫理セミナーに加えて、看護研究セミナーの 1 つとして研究成果の発表を促進する「パワーポイントで作成したスライドでプレゼンテーションしてみよう！」を、新たに看護職のためのメンタルヘルスセミナーとして「怒りとうまく付き合う方法」を企画している。なお、「怒りとうまく付き合う方法」については、令和 7 年度は無料受講とする。